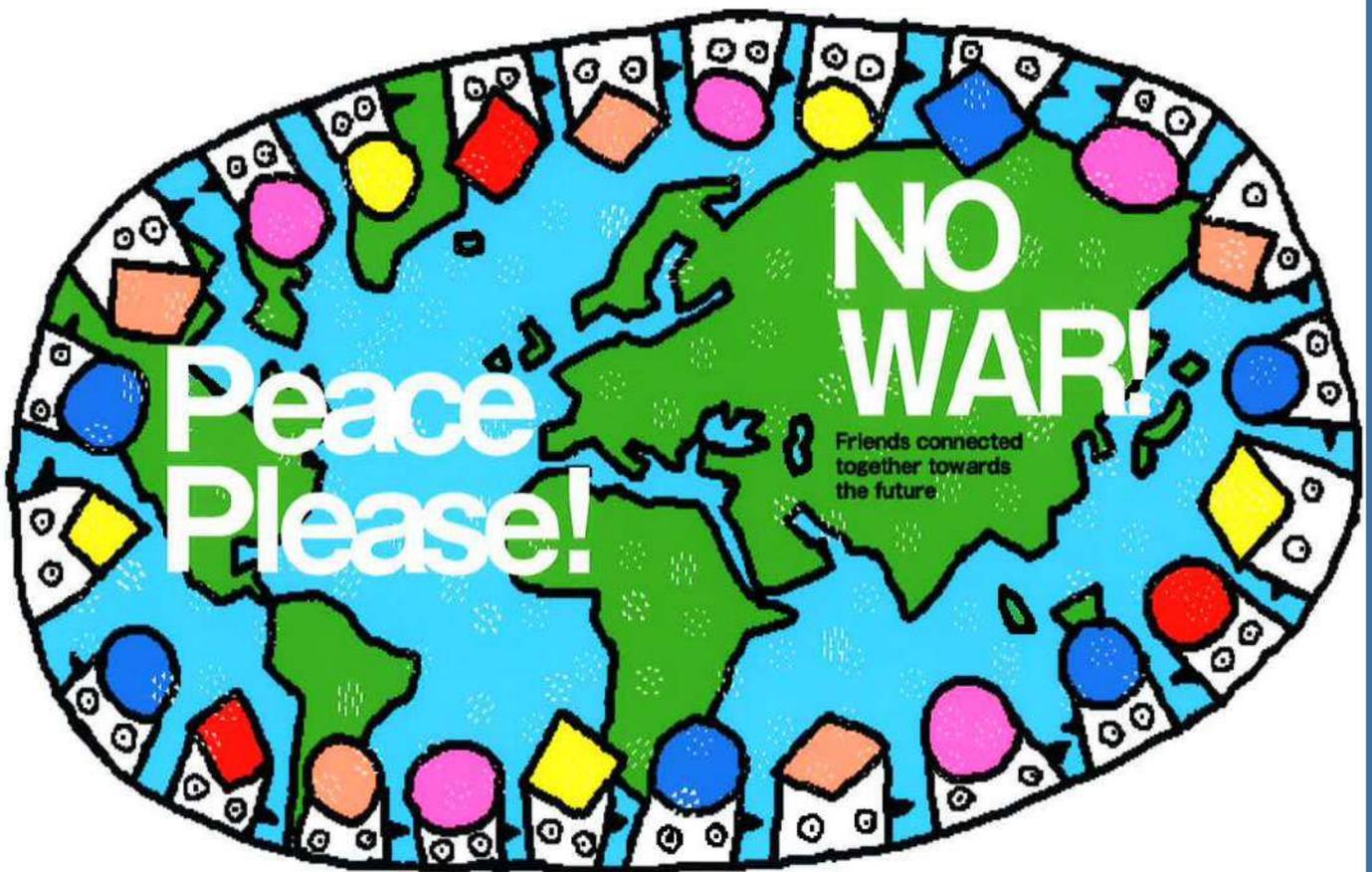




第 19 回日本の次世代リーダー養成塾

報 告 書

開催日程 2022年7月26日～8月8日



Index

Contents

	Page
1. 第19回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2. 主催者からのメッセージ	4
3. 開催概要	5
4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5. 講義概要	10
6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	20
7. 塾を支えるスタッフ	29
8. カリキュラム	38
9. 新型コロナウイルス感染症への対応	50
10. 参画道県・市の声	56

【資料】

① 塾生アンケート調査結果	60
② 保護者・学校アンケート調査結果	67
③ 塾生概要	73
④ 塾生高校一覧	74
⑤ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿	75

(巻末) ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

1. 第19回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

今年はどうしても2週間、福岡県宗像市のグローバルアリーナと佐賀県波戸岬少年自然の家で高校生とのリアル開催に臨みたい。昨年は、途中で陽性者が出て全員を帰してオンラインに切り替えたが、今年は昨年の反省から感染防止策を綿密に立てたことや、昨年に比べて感染に対する政府や地方自治体の考え方も変わったことから、陽性者が出たものの、陽性者や濃厚接触者は宿泊施設、自宅、療養施設などでオンラインで参加し、待機期間が終了したらリアルに参加するという措置をとりながら2週間リアル開催を貫徹することができました。ここにご協力いただいた福岡県、佐賀県、宗像市、保健所、グローバルアリーナ、波戸岬少年自然の家、参画自治体ら関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

私は、世界55カ国の高校生を対象とした交換留学団体公益財団法人AFS日本協会の理事長も務めています。コロナの感染が拡大して3年、多くの高校生が留学を断念する姿を見てきました。一方で、コロナ禍の中でも行ける国にチャレンジする果敢な高校生たちもいます。やはり、パソコンやタブレットを通して行われる交流や研修では、そこに行かないと分からない匂い、色彩、音などを感じることはできません。ましてや人と人が実際に喜怒哀楽を表し、切磋琢磨することほど大切なことはありません。高校生活はたった3年。「不可能はない。実行できるように考え抜こう」とギリギリまで粘って、機会が提供できるように事務局一同、努力を重ねました。

今年、私たちに突きつけられた難題はコロナだけではありませんでした。ロシアのウクライナ侵攻。人類は、けっして戦争をしてはいけないことを第二次世界大戦で学んだはずなのに、なんて愚かなことでしょうか。そこで2週間かけて議論する「アジア・ハイスクール・サミット」の今年のテーマは戦争と平和の問題にしました。「戦争はなくせるか一次世代がつくる平和への道しるべ」というタイトルで7つのクラスに分かれて戦争をなくし、平和を構築するための具体策を激しく考えました。

日本政府奨学金「アジア高校生架け橋プロジェクト」やAFSのプログラムで来日したアジアや欧州の留学生14カ国・1地域23人と、「アジア架け橋生」として2020年に来日し翌年起きた軍事クーデターで帰国できなくなり、その後立命館アジア太平洋大学に進学したミャンマー生が途中2泊3日塾に参加し、日本の高校生と交流をしました。

そして、マレーシアのマハティール元首相に塾生や留学生が策定した戦争をなくすための方策を聞いていただいたうえで、「戦争はなくせるか一次世代が果たす平和への貢献」と題して講義をしていただきました。塾生や留学生からの発表に対して、マハティール元首相は「これからの世界を背負って立つみなさんが一生懸命議論して、練りあげられたアイデアはとても貴重です。どうしたら戦争を避けることができるのか。戦争とは今まで人々が築き上げたものを破壊し尽くすもので、残念ながらそこには勝者も敗者もいません。対立が起きたとき、人を殺すのではなく交渉、国際法などを活用しながら解決策を模索していくことが重要です」と第二次世界大戦を経験し、戦後、英国の統治下から国の独立のために立ち上がり、1981年に首相に就任した直後に国是として、日本人の勤勉さから学ぶ「ルック・イースト政策」を導入して、マレーシアの発展に尽くしてきた97歳のマハティール元首相だからこそ語っていただける内容の講義をしていただきました。

日本の塾生たちは、マハティール元首相、明石康元国連事務次長の講義を英語で聞き、留学生が母国語のみならず、英語や日本語を駆使する姿に最低限英語、さらに他の言語が理解できなくては世界に飛び出して様々な分野で活躍することはできないと痛感しました。入塾当初は留学したいと手を挙げる塾生は少なかったのですが、最後にはほとんどの塾生が将来、海外に出たいと手を挙げました。

閉塞感漂い、世界各国で行われる国政選挙で極右や内向きな政党が台頭する時代に突入しています。次世代へのグローバル教育がいかに必要か、今年ほど痛切に感じた年はありませんでした。

日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長 加藤暁子





2. 主催者からのメッセージ

十倉 雅和 塾長（一般社団法人日本経済団体連合会 会長）



コロナ禍の中、今、世界は行き過ぎた資本主義による格差の拡大、地球温暖化による生態系の破壊、保護主義やポピュリズムの台頭による地政学リスクの高まり、民主主義の危機など、多くの問題が顕在化しています。こうした経済や社会の状況を受け、サステイナブルな資本主義への期待が高まっています。私は、市場経済の中に社会性の視点を投入する「ソーシャル・ポイント・オブ・ビュー」が大切であると考えています。

自国だけで対応することのできない地球温暖化、パンデミックに代表される生態系の破壊、人類が制御できなくなる恐れのある AI などのデジタル技術に対して、今こそ、国際協調が急務です。コロナ後の時代、わが国は自由・民主主義・人権・法の支配といった価値観を共有できる国々との連携がこれまで以上に必要となります。

次世代のリーダーを目指す皆さんには、世界に目を向けて、地球環境問題など地球市民として解決しないといけない課題に、切磋琢磨をして、高い志を持って、果敢にイノベティブに挑戦をしていただきたいと思います。まずは、塾で大いに学び、仲間と未来を語り、視野を広げ、たくましい若きリーダーとして、将来、世界を舞台に活躍されることを心から願っています。

「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（2022年7月1日現在、五十音順）

塾長	十倉 雅和	/	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榊原 英資	/	一般財団法人インド経済研究所理事長
筆頭理事	服部 誠太郎	/	福岡県知事
理事	浅野 史郎	/	土屋総研特別研究員・元宮城県知事
理事 (顧問兼務)	麻生 渡	/	元全国知事会会長・ 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問
理事	石原 進	/	九州旅客鉄道株式会社特別顧問
理事	伊豆 美沙子	/	福岡県宗像市長
理事	川勝 平太	/	静岡県知事
理事	鈴木 直道	/	北海道知事
理事	高橋 温	/	三井住友信託銀行株式会社名誉顧問
理事	滝 久雄	/	株式会社ぐるなび取締役会長・創業者 株式会社NKB取締役会長・創業者
理事	達増 拓也	/	岩手県知事
理事	中村 時広	/	愛媛県知事
理事	仁坂 吉伸	/	和歌山県知事
理事	橋田 紘一	/	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理事	古田 肇	/	岐阜県知事
理事	松尾 新吾	/	九州電力株式会社特別顧問
理事	溝上 泰弘	/	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理事	三村 申吾	/	青森県知事
理事	宗政 寛	/	株式会社サニックス代表取締役社長
理事	山口 祥義	/	佐賀県知事
専務理事 (事務局長兼務)	加藤 暁子		

3. 開催概要

1 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：十倉 雅和／一般社団法人日本経済団体連合会会長

2 開催日程

2022年7月26日(火)～8月8日(月)

3 開催・宿泊施設

グローバルアリーナ（福岡県宗像市吉留46-1）

佐賀県波戸岬少年自然の家（佐賀県唐津市鎮西町名護屋5581-1）

※自然の家は7月30日（土）～8月2日（火）の3泊4日で宿泊

4 塾生

対象：高校生（1年生～3年生） 140名

内 訳	参画道県・市推薦枠 (北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県 福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市)	110名
	全国からの一般公募枠	30名

5 カリキュラム概要

① 各界を代表する講師陣による講義

- **教養系**（哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）

日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。

- **ビジネス系**（日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）

世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。

- **国際系**（国際問題や外交、国連やNGO活動への理解）

世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。

- **人間学**（将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）

人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

② 講義後のディスカッション

講義終了後にクラス担任の指導のもと、1クラス約20名によるグループディスカッションを行います。クラス担任は、日本を代表する企業の中堅社員が務めます。

③ プロジェクト型企画「アジア・ハイスクール・サミット」

2週間を通して社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「アジア・ハイスクール・サミット」を開催します。

④ フィールドトリップ

佐賀県立名護屋城博物館で日本列島と朝鮮半島間の歴史を学びます。

宗像大社神宝館で世界遺産である沖ノ島で発掘された国宝（8万点の一部）などを見学

株式会社安川電機で世界最先端のロボットの製造現場などを見学

北九州市地球環境ミュージアムで北九州市の公害克服の歴史から環境への取り組みを見学

4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
7/27 (水)	<small>さかきばら えいすけ</small> 榊原 英資 一般財団法人インド経済研究所理事長、元財務省財務官	10 ページ
	<small>あそう わたる</small> 麻生 渡 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問、元全国知事会会長 対談「混沌とした時代に求められる次世代リーダー像とは」	
7/28 (木)	<small>かとう あきこ</small> 加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人A F S日本協会理事長 「“Warm Heart Cool Head”で激動の時代を切り拓くリーダーに」	11 ページ
	<small>あかし やすし</small> 明石 康 元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長 「世界の中の日本—もっと外に開く国に」 “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”	
	<small>かきた ふみえ</small> 柿田 富美枝 長崎原爆被災者協議会事務局長 「被爆2世からのメッセージ」	
	<small>あしづ たかゆき</small> 葦津 敬之 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」	
7/29 (金)	<small>やまもと たろう</small> 山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授 「With コロナ～新たな社会の見取り図」	12 ページ
	<small>むらかみ だいき</small> 村上 大樹 国境なき医師団外科医師 「国際医療・人道援助活動の現実と課題」	
	<small>ささき くみこ</small> 佐々木 久美子 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長 「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」	
7/30 (土)	<small>やまぐち よしのり</small> 山口 祥義 佐賀県知事 「未来をつくる君たちへ」	13 ページ

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
7/31 (日)	<small>たけたに かずひこ</small> 武谷 和彦 佐賀県立名古屋城博物館学芸課長（学芸員） 「肥前名護屋城と名護屋城博物館」	13 ページ
	<small>さほし りょう</small> 佐橋 亮 東京大学東洋文化研究所准教授 「世界の人々の平和と繁栄をどうすれば実現できるのか？」	13 ページ
	<small>り ぼんう</small> 李 鳳宇 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、株式会社スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師 「映画で日本の将来を考えよう」	14 ページ
	<small>ちん じゅかん</small> 沈 壽官 薩摩焼 15代 「伝統を守り現代を表現する」	14 ページ
8/2 (火)	<small>あみおか けんじ</small> 網岡 健司 八幡東田まちづくり連絡協議会会長、NPO 法人里山を考える会理事 「世界進化遺産 八幡東田ものがたり」	14 ページ
	<small>つだ じゅんじ</small> 津田 純嗣 株式会社安川電機特別顧問 「日本の製造業の歴史と未来」	15 ページ
8/3 (水)	<small>みなみの しげる</small> 南野 森 九州大学法学部教授 「憲法と平和を考えるために」	15 ページ
	<small>むらおか こうじ</small> 村岡 浩司 株式会社一平ホールディングス代表取締役社長 「ローカルからの新しい価値を生み出そう～九州パンケーキの挑戦～」	15 ページ
	<small>こてがわ きょうじ</small> 小手川 強二 フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長 「発酵食品が繋ぐ国際化」	16 ページ
8/4 (木)	<small>むらふし きみこ</small> 室伏 きみ子 お茶の水女子大学名誉教授、同大前学長 「人々の心身の健康と幸せを目指す研究・開発と研究者の役割」	16 ページ
	<small>むらき あつこ</small> 村木 厚子 津田塾大学客員教授、元厚生労働省事務次官 「事件から学んだこと～組織の在り方・人の生き方～」	16 ページ

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
8/5 (金)	<p>いちかわ かな 市川 加奈 Relight 株式会社代表取締役社長</p> <p>「日本の貧困問題から考える、誰一人取り残さない社会のつくりかた」</p>	17 ページ
	<p>かさや かずひこ 笠谷 和比古 国際日本文化研究センター名誉教授</p> <p>「戦国時代と平和共同体」</p>	17 ページ
8/6 (土)	<p>かわかつ へいた 川勝 平太 静岡県知事</p> <p>「三大『国策』を問う—首都移転・リニア・原発—」</p>	17 ページ
8/7 (日)	<p>マハティール・モハマド マレーシア元首相</p> <p>「戦争はなくせるか一次世代が果たす平和への貢献」</p> <p>“Can War be Abolished? A New Milestone for Peacemaking-How Future Generation can Contribute”</p>	18 ページ
	<p>みやがわ まきお 宮川 真喜雄 前内閣国家安全保障局国家安全保障参与</p> <p>「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。日本のために、アジアのために」</p>	18 ページ
	<p>たき ひさお 滝 久雄 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NKB取締役会長・創業者</p> <p>「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」</p>	18 ページ

第19回 日本の次世代リーダー養成塾 カリキュラム表 (2022年7月26日～8月8日)

朝神路

日付	6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1	7/26 (木)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
2	7/27 (木)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
3	7/28 (木)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
4	7/29 (金)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
5	7/30 (土)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
6	7/31 (日)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
7	8/1 (月)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
8	8/2 (火)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
9	8/3 (水)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
10	8/4 (木)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
11	8/5 (金)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
12	8/6 (土)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
13	8/7 (日)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						
14	8/8 (月)	朝食	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義						

5. 講義概要

日本のみならず世界で活躍する講師陣にご講義いただいた。また、卒業生 2 名をゲストスピーカーとして招いた。塾生たちにとって、リーダーとしてあるべき姿を学ぶ貴重な時間となった。

(講義順)



榊原 英資 一般財団法人インド経済研究所理事長、元財務省財務官

麻生 渡 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問、元全国知事会会長

対談「混沌とした時代に求められる次世代リーダー像とは」

20 年前この塾を設立した背景に、日本の教育では本当のリーダーが育たないという危機感があった。平等を重要視しすぎたことが原因だと考え、個性を伸ばすことを目的に開塾した。誰にでもリーダーのポテンシャルはある。それを伸ばすために訓練をすることが大事である。自分ができること、やりたいことを発見して、その道を突き進んで欲しい。

また、以前と現在とではリーダーに求められることが変化している。以前の日本は欧米を目標に掲げて追いつくために、やるべきことが見えていた。しかし、日本が世界の先頭に立つような存在になると、見習うべき例がなくなり、目指すべき姿を自分たちで考える必要が出てきた。先を見通すことが難しい現代では、リーダーは創造力を働かせ、失敗した際には自らの過ちを認め、臨機応変に行動しなければならない。日本のみならず世界をリードする人材になって欲しい。

講義の感想

- 「教育は平等すぎる」という言葉が特に心に残っています。日本の教育は、格差を隠そうとするが故に伸びていく人材が埋もれてしまう現状で、平等という言葉の裏にも欠点があると知りました。
- 世界で活躍するために必要なことは世界を知ることが大切で、人として、リーダーとして想定外という言葉に逃げないということが印象的だった。



加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人 AFS 日本協会理事長
「“Warm Heart Cool Head”で激動の時代を切り拓くリーダーに」

Warm Heart と Cool Head とは近代経済学の祖と言われるアルフレッド・マーシャルの言葉。彼はロンドンの貧民街を歩いて経済学を極め、43 歳でケンブリッジ大学政治経済学部教授に就任した際「冷静な頭脳と温かい心を持ち、周囲の社会的な困難と格闘するために最良な力を傾ける人財を増やすように最善を尽くしたい」と演説した。

私はまだほとんど女性の新聞記者がいない時代に約 20 年間経験して苦労も多かった。しかし、逆境に立たされた場合でも諦めないでがむしゃらに頑張ったからこそ現在がある。自分に襲いかかってくる困難があっても、ただ落ち込むのではなく、何とかなるとけっして諦めずに、機転を利かせて新しいことにチャレンジする。塾生には、将来世の中を変えていく情熱と冷静さを兼ね合わせたリーダーになるべく、諦めずにチャレンジし続けて欲しい。

リーダーには①話をきちんと聞く能力②わかりやすく自分の言葉で説明する能力③先を見通し明るい青写真を描く能力④決断したら必ず実行する能力⑤けっして諦めない能力の 5 つが必要だと思っている。

混沌とした時代を生き抜くには、コミュニケーション力と互いを尊重する気持ちが大事だ。とりわけ日本人だけで勉強していることが多い皆さんは、もし学校に留学生がいたら積極的に話しかけ、また機会があったら若いうちに留学して異文化に触れること。寛容な心と心が触れ合えば戦争には発展しない。

講義の感想

- 加藤さんの講義を聴き、「貴族たるもの身分にふさわしく振る舞いをすべし」は日本でいう「世のため、人のため」という言葉に考えさせられる部分がありました。私は加藤さんが作られたパワポの資料を見て思ったことは、「リーダーに必要な能力」を私はこのリーダー塾で育てることが出来たと思いました。
- 加藤さんの留学した時・新聞記者時代・リーダー塾や AFS の経験などのお話を聞いて、英語が今後どれだけ必要になってくるか、リーダーに必要な力は何か？など多くのことを学び、考えさせられました。



明石 康 元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長

「世界の中の日本—もっと外に開く国に」

“Japan in the world – towards a more open, dynamic country”

今年の2月にロシアによるウクライナ侵攻を受け、国連は安全保障理事会や40年ぶりの総会の緊急特別会合を開催したが、ロシアによる侵攻を止めるには至らなかった。国連は不完全であり多くの問題を抱えているが、だからといって私たちは互いに協力し合い、解決策を模索することを放棄してはいけない。確かに国連のできることには限界があるものの、国連のない世界に比べ私たちの世界はずっと平和であると私は信じている。さて、これからを担う若いみなさんには世界市民として、国内だけでなく、より多様な世界に目を向けてほしい。国際社会が抱える問題を解決していくには、様々な国籍やバックグラウンドを持つ人々と協力していく必要があるからだ。また、好奇心を持ちながら、読書やリベラルアーツ教育を通じて、教養を身につけてほしいと思う。世の中の問題を解決することは極めて難しく上手いかない事も多いが、根気強く継続して取り組み続けてほしい。

講義の感想

- 今の時代の中で大事になってくるのはやる気、チャレンジ精神、異文化理解、コミュニケーション能力であり、絶対に必要になってくるのは語学能力である。また、英語だけの講義で行われたのでとてもいい経験になった。
- 最初英語で説明されると聞いた時は聞き取れるかどうかとても焦っていたけど、なんとか聞き取れるところもあって、そこで私が学んだことは、チャレンジするリーダーもひとつのリーダー象であるということです。



柿田 富美枝 長崎原爆被災者協議会事務局長

「被爆2世からのメッセージ」

原子爆弾の投下によってたくさんの命が失われた。被爆者は、長い期間悲惨な環境下で生活を強いられた。その後、原水爆禁止の署名運動や被爆者たちの組織化が進められたことで、原爆の恐ろしさが世の中に浸透し、核兵器禁止条約など平和のための歴史的第一歩に繋がった。

私は、小学校6年生のとき夏休みの宿題で初めて母の被爆体験を聞いた。母は当時21歳で爆心地から3km離れた仕事場で被爆した。原爆によって多くの友人を亡くし、「戦争ほど怖いものはない。戦争や原爆は二度と起こしてはいけない。」と娘の私に繰り返し話した。

現在では、被爆者が高齢化し、証言する人が減っている。そのことを危惧し、被爆二世、三世が語る「家族証言事業」の取り組みが始まった。長崎から平和な世界のために、「今日の聞き手は明日の語り手」として、これからも語り続けていく。

よりよい未来のために多くの仲間たちと協力し、平和をつくるリーダーになってもらいたい。

講義の感想

- 柿田富美枝さんの講義を受け、戦争はあってはならないものであり、現在この地球に存在する原子爆弾や水素爆弾は根絶すべきだと強く再確認した。
- 柿田さんの講義を聞いて、日本は唯一の被爆国だということに改めて気付かされました。被爆者の話を直接聞く事ができる最後の世代だと言われている私たちが次の世代に伝え続けていくという使命があるにも関わらず行動している人が少ないことに危機感を覚えました。



葦津 敬之 宗像大社宮司

「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」

天照大神の三女神を祀る地として日本神話に登場する宗像大社。貿易の地としても歴史があり、以前より海の恩恵を受けてきた。以前から環境問題に取り組んでおり、海水温度の上昇、磯焼け、漁獲量の減少、海洋ゴミなどの問題があることは知っていた。そして、宗像に戻ってきた際、漁師から漁獲量が減少しているなどの言葉を耳にし、宗像の海に問題意識を持ち、宗像国際環境会議の設立に至った。宗像国際環境会議は、竹漁礁作り、海岸清掃、地元中学高校生向けに講演、稚魚の放流行事など様々な取り組みを行っている。その他、世界遺産の横の連携がない中、なぞらえて海の神殿「宗像」と山の神殿「富士山」として、静岡県と協同声明を出している。

最近は大和言葉である「常若（とこわか）」をテーマとして、いつも若々しく、次世代に命を繋いでいくという意味で、今日まで続く地球上のすべての生物の命の循環を守るために環境問題に取り組んでいる。

講義の感想

- 葦津先生の講義の中では、アクションを起こすことも大事だが、それを継続することがより大切だというお話が心に残りました。
- 日本神話を環境問題に繋げて考えていることに感心しました。SDGsではなく「常若」で環境問題を捉える方が自分的に理解しやすいと感じました。また、CO2の排出を削減することよりも、自然再生をすることの方が大切であるというお話に衝撃を受けました。



山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授

「With コロナ～新たな社会の見取り図」

大学がやらなければならないことは、研究と教育の 2 つだ。それらに加えて社会貢献を行っており、政策提言、技術協力、国際緊急支援に取り組んでいる。現在は、新型コロナウイルス感染症の研究を行っている。そして、医学(人)の視点だけではなく、ウイルス(微生物)の視点で見ると、ウイルスは宿主との敵対を目指しているのではなく、大半のウイルスは無害、利益をもたらす。しかし、極稀に病気を起こすこともある。150 年前から近代医学は始まり、長年微生物を淘汰するために抗生物質、ワクチンを開発してきた。しかし、近年は微生物がいなくなると健康に悪影響を与えることが逆説的に言われ始めた。これは医学の転換点である。つまり、新型コロナウイルスにおいても淘汰を目指すのではなく、いかに共生、共存するかを考えていくべきだ。また、ウイルスに限らず、周りの人間や他の生物とどう向き合い、共存していくのが求められると思う

講義の感想

- 感染症に対して今までは悪でしかないと考えてきたが、この講義を通して感染症があったからこそ人類が発展してきたと考え直すことができた。
- 近代細菌学という言葉を見た時は難しそうだというイメージを持ちましたが、自分の身の回りのことに関わっているとわかり聞いていて楽しかったです。



村上 大樹 国境なき医師団外科医師

「国際医療・人道援助活動の現実と課題」

国境なき医師団(MSF)は緊急援助活動、証言活動が主な活動であり、命の危機に瀕している人々に無償で医療援助活動を行っている。「独立・公平・中立」という活動原則があり、インフラが整備されていない地域では、現地の病院で必要なものは自分たちで一から調達することも珍しくない。その結果、自分たちが提供できる医療の限界があるため、全ての人を助けることができないことに悔しさを感じた。しかし、ペースを崩さずに診察を続けることが何より大事だった。

MSF の課題としては、医療施設への攻撃が挙げられる。紛争では第一にインフラが狙われるため、病院もまた標的になることがある。その結果、医療が奪われることは国際人道法違反にもあたるが、MSF は医療をストップさせない活動を続けている。また、戦争によって仕事・住居も一瞬で失い難民となったスタッフもいて、戦争は悲惨なものだと実感した。世界で起こっていることについて、無関心、無関与の空気を作らないようにして欲しい。

講義の感想

- 自分には直接関係することではないと思っている人は少なくないし、関心を持ったところだと考える人もいるだろうけど、関心をもつことが今の私たちにできることだということに気付かされました。
- 特に無関心・無寛容は人を殺すことがあり、モノの見方や価値観はひとつじゃないから先入観・偏見をもたないことが大切だということが印象に残った。



佐々木 久美子 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長

「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」

インターネットの出現により、それまで一方的な情報の伝達を中心の統一化された社会を実現しやすい環境から、双方向の情報共有が可能となって多様性のある社会となり、個性の尊重の加速が実現している。情報の流れに沿った形で組織構造を見ると、ヒエラルキー型はトップダウンが実現しやすい構造となっているが、双方向での情報共有が可能になった現代では、イノベーションの数もスピードも上がっていて、自発的に自分たちで解決できるホロクラシー型組織が求められていると感じている。また、現在の AI とは機械学習のことであり、なんでもできるわけではない。AI そのものは道具であり使う人次第である。技術革新が進む社会の中で、「また明日あなたに会いたい」と思ってもらい、Simple is Best を体現できる人になって欲しい。

講義の感想

- 組織というと大きい団体で一般的には企業をイメージしますが部活や学校のクラスでも今回学んだ組織のあり方というのは活かせるんじゃないかなと感じました。
- 大切なのは、創りたい未来をはっきり意識したうえで「手段」として起業を選ぶことだと学んだ。
- 佐々木さんのような強さを感じる女性リーダーにあこがれるので、佐々木さんの言葉を大事にしていきたいと思いました。



山口 祥義 佐賀県知事

「未来をつくる君たちへ」

これからリーダーになっていく皆さんにはまず、これからの日本をどのようにしていくべきなのか問題意識を持ってほしい。そのため、周りから言われたことをただするのではなく、自分のやりたいことやどういう社会にしていきたいのかを構想して行ってほしい。人生における重大な決断は突然やってくることが多い。決断に迫られてやるか否かを悩んだ時、私は一貫して挑戦することにしていた。仮にやってみて後に後悔したとしても、挑戦を通じて考えたことは自分の今後の人生に役に立つはずなので、皆さんも臆せず挑戦してほしい。また私はリーダーとして状況に応じてどの程度リーダーシップを発揮するのかを使い分けるようにしている。平時の際には現場から意見が出やすいような環境づくりをし、有事の際は強いリーダーシップを発揮することを心がけている。また何かを実行するときも、異なる複数のアプローチを取り入れることで新しい発想を生み出せないかを考えるようにしてほしい。

講義の感想

- その中で将来のことをよく考えてその時できる最善のことをしたり、素直に周りの意見を聞き、上手く取り入れていくとおっしゃっていてとても大切なことだと感じました。
- やって後悔する、すなわち当たって砕けろ精神で生きていくことが人生をうまく進めるコツだと思いました。
- その中で将来のことをよく考えてその時できる最善のことをしたり、素直に周りの意見を聞き、上手く取り入れていくとおっしゃっていてとても大切なことだと感じました。



武谷 和彦 佐賀県立名古屋城博物館学芸課長（学芸員）

「肥前名護屋城と名護屋城博物館」

名護屋という地名は、漁村を意味する魚小屋や崖や入り組んだ地形を意味する「なご」が由来とされる。16世紀後半日本統一を成し遂げた豊臣秀吉は、国家拡張の一環として中国王朝の明国を征服すべく、朝鮮半島に二度派兵した。肥前名護屋城はその国内軍事拠点として築かれた。この地域が拠点地に選ばれた理由としては大陸からの距離や船舶の運用のしやすさなどの地理的な要因が考えられる。発掘調査や一次史料の分析によって名護屋城が軍事拠点であっただけでなく、豊臣秀吉の居住空間として機能していたことや、また戦国時代に建設された城の特徴である城下町も備えていたことが判明した。大陸侵攻は明国や李氏朝鮮軍の反撃と豊臣秀吉の死によって失敗に終わり、役目を終えた名護屋城も江戸時代に取り壊されてしまった。名護屋城博物館はかつて軍事拠点であった名護屋城を日朝の交流の拠点にするべく作られた。現在は日朝の交流史にまつわる展示、城跡の発掘調査や説明会を行っている。

講義の感想

- 発掘調査は歴史研究に必要不可欠だと思うけど保存のために発掘しすぎでは行けないそうで、未来に伝えるための工夫もされているんだなと思いました。
- 発掘調査や城の修理の写真を見て人間の力だけで全てを作ってきた昔の人々の凄さに改めて気づきました。
- 教科書に載っていることだけが全てではないと感じることのできた講義でした。



佐橋 亮 東京大学東洋文化研究所准教授

「世界の人々の平和と繁栄をどうすれば実現できるのか？」

昨今の国際関係の大きな問題として米中関係が挙げられる。両国の関係はここ数年で急激に悪化し、互いに対する不信感が蔓延してしまった。また他方では、ロシアによるウクライナ侵攻によって人権が踏みにじられ、国際秩序は行き詰まっている。なぜ現代社会はこのようになったのか、米中関係の変遷から考える。米ソ冷戦下の1970年代、アメリカと中国は反ソ連ということで急接近したのち、アメリカは中国に対して莫大な投資を行なった。しかし数年前に中国がアメリカに迫る勢いをみせると、アメリカは中国を脅威とみなし関係が一気に冷えこんだ。これにより、本来グローバル化し自由な貿易が促進されるはずが、両国による貿易規制の応戦や同盟国内のみでの交易促進という窮屈な世界が生まれた。ではこのような世界で我々はどうしたらいいのか。安全保障では、最も大切なものは何か、それを今または将来に脅かすものは何か、またどのような手段で守るのかという主に3つの視点で分析するので参考にしてほしい。

講義の感想

- 「自分の頭で考えて、自分の力でする能力がリーダーには必要だ」という言葉が印象に残っています。私も将来そのような人間になりたいと思いました。
- 北朝鮮や韓国と日本、中国とアメリカなど世界的に影響力を持っている国同士の仲が悪いため交際協力は難しく思われる。けど今回の講義で無理に仲良くするのではなく互いに監視と抑制ができていればいいのではないかと思った。



李 鳳宇 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、株式会社スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師
「映画で日本の未来を考えよう」

短編映画を通じて、朝鮮戦争が未だ終結しておらず、離散家族が一時期は 1000 万人いたことが描かれた。時が進むにつれて離散家族の数は減少しているが、未だに会えないでいる家族、親戚がいるかもしれないことを忘れてはならない。このように、映画という媒体は、短い時間で長い小説を何日もかけて読んだような強いインパクトを人々に与えることができるポテンシャルを秘めている。2019年に「パラサイト」という韓国映画が、アカデミー賞を受賞した。これは韓国
 の歴史と密接に関わっている。日本が朝鮮を植民地にしていた時代に映画が普及した。しかし、当時の映画作品は日本による検閲があった。植民地支配が終わった後も、朝鮮戦争の勃発などにより、映画の検閲は残っていた。しかし、国を挙げて映画産業を盛り上げる時代が訪れ、結果韓国的一大産業となり、世界を魅了している。日本の映画産業も韓国を見習い、合作などを通じて互いの理解を深めることは戦争の抑止力にもなるだろう。

講義の感想

- たった 30 分程度の映画なのにもものすごく内容が頭に入ってきて最後あたりに泣きそうになった。とても深く考えられる内容で映画は人の感情を人に伝えることができると肌で感じる事が出来た。
- 私は今まで、日本人の方が作られた映画を好んで観ていたのですが、今回違うタイプの作品に触れることができ、これからいろいろなジャンルにも挑戦して価値観を広めていきたいと思いました。



沈 壽官 薩摩焼 15 代

「伝統を守り現代を表現する」

豊臣秀吉によって、朝鮮人の職業的能力を持った人たちが日本に連れてこられた歴史があり、その中には焼物の技術者もいた。これが私のルーツとなっている。朝鮮戦争は、焼物戦争と呼ぶ人もいるほど、焼物が重要な存在だった。時代の中で「草庵の茶」を嗜好するようになり、千利休に代表されるような質朴な空間での「侘び茶」が戦国武将の間で大流行した。千利休が大成させた「侘び寂び」の文化によって、注目されたのが朝鮮の器であり、だんだんと日本茶道の中心になった。当時は茶人が器に評価を下すことで、朝鮮の万能碗が一国の領土と同じ価値を持つほど、戦国大名の間で人気を博したことから、朝鮮の技術者を日本に連れてくる運びとなった。その中でも、島津藩の独特な統治システムの中で私の祖先は生活し、江戸時代より代々薩摩焼の技術を継承してきた。

陶器をろくろで焼くときのように、自分の人生においても、ブレない芯を持つことが大切だ。

講義の感想

- 「伝統」というものは「伝承」を繰り返して作られる。過去の人が始めたことを大事に後代に伝えて、それが伝統になるのだと思った。自分の身の回りにある何気ない生活にも「伝統」や「伝承」が隠れていると思った。
- 伝統的なものという魂とか精神とそういうものを受け継ぐのかなと思っていたのですが、伝統とは伝承から生まれる形の堆積であり、形から入り、何度もやって染み込ませなければならないというのが意外でした。
- 職業が自分を表すツールであるという考えに深く納得した。将来私自身がなにを表したいのかを追求していくことで社会に良い影響を与えられる存在であることに気がついた。



網岡 健司 八幡東田まちづくり連絡協議会会長、NPO 法人里山を考える会理事

「世界進化遺産 八幡東田ものがたり」

世界遺産「明治の産業革命遺産」は全国8エリアにある23の資産によって構成されているが、その1つに北九州の八幡東田が含まれる。1901年、アジア最大の鉄鋼一貫の官営製鉄所がこの地に誕生し、「東洋の奇跡」と呼ばれる日本産業革命の発祥地となった。本地域は経済成長を牽引する一方で1960年代以降は公害や産業構造転換に伴う街の空洞化などの課題に直面したが、産学官民の協働によってこれらを解決し、さらにはスマートシティやSDGsの実現に取り組むなど、新しいことに挑戦し進化を続けている。八幡東田の革命は過去のものではなく現在進行形、すなわち「世界進化遺産」なのだ。

日本の産業革命が若者の手で実現されたように、世界は皆さんの手で変えることができる。高校生だからこそ気がつけること、できることがたくさんある。大人に遠慮せず、頼らず、どんどんチャレンジして欲しい。世界を変えるのは、次世代の主役である皆さんです。

講義の感想

- 公害については小学校で習ったことがあるためある程度の知識はあったが、数年ぶりに公害について触れてみることで、こんなこともあったなと思い出したのに加えて、詳しい知識もついた。
- 北九州市は公害のイメージもありますが、世界ではクリーンな街、環境問題に特化している最先端の都市とみなされていることにびっくりしました。



津田 純嗣 株式会社安川電機特別顧問

「日本の製造業の歴史と未来」

安川電機は、1915年に北九州で設立され、現在の事業内容は、モーションコントロール、ロボット、システム・エンジニアリングの3つで構成されている。創業当初から、「電動機とその応用」を事業の核とし、市場の変化に対応して選択と集中により発展を遂げてきた。

インダストリ 2.0 と呼ばれる電動化の時代は欧米に追いつけ追い越せをモットーに、モーター事業に注力した。デジタル化のインダストリ 3.0 の時代では、素材産業のオートメーション、更には自動車・半導体などの組み立て産業の自動化の流れに対し「メカトロニクス」というビジョンを浸透させ、新たな製造の核となるロボットの開発に取り組んだ。そして将来のデータ駆動の世界におけるインダストリ 4.0 の時代では人の好みに合わせながら大量生産もこなす、BTO (Build to Order) 生産の実現を目指している。安川電機は「原動力は北九州、動かすのは世界」を掲げ、これからもビジネスを展開していく。

今後、AI を使って論理構成を学習させたロボットや自動運転車の実用化が進んでくるが、倫理的観点から「人間らしい」判断を行わせるかの議論を先行させる必要がある。

講義の感想

- 津田さんの講義を聞いてロボットに個人的に興味を抱きました。ロボットをうまく活用して会社を効率よく動かしていることに関心を持ちました。
- 世の中に存在しないものは自分で作るとおっしゃっていたことが印象深いです。自分にはその感覚がなかったので、成功者は失敗を恐れず果敢に飛び込む勇氣があるのだと確信しました



南野 森 九州大学法学部教授

「憲法と平和を考えるために」

民主主義国家において物事が多数決で決まってしまうため、しばしば少数者差別や権利侵害が起きてしまう。そのため憲法は、多数決を許容しつつも、不利な立場に置かれた少数者を含めた全ての国民の権利を保障している。国の最高法規として憲法は、違憲審査制を通じて憲法に違反する法律を無効にできる。しかしこの制度は日本においてはほとんど使われた実例がない。それは政治の担い手である国会と違憲審査を行う最高裁判所との緊張関係が影響していると考えられる。

国会が裁判所の予算の決定権や裁判所に関わる諸制度の改正権限を持っているため、最高裁判所が安易に違憲という判断を下せないという実情がある。最高裁判所が今まで自衛隊を合憲か違憲か明示していなかったのも、この緊張関係が影響している。また近年、自衛隊を憲法に明記するかどうかという議論がなされている。自衛隊を憲法に明記することによって起こる変化をどう捉えるのか、究極的に正しい解はないが、高校生の皆さんにはよく勉強して考えてほしい。

講義の感想

- 今まで憲法に対して難しいイメージばかりだったのですが、平和に直接関わっていくことを知り、もっと憲法について知りたいと思いました。
- 憲法とは国の最高法規であり、国のすべての仕事は憲法に批判してはならない。また、憲法に新しい条文を少しでも書くことによって何かが変わってくることなど学ぶことで憲法のことからどうやって解釈していくのか、その難しさを感じることができた。



村岡 浩司 株式会社一平ホールディングス代表取締役社長

「ローカルからの新しい価値を生み出そう～九州パンケーキの挑戦～」

寿司屋の息子として生まれた。しかし、家業を継ぐのが嫌で、アメリカの大学へ進学し、学生企業を行ったり、帰国後古着屋をやったりしたが 28 歳のときに事業が失敗。その後寿司屋で仕事をするようになるが、寿司屋で客が帰るときにお金は払っているのに「ありがとう」と言っていることがとても新鮮に感じた。それで飲食業は良いビジネスだなんて思うようになり、それから幾度の転機を経てコーヒービジネスや九州パンケーキの事業を展開するようになった。

周りで成功している人の共通点を見つけた。夢を口に出して語る人、道をさえぎる困難に負けない心の強さ、挑み続けることの3点だ。20歳から40歳までは、自分の意思で選択する20年であり、君たちのこれらの20年は決断を他の誰かに委ねてはいけない。宿命は変えられないが、運命は自分の力で変えられる。失敗しても挑み続けるとそれが信念に繋がり、確信に変わり、物事が実現し始める。Impossible is nothing.

講義の感想

- 村岡さんのことを一言で表すなら夢をかなえた人だと思う。村岡さんはワクワクするような未来を自信をもってしゃべっていたし、おそらく実際にできているんだと感じた。
- 今まで誰かに生かされてきた20年、これからは自分の意思で選択する20年と聞いて、自分の夢に向かって頑張ろうと思いました。決断を他の誰かに委ねてはいけない、という言葉にドキッとしました。



小手川 強二 フドーキン醤油株式会社代表取締役社長

「発酵食品が繋ぐ国際化」

私の会社は1861年に設立し、161年も続いている。日本で100年以上続いている会社は約3万社、200年以上続いている会社は約3000社だ。しかし発酵食品の業界は歴史が長く、私の会社はまだまだ新しい企業だと言われるほどだ。長く企業を経営するためには、ただ単にモノやサービスを販売するだけでなく、社員が毎日楽しく元気に働くことができる環境を作るなどのマネージングも必要になってくる。さらに会社経営においては、銀行員時代に培った「物事を論理的に考える力」が活かしている。具体的な方法としてシミュレーションがあり、それによって経営戦略を練っていく。しかし、世の中には、予想だにしない変数が無数にあり、シミュレーション通りには行かないことが多い。しかし、その結果を何回も検証することが大事である。若いうちは人生のやり直しがきくため、何度も真剣にチャレンジして、失敗や挫折を繰り返して、その度に新しいものを見出して行って欲しい。

講義の感想

- 発酵食品のことを話されていて、私も食品について興味があるので、面白いお話だと思いました。会社の在り方のお話では、昔は利益だけでなく、地域のためにこだわりで商品を作っていたが、今は、そういう会社ばかりではなくなってきたと話されていました。
- この講義では発酵食品を通して世界の情勢を見ました。日本は豊かな国であるが故に食品ロスが多いためそれをなくす必要性や刻一刻と変わっていく世界の中で生き抜くためには今のニーズを学びすぐ続けて変化し続けることだと学びました。



室伏 きみ子 お茶の水女子大学名誉教授、同大前学長

「人々の心身の健康と幸せを目指す研究・開発と研究者の役割」

近年の日本において、大人になったらなりたい職業ランキングで「研究者」が挙がらなくなっている。一方、海外では大変人気の高い職業である。このような不人気の原因は日本において、研究職を見聞きする機会が少ないためだと思う。研究者は、「自然の原理」を解き明かすことができるかもしれない職業である。そのことを通じて、人々の夢を実現し、社会問題などの課題解決にも寄与できる、とても魅力のある仕事だ。しかし、研究者を目指す若者は少なく、女性に至っては、能力、技能があったとしても活躍するのが難しい現状もある。これらを打開するために塾生には、遠慮しないで、やりたいことをチャレンジし続けてほしい。元気に夢を実現することで、周りを取り巻く人たちの意識も変わり環境が変わる。男女が共に健康な社会がつくれれば、みんなが楽しく人生を送れる。昔からの考え方で社会はこういうものだと思いこまずに、新しいことにチャレンジして欲しい。

講義の感想

- 海外旅行に行くことで広い視点で物事が見れるとおっしゃっており、自身も留学に行き食いが固まってきた。
- この講義では女性も自信を持っていいんだとっていて男尊女卑がある中でその考えをどうしぬいたのは凄いことだなと思いました他にも世界にがくせいのころからでることも大事だと言っていたので留学も視野に入れて頑張りたいです。



村木 厚子 津田塾大学客員教授、元厚生労働省事務次官

「事件から学んだこと～組織の在り方・人の生き方～」

郵便不正事件では、身に覚えがない罪で逮捕起訴され、164日間の拘留を経験。無罪判決になったが、逆に検察の組織的な証拠改ざんが発覚し、大スキャンダルになった。この経験から、特殊な世界で働き続けると、徐々に「常識」がずれること、組織は一度走り出すと取り返しがつかなくなり、自分だけ飛び降りるのは勇気があること、正義の味方は自らのミスを発表しづらいことを学んだ。さらに検事総長と対面したときに、第一声で「ありがとう」と言われ、組織で無理をしていること、歪があることは知っていても組織の中からは変えられなかったことを知った。信頼が厚い職業は、ミスが許されないため、万が一ミスがあれば隠蔽したくなる。それを改善するために、失敗を責める文化から、失敗から学ぶ文化が良い。また、刑務所での経験を通じて世の中に「負の回転扉」が存在することを知り、現在は負の連鎖を絶ち共生社会の実現に向けた活動を行っている

講義の感想

- えん罪で逮捕されて拘留所で生活して僕だったら心が折れて何もできなくなりそうだけど、その中でも好奇心を忘れずいろいろなことを知ろうとする姿勢はすごすぎるし僕は到底できないと思う。どんな場面でもまなび続ける姿勢をまねしたいと思う。
- 村木さんのお話を聞いて、自分の人生に投影して考えることができました。たくさんの経験をされている村木さんから今回のような講義をして頂いたことで、新たな価値観の発見につなげるおがてきたため、良い経験となりました。



市川 加奈 Relight 株式会社代表取締役社長

「日本の貧困問題から考える、誰一人取り残さない社会のつくりかた」

日本の貧困問題・ホームレス問題に対して、見て見ぬふりの大人と自分自身のモヤモヤがあった。大学時代には、海外や国内での支援活動を通じて、貧困やホームレス問題の実情を知ることができた。その後就職のタイミングで、社会問題にビジネスを掛け合わせるビジネスを通じて社会問題を解決する「ソーシャルビジネス」の存在を知り、好きなことを仕事にしたいとボーダレス・ジャパンに入社した。ホームレス問題には、路上生活者だけではなく、ネットカフェ・24時間店舗・車中泊など「見えない」ホームレスという状態も存在し、現状その数を正確には算出できてない。また、現在の日本では一度信用を失うと、再びチャンスを得られることが難しく、負の連鎖からなかなか抜けられないという構造的な問題がある。現在は携帯がなくても寮付きの求人を紹介する事業を行っている。誰も孤立せず、何度でもやり直せる社会を作るための仕組みづくりや周囲の方に共感を得る力（巻き込む力）が大切であると考えている。

講義の感想

- 若い起業家さんの話を聞くことができた。誰も孤立せず、何度でもやり直せる社会を作るという市川さんの熱意を感じた。ないものを作っていくことの大切さを知ることができた。
- 「誰も孤立せず、何度でもやり直せる社会」という言葉が心に残っています。私も将来、多くの人を幸せにする仕事をしたいと思いました。
- 日本は失敗や間違いをすぐく気にする文化があるけど講義の中にあつた、他者に対してもっと寛容に失敗を許容することが大事という言葉は本当に必要だと思う。



笠谷 和比古 国際日本文化研究センター名誉教授

「戦国時代と平和共同体」

戦国時代において、毛利元就は「平和」をどのように築き上げていったのだろうか。

武士たちにとって、祖先が築き上げた所領は命を掛けて守るものであった。安芸国（現在の広島県）の領主であった毛利だが、周辺地域には巨大勢力が出現し侵略を受けようとしていた。対抗策として、周辺地域の中小の領主たちと協力して共同体を結成した。そのときに一揆契状という同盟条約を締結している。一揆契状の内容で注目すべきは、同盟に加入する中小領主たち同士の間境争いを辞めること。つまり、共同体内部の紛争を武力行使による解決を禁止し、話し合いで解決させたのである。また、一揆契状では傘連判という形式が採用されているが、これは全員が平等であることを示している。しかし、毛利元就は、周囲から支持されることでリーダー役となり勢力を拡大することができた。これは民主的で理にかなうものであり、毛利家の政治体制は世界に誇るべき日本の文化伝統である。

講義の感想

- 歴史から学び、現代社会に生かせることがたくさんあることを知った。時代に変化とともに過去の知恵や手法は忘れ去られてしまいがちだが、困難な場面に遭遇した時に歴史から学んだことを取り入れ乗り越えていきたい。
- 戦争=悪というのは当たり前だと思っていた中でそうとは限らないと言う意見は初めてでびっくりした。でも、悪を倒すための戦争は正義となることがあるということは確かにあるなと思った。



川勝 平太 静岡県知事

「三大『国策』を問う―首都移転・リニア・原発―」

現在のウクライナ戦争は、豊臣秀吉が朝鮮を攻撃した状況と似ている。ウクライナ戦争では原子力、豊臣秀吉の時代には銃という、その当時の世界最先端の武器を使用している点だ。そのため歴史から今回の戦争を終結させるヒントがあるのではないだろうか。

そして、現在の首都東京一極集中型では、自然災害やコロナによって麻痺する事が顕になった。そのため、江戸時代の幕府体制のような分散型の国土を理想とした岸田総理は「デジタル田園都市国家計画」を唱え、中規模都市間でネットワーク関係を構築し、デジタルで結ぶことを考えている。私は「司法・立法・行政」の地方移転さえすれば首都移転はできると考える。また、リニアは時速500kmで東京・大阪間を結ぶ画期的な技術である。しかし、南アルプスのトンネル工事による自然への影響や、リニアを動かす電源となるエネルギーの問題がある。国策が直面している問題をどう解決していくのだろうか。

講義の感想

- 川勝さんの講義で一番印象に残ったのはどちらでもいいひとを賛成に巻き込むことが自分の意見を成功させることでは重要だということです。川勝さんの講義中に川勝さんのプレゼンを聞いているうちにだんだんと賛成の人が増えていったのが面白く感じたし、実際に成功させたいならそうするのが大切なのだと感じました。
- 原子力について賛成派と反対派がいるけど、それぞれ、多くの電力を生み出すことを優先するか、人々の安全を重視するかという価値観で意見が割れているんだと思いました。



マハティール・モハマド マレーシア元首相

「戦争はなくせるか一次世代が果たす平和への貢献」 “Can War be Abolished? A New Milestone for Peacemaking-How Future Generation can Contribute”

私たちは戦争をなくすことができるだろうか。また、どうしたら戦争を避けることができるだろうか。この問題に対して若いみなさんが真剣に向き合い、議論したことはとても有意義なことだと思っている。

戦争とは、今まで人々が築き上げてきたものを全て破壊し尽くしてしまう断じて許されない行為だ。そのため対立が起きた際、私たちは武力に訴えかけるのではなく、交渉や第三者の仲裁によって解決していくべきである。実際、マレーシアは近隣諸国との領土問題を、戦争に突き進むことなく第三者の国際司法裁判所の判決に委ねることで解決を図った。私は戦争をこの世からなくすことができると信じている。なぜなら戦争をするのか否かを決定するのは、紛れもない私たち人間だからだ。これからの世界を担っていく若い皆さんには、戦争は紛争の解決策にはなり得ないということを認識し、交渉や協定の締結などの平和的解決を模索していただきたい。

講義の感想

- 鳥肌が立ちました。平和をつくる選択の中に戦争は入っていないというはっきりとした想いに感動しました。今の時間を未来のために有意義に使いたいと思いました。
- 平和のための戦争がないと言う話がとても印象に残った。他の講師の方の中には、平和を維持するために戦争をすることがあるためそれは仕方がないと言う人もいたがマハティールさんは、キッパリ言いきったので印象に残っている。



宮川 眞喜雄 前内閣国家安全保障局国家安全保障参与

「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。日本のために、アジアのために」

世界は大きな変革期を迎え、戦後第三の時代に突入した。米ソ冷戦の時代、グローバル協力の時代、そして分断と対立の時代が戻りつつある。ウクライナ戦争で中国はロシアを支援し、西側諸国はウクライナを支援する。グローバルな経済取引は、相互に経済制裁が発動される中で、薄れていく。

国連は国家間の政治紛争処理機能を失い、世界貿易機関の貿易紛争処理能力も麻痺している。ウクライナ戦争が象徴するように、国際紛争の解決手段に武力が用いられる。国際機関は機能不全を起こし、国際法は軽視される。武力衝突をなくすには、彼我の均衡を保つことが重要。均衡が崩れれば、発火しやすく、危険だ。力を涵養するのは戦うためではなく、戦わないためだ。日本は、技術水準を高め、経済力をつけ、防衛力を強化し、交渉力を強める必要がある。

大局観を得、確信を持ち、大勢の共感を得て、物事を前進出来る人物に育ってほしい。

講義の感想

- 1 時間半では語り尽くせないほどの情報を得ることができ、とても光栄に思います。やはり、今の国際情勢を紐解くためには過去の歴史から学ぶことが重要であることを再確認しました。
- 非常に関心をもち、講義に臨むことができました。学びになることが多い上に講義自体にユニークさがあり、惹きつけられました。



滝 久雄 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NK B取締役会長・創業者

「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」

やらなければならないことをやりたいことにするには、“志”を高くしよう。高い目標を持てば、自ずといろんなことを経験・勉強するべきだと感じるだろう。そのためには、世のため人のためというような“使命感”が大事である。そして将来活躍するために、今のうちに脳を最大限に成長させよう。脳を使うことが、脳の成長に繋がる。脳を使う機会をたくさん得るには、好奇心を持つことが有効である。また、『リーダー憲法』がある。①もっともはやく、もっともよく。先輩や後輩などの周りの人と連携することで、与えられた仕事を予定よりも早く、高い完成度で達成する。②人間を好きになろう。人間社会も好きになろう。リーダーの絶対的な条件で、人の価値をよく知るためには好きにならないといけない。③お互いの文化を尊重しよう。その国の歴史に基づく価値をリスペクトする。議論して喧嘩しても良いが、時間が立つと仕事以外の交流によって親しくなれる。

講義の感想

- 滝さんのお話を聞いて、世界で活躍したいと強く思うようになりました。日本で教育を受けて、生活をしているからこそ、外の世界に目を向けて幅広い学びを得たいと思うようになりました。
- テンポよく話を進めてくださって、そしてコミカルで、私たちの話を交えてくださって、凄く楽しい一時間だった。リーダー憲法、人が動くには情、意、知、というこの順番が印象的だった。

卒塾生発表 社会で活躍する2名の卒塾生に話をしてもらいました。(発表順)



2期 芦川 泰彰 さん 株式会社ロボカル代表取締役社長

本日は皆さんからの質問に答えていく形で、起業やリーダーシップ、将来の夢など高校生の皆さんが関心のあるテーマについて議論していきたい。起業する上で私が意識していることは、優秀な人を巻き込むことと常に世の中に対する違和感を持ち続けることだ。リーダーとして必要なことは、まずその集団が目指す道筋をきちんと示すことだと考える。何のために活動しているのかを明確にすることはメンバーのモチベーション維持につながる。またリーダーとしてメンバーの能力を見極めて、各々の長所を生かせる仕事を与えることも重要なことだと考えている。高校生の皆さんには色々な選択肢があるが、時間は意外にも限られているので、好きなことを徹底的に突き詰めて自分にしかできないことを見つけてほしい。もし既に自分の中で夢や信念が既にあるのならそれを信じて実行しつつ、ロールモデルとなりそうな人を徹底的に分析して、彼らの良いところを取り入れて行ってほしい。



4期 樋口 彩乃さん 独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO)

東映株式会社およびガルーダ・インドネシア航空会社での勤務を経て、私は現在 JETRO 職員として広報に関わる部署で働いている。今までは日本企業向けの海外展開に関するセミナーや多くの企業が出店する展示会の運営などに携わる仕事を行ってきた。これらの経験から大切だと感じた価値観を皆さんに共有したい。まず、回り道を恐れないということ。次に情報発信力を身につけること。そして相手の立場になって考えること。またその上で私は、国と国との経済的な結びつきを強化していくことを通じて、平和構築に貢献したいと考えている。現在日本は世界から信頼に足る国として認識されている一方、世界でのシェアや地位は低下傾向にあり、国内の経済状況も厳しい状態が続いている。これは日本の情報がきちんと海外に伝わっていないからではないかと私は考えている。高校生の皆さんもこの現状をただ悲観的に見るのではなく、どのようにすればこの問題を克服できるかを考えてほしい。

発表の感想

- リーダーで大事なことは道しるべができる人や、仲間の向き不向きを把握できる人であると学ぶことができた。また、自分だけではできないことをしたいときに人を集めるには自分の気持ちを伝えること、自分より優秀な人を集めること、常にアンテナを張っておくことが大事だと教わった。自分も芦川先生のようにリーダーとなってみんなの代表となれるような人になりたい。
- 一番印象に残っているのは、起業自体は簡単だということだ。リーダー塾には起業している人、起業をしたい人がたくさんいることが2週間を通して分かった。起業をすることはすごいことでも、珍しいことではないと芦川氏の発表や塾を通してより感じる事ができた。その人の人間性や能力、ビジョンを最大限活かせる職が起業家や経営者だと思う。
- 樋口彩乃さんの講義はを受け、多文化の中で互いにその違いを理解しながら共存し、さらにはその仲間たちと共に仕事をする事の素晴らしさを学んだ。「経済の友好」が戦争を無くして国同士を切っても切れない関係にしたという思いに共感した。また失敗を恐れていた私にとって「まわり道は怖くない、それが自分にとっての経験値アップに繋がる」という考えが新たな視点を得るきっかけとなった。
- 今回の講義で初めて JETRO を知りました。さらに、海外で行われている展示会についても詳しく知ることもできました。写真を見ていると華やかでとても楽しそうなものでした。さらに、展示会を行うには非常に大きなお金が動くことも知り、1週間で2000万もの大金が使用されていると聞いてたら目玉が飛び出そうになりました。加えて、プレゼンのコツも知る事ができて今後活用していきたいです。

6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第19回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

塾生概要

(1) 概要

塾生は、負担金をいただいている9道県2市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画道県・市推薦枠から110名と、全国から選抜する一般公募枠60名を募集した。しかし、感染状況に鑑み、一般枠を30名合格とし、合計140名が参加した。国内19都道府県95校、海外1校（アメリカ）から参加し、海外の高校に所属している1名は、夏季休暇のため帰国している塾生であった。コロナ禍での開催となり、139名は合宿形式で参加したが、1名の塾生が全行程オンライン形式での参加を希望し、講義やディスカッションのほとんどがハイブリッドで実施された。塾生は、20名ごとに7クラスに分かれ、1クラスを前半後半1名ずつのクラス担任と2名の学生リーダーで担当していただいた。（巻末参考資料③～⑤参照）

(2) 塾生の募集及び選考

塾生は、参画道県・市推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、審査を経て塾に参加することができる。参画道県・市推薦枠は、各自治体で個別に募集および選考をしていただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。今年も昨年と同様に新型コロナウイルスに対応した選考方法とした。

今年も感染状況に鑑み、HP や SNS での広報・周知を行った。そのほか、卒塾生にも自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やSNSを通じての呼びかけに協力してもらった。塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力を期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。また、公式のFacebook や、昨年開設したInstagram でも募集開始のお知らせや卒塾生の声などをアップし、宣伝を行った。

一昨年からインターネットでの応募を開始し、一般公募枠、福岡県推薦枠、北海道推薦枠の募集はインターネット出願で行なった。一般公募枠は4月1日から募集を開始した。

開催について、当初から7月下旬から8月上旬の2週間の合宿形式で実施を発表した。

一般公募枠の選考については、一次審査（応募書類及び作文）、二次審査（面接）がある。二次審査の面接は、昨年と同様にオンライン形式で実施した。

参画道県・市推薦枠の選考については、青森県、静岡県、和歌山県、愛媛県、佐賀県、宗像市、うるま市は一般公募同様に書類審査と面接審査を実施した。その他の参画道県・市は書類審査のみで合格者を決定した。

塾生の期間中の様子

(1) 受講者決定から開塾まで

6月上旬、審査を通過した合格者が決定し、塾開始前から感染対策を実施した。

塾開始前の感染対策として、2週間前から塾生本人の検温などの体調管理、3日前を目安とした事前PCR検査、また入塾式当日には全員に抗原検査を実施する等、徹底した。

開催前に国内の感染者数が急増したため、事前PCR検査で5名が陽性となり、保健所の指示に従って療養期間終了後に合流することとなった。グローバルアリーナに向かうバスの中で、1名が家族の陽性が判明し、濃厚接触者となった。本人に抗原検査し、陰性であったが、保健所の指示する待機期間終了まで施設内の別棟の宿泊室で待機することとなった。また、入塾式前に行った抗原検査で1名が陽性となったため、自宅が近くであったため、一旦自宅へ戻った。これらの塾生は、他の塾生と合流するまでの間、体調を見ながらオンラインでプログラムに参加することとした。

また、和歌山県梓の1名が家族の陽性判明によりグローバルアリーナへの到着直前に濃厚接触者となった。本人は陰性であったため、保健所の指示する待機期間終了まで施設内の別棟の宿泊室で待機することとなった。療養・待機中の塾生は、合流するまでの間、体調を見ながらオンラインでプログラムに参加することとした。

現地の塾生133名全員の陰性を確認し、オンライン参加者、療養・待機中の塾生がオンライン参加できる体制を整えたいうで、7月26日、福岡県宗像市にて開塾した。(詳細はp.48「新型コロナウイルス感染症への対応」を参照)

入塾式では、榊原英資塾長代理より開塾の挨拶をして、服部誠太郎福岡県知事(ビデオでご挨拶)、伊豆美沙子宗像市長より、開塾に際して激励のお言葉をいただいた。

塾生を代表して3名が榊原英資塾長代理に向けて決意表明を行った。初めに、開催地の福岡県から福岡県立中間高等学校3年の林鼓太郎さんが、「講師の方のお話や皆さんの意見を聞き、見聞を広めたいと思っている。時には互いの意見が衝突することもあるだろう。しかしそれこそ、私たちがこの問題に真剣に向かい合っていることの証拠だと思う。この2週間、共に高め合い成長していこう。」と塾生に呼びかけた。

次に、東京都の私立国際基督教大学高等学校1年の平島思実さんは、自身が生活した東ティモールが受けた軍事侵攻や独立闘争の歴史、現地の方々から聞いた言葉を紹介し、『ウクライナでの人権侵害の惨状についてニュースで見ると、今こそ「平和への道しるべ」について、しっかり考える時であると感じている。』『2週間のプログラムを通して徹底的に議論し、私たち自身の「平和への道しるべ」を見つけられると思う。私は今、皆さんと同じようにわくわくしている。』と語ってくれた。

最後に沖縄県立開邦高等学校1年の安永恵一さんが、沖縄では太平洋戦争で国内最大の地上戦が行われ、今でも戦争遺跡が残されていること、本土復帰50周年を迎えた現在も基地が多く残っていて米軍統治下の沖縄を感じられることを述べ、「ぜひ、沖縄の過去についても、世界情勢が不安定な今だからこそ、関心を持ってほしいと思う。」「私たち若い世代ができることは、交流を通して多様性を認めあい、考え方や文化の違いを理解し受け入れること。そして過ちに気づき、リーダーとして進むべき道を照らしていくことだ。」と語ってくれた。

他の塾生たちはコロナ禍の困難を乗り越えて開催されるリーダー塾に向けて、期待と不安の入り混じった緊張感のある面持ちで、話に耳を傾け、気を引き締めていた。



▲決意表明をする3名の塾生代表



▲熱心に講義に耳を傾ける塾生

(2) 塾生の様子と特徴

19 期生は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、活動において様々な制限があったが、この貴重な2週間を最大限活かすために主体的に活動することができていた印象である。特に、今年は積極的に視野が広く、活発な塾生が多く見られた。

講義面では、質疑応答の時間や講義終了後にまで積極的に質問する姿が多く見られた。開塾前に配布した講師一覧などの資料を活用し、事前に質問したいことをまとめて講義に臨んでいる塾生も見られ、貴重な機会を最大限活かそうとする姿勢が見られた。加えて、講義で学んだことを休憩時間に仲間と話す姿も多く見られ、ただ講義を聞くだけではなく自分の知識として落とし込もうとする姿が印象的であった。2 週間という限られた時間の関係上、講義の内容についてディスカッションをする時間を確保することは難しかったが、自発的に感じたことや疑問点を仲間と共有することで、学びを深めることができていたのではないかと思う。

生活面では、各クラス学級委員を中心に時間やルールを守って生活することができていた。毎日タイトなスケジュールであったが、講義が始まる5分前には着席し、食事や入浴なども決められた時間を守るなど、当たり前のことだが、塾の一員として自覚を持って行動することができていたと思う。また、2 週間という長丁場のため体調不良になってしまう塾生もみられたが、クラス全体で支えていく姿勢が見られた。しかし、消灯時間を過ぎても話し続けている姿や、あらかじめ伝えられていた服装の規定を守らないなど、体調不良の原因となる行動も見られた。特に消灯後は自分だけではなく、他の人の睡眠を妨害していることを理解し配慮するなど、今後は他者のことを考えられるような行動が期待される。

感染症対策としては、食事や掃除、入浴などで多くの制限があったが、所属する委員会を中心に協力してもらった。特に食事や掃除、洗濯、入浴など、スタッフの目が届きにくい場面においては、塾生が担当する委員会を中心にお互いに呼び掛け合い、新型コロナウイルス感染症が蔓延しないように務めてくれた。また、常時マスク着用、検温、パーテーションの使用、黙食などにも自発的に協力してもらった。加えて、感染症対策のため一時的にオンラインで参加している塾生も円滑に話し合いに参加することができるように工夫するなど、クラスとして団結する姿勢に塾生の対応力の高さを感じた。

今年度は、感染症対策のため食事の席や講義の席をクラスごとで固定するなど、座席を自由としていた例年と比べると、他クラスの塾生との交流が減った。その分、塾生主体で開催された卒塾前夜祭では、ダンスや歌、スライドショーなどを自主的に企画し練習するなど、クラス間での交流の機会を増やしていた。

2 週間の開催期間を通して計 4 名の新型コロナウイルス感染が判明した。保健所の指示のもと、感染症対策のため同じ部屋に宿泊していた塾生を 5 日間隔離した。加えて、塾中の検温において 37.5 度以上を計測した塾生も隔離の対象としたため、各クラス一度はハイブリッド形式でのディスカッションを経験することとなった。通信状態や限られた機材での実施という状況にも関わらず、クラス内で協力して心の距離が生まれないよう取り組んでいた。

各々の学校生活では、他の生徒を引っ張る立場にある者が多い中、自分より経験や知識の多い仲間に出会うことで、刺激を受けたり時には壁にぶつかったりしている姿も見られた。しかし、この 2 週間を乗り越えたという経験は今後の大きな糧になるであろう。今回出会った仲間と切磋琢磨しながら、今後もさまざまな場面で活躍して行ってほしい。



▲質疑応答では多くの手が挙がる



▲委員会での話し合いの様子



▲ハイブリッド形式のクラスの様子



▲塾生が主体となって行われた卒塾前夜祭で特技を披露する塾生

(3) 短期間での成長

■卒塾生代表挨拶

最終日に行われた卒塾式では、緊張した様子が見られた入塾式から一変、2週間のプログラムをやり遂げた、堂々とした表情が多く見られた。期間中の成長は卒塾式での代表挨拶に表れている。今年は学生リーダーから推薦された2名の代表者が、塾を通して学んだことや未来への力強い意思を述べてくれた。2週間議論を尽くし、これからの生活における大切な仲間を得たその顔は達成感と自信に満ちていた。

【4組】福本 飛空 さん（静岡県立焼津水産高等学校2年）

私はこのリーダー塾を通して学んだことと今後活かしていきたいことが2つずつあります。

学んだことの1つ目は、中立の立場で議論を進行し、意見をまとめることの難しさです。私はAHSのリーダーとして司会を務めました。最初は自信に満ちており、順調に進めることができました。しかし、日が経つごとに議論の内容が難しくなり、最初に決めた日程通りに進めることが難しくなりました。辛いと思うこともありましたが、素晴らしい仲間たちに囲まれた環境であることが嬉しく、最後まで頑張ることができました。そして内容に干渉せず、冷静に議論を進行することで何をすべきか見えてきました。リーダー塾なら議論がスムーズにできると思っていましたが、良い意見ばかりが出るからこそその難しさを学ぶことができました。また、司会という存在の大きさを感じ、中立な立場で議論を見ることの重要性を学びました。今後も中立な立場で進行役ができるように精進していきたいと思えます。



2つ目は仲間の大切さです。みなさんの中にも、このリーダー塾中に仲間助けられたと感じた人は多くいると思えます。私もそのうちの一人です。例えば、議論が計画通りに進行できなかった時に悩むことが多くありました。でもそんな時にクラスの仲間や同じ部屋の仲間に励まされました。ただ、励まされただけかもしれませんが、声をかけてくださった人にはパワーをもらいました。また、4組の学生リーダーや担任の先生にも支えられ、仲間という存在の価値を学びました。

次に、リーダー塾の経験を高校在学中と職に就いてからどう活かすかの2つについてです。私は静岡県立焼津水産高校の流通情報科に在学しています。この学科では3年次に模擬会社を生徒だけで運営します。現在私は高校2年生なので、来年はこのリーダー塾で高められた「集団をまとめる力」を社長という役職について活かします。また、企業の方と商談をする機会もあるので、お互いにメリットのある契約を提案したり、情熱と冷静さを持って臨んだり講義から得た技術を活かしていきます。

次に後者についてです。私の将来の夢は教員になることです。私は生徒の考えを否定せず、信じるのが大切だと思えます。そのため目標の一つに「多種多様な考えを受け入れる」というものがあります。今回、少しは養うことができましたが、考えを理解するという面ではより経験を積むことが大事だと思えました。この2週間、常にこの目標を意識できる環境は私の中で貴重な経験になりました。教員になった時には身につけているように、これからも念頭において生活します。

また、リーダー塾中に新型コロナウイルスによって、リモートで参加していた仲間がいましたが、もし、リモートですら参加できていなかったらと想像したことがありました。多少なりとも教室は活気がなくなっていたのではないかと思います。それは今日、コロナ禍で観光客が減った観光地や高齢化で若者が減った過疎地域のような場所を無くし、活気を蘇らすことができる人を商業科の教員という立場から育てたいと強く考えました。

以上のことから、私はこのリーダー塾は自分の未来をより一層豊かにしてくれたように思えます。日本中の仲間の輪ができたこともまた、大きな財産です。私が、今から20年後の日本をもっと元気に見せます。

【7組】^{やまだ}山田 ^{さいか}采佳 さん（青森県立青森高等学校 2年）

私たちの世代は、コロナウイルスの影響を大きく受け、学校生活で様々なことを制限されてきました。そんな中、最終日までプログラムを実施することができたことを、本当に幸せに思います。

私はリーダー塾全体を通して、沢山の学びを得ることができました。「リーダー」として以上に「人間」として、これからどのように生きていくべきなのかを考えさせられました。今回のAHSのテーマである「戦争はなくせるか」。正直私は、この問題が自分に直接関係するとはほとんど考えたことがありませんでした。身近に感じることができなかつた「戦争」が、本当に深刻な課題であり、早急に解決すべき問題であることを、この2週間を通して理解しました。厳しい生活を強いられ、大切な人にも会えず、恐怖で夜も眠れない、そのような状況下にいる人がこの世界にいることを私たちは忘れてはいけません。とても恵まれた環境にいるからこそ、盲目的になってしまっている私たちにとって、今回のテーマは沢山の気づきを与えてくれました。

いざクラスでの話し合いを始めてみると、意見と意見がぶつかり合い、うまく進行することができませんでした。発表日まであと3日という時、担任の先生と学生リーダーから厳しい指摘を受けました。その夜、「話し合い方」についてクラス全員が納得するまで意見を交わしました。それをきっかけにクラスの雰囲気が変わりました。先生は後々、厳しい指摘をしたことについて『周りを動かすためには自分が



「悪役」になる必要がある場合もある。』と教えてくださいました。これは私が持っていなかった考え方で、新たなリーダー像でもありました。それに加え、2週間を通して多くの講師の方が「リーダー」についてお話をされており、自分の持つリーダー像について深く考えさせられました。初日、加藤先生は「この2週間を通して、各々のリーダー像を見つけてください。」とおっしゃっていましたが、私の中のリーダー像は1つに決まりませんでした。リーダー像について考えていくにつれて、必要な力が本当にたくさんあることに気づいたからです。しかし、常にそれら全ての力が必要なのではなく、状況に応じて使い分ける必要があると感じました。そこで私は、「状況判断が的確にでき、その場に応じて自分の立ち位置を変えることができる人」になりたいと考えます。AHSを通して、それぞれの場面において必要とされるリーダー像が違うということを実感しました。時には「失敗を恐れず、突き進んでいくリーダー」。時には「個性を尊重し、確実にまとめ上げるリーダー」というように、周りの仲間や状況によって変化することができる人間になるべきだと考えました。

この2週間を振り返り、7月26日にここに来た自分とは別人のように成長したことを実感しています。私の目標は「社会起業家」です。この職業は現在、認知度が高くありません。今回、講師として来てくださった市川先生のように、世界中の様々な課題を、ビジネスを通して解決することができる起業家になり、SNSを通じてこの職業を広めていきたいと考えています。その中で、この塾で学んだ沢山のことを生かしていきます。

加藤先生をはじめ、講師の先生方は、口を揃えてこうおっしゃっていました。「できないはだめ」だと。「できないことはない」のだと。本当にその通りだと思いますし、できないと言われているのなら、自分達ができるようにすれば良いのだと、気づかせてくれました。

いつか戦争が無くなり、世界中の全ての人が平和に、また健康に暮らせる日々が来るよう、私は将来、世界中の課題を解決し、より良い世界を築いていくことをここに宣言したいと思います。

■塾での目標と達成したこと、塾を通して成長したこと（主な内容を抜粋）

私の2週間の目標は「**自分のなりたい自分を見つける**」でした。前半の1週間は自分のリーダー像もはっきりせず、将来どういう職に就きたいのか、将来の道が明確でなかったのですが、沢山の講義を聞いて、沢山の仲間と話して、**自分の理想、夢、目標**を明確にする事ができました。

私の目標は「**楽しく学ぶ！思ったらすぐ発言**」でした。とても簡潔に自分の言葉で決めたので、どんな場面でも意識することができました。「楽しく」は自分の人生のモットーでもあり、学びに対する好奇心に欠かさないものだと思います。発言も **AHSの時間を中心に積極的にできた**ので後悔していません。目標は達成されましたが、引き続き学校生活でも意識して生活していきます。

私の目標は「**夢を見つけること**」でした。今まで夢を持ったことは何度もありますが、好奇心旺盛な私はいつも夢が変わってしまい、これだ！と言える夢がないのが悩みでした。結論から言うとこの目標は達成できませんでした。しかし私は、**夢は1つではなくて良い**と学びました。沢山の講師の話聞いて、やりたいことが増えたので、1つずつ達成していこうと思いました。

目標は「**意見を積極的に話してみる！**」でした。全員に対して共有する機会は少なかったですが、周りの人と話すことは沢山できました。**2週間だけでも人はこんなにも変わることができる**のだと実感しました。今後の生活でも自分の目標を持って成長していきたいと思います。

私は「**行動力や決断力を身につけること**」を目標に掲げていました。初めは講義に後に質問したり、AHSで思ったことを発言したりすることがあまり出来なかったのですが、このままでは参加した意味がないと思い、だんだん手を上げるようになりました。

後半になるにつれ AHS で行き詰まりこのままでは間に合わないと思い、より積極的にアイデアを出したり、まとめを作ったり、迷う暇もなく出来ることをやってみました。貢献できているのかわからなかったけれど、自分にはないと思っていた行動力をみんなが認めてくれていて、**自分の居場所や役割を自分で作れた**ように感じました。

私の2週間の目標は、「**自分の意見は貫く！他人の意見は少数でも尊重！**」でした。様々な意見が飛び交う中で自分の意志を保ち、そのうえで少数派の意見にも耳を傾け、**クラス全体で議論をすることが**できました。今後の日常生活でもリーダー塾で設定した目標を忘れずに、初志貫徹の思いと他人を尊重することを意識して生活していきたいと思いました。

「**現地参加と変わらずに、議論に参加する**」ことでした。塾後半では達成できたと思います。特に現地の情報を整理することを意識しました。現地で話している内容を把握し、**自分の考えを整理してから議論に参加**しなければ着いて行けませんでした。それを後半になって気づき実行することで、みんなと同じ舞台上で話し合いをすることが出来ました。

2週間の目標は「**自らの考える力を鍛え、自分の意見をうまく伝えるためのコミュニケーション力を伸ばす**」ことでした。私はこの目標は達成できたと考えます。それは **AHSでよく考え、みんなに伝えることができた**からです。しかしこの目標にゴールはありません。まだ私には上手く伝えるという能力が足りないと感じるので、これからも成長させていきたいと考えています。

今回目標とした「**調整役としての力**」が向上した。その場に適した役割をするためには、議論のビジョンを見据え、今何が問題になっているのか考える力が必要である。また、意見を主張するときも聴く時も異なるスキルが求められる。リーダー塾を通して、これまで培ってきた能力を**総合的に使うことができた**と思う。

私は自分に自信がない人間だった。何を成し遂げ評価されても、満たされることなく自信が無くなるタイプだった。だがリーダー塾を通して自分が全国から選抜された高校生にも**見劣りしないくらい力を出せることを知った**。それは自分自身のコミュニケーション能力や持ち前の明るさなどの、頭の良さや賢さだけではない**感情的知性としての強み**を持っていることを理解した。

(4) 塾生の今後の課題

塾を通し、多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。今年度は全体を通して、講義に臨む態度やアジア・ハイスクール・サミット、キャリア教育に真摯に臨む姿勢が見られた。しかし、自己管理や休憩時間と講義のメリハリなど改善すべき点も多々見られた。この経験を活かすため、何が足りなかったのか、今の課題は何なのかを考えてほしい。現状に満足せず、より広い世界で羽ばたいてほしいと考えている。

例年、講義が始まる 5 分前に着席することができず、学生リーダーやスタッフに呼びかけられるという光景が見られるが、今年度は違った。学級委員を中心に着席を呼びかけたり、自発的に講義に使うプリントの配布、会場設営などを手伝うなど、広い視野を持つ塾生が多かった。プログラムに対して受け身になるのではなく、自分達が作り上げるという姿に驚かされると同時に、大変嬉しく思った。

また、感染症対策のため一部塾生がオンラインで参加する事態になった際にも、設備の関係で電波が安定しない中、議論の方法やカメラを置く位置、情報共有の仕方などを自分達で工夫し、クラス一丸となって活動に取り組んでいた様子は感動的であった。目標宣言や卒塾前夜祭を含め、全員で楽しもうとする姿勢はこれからも持ち続けてほしい。

しかし、体調管理に関しては改善の余地がある者も見られた。今年は塾開始 2 週間前から健康観察をお願いしており、塾開始前の感染対策も非常に重要であった。しかし、計測した体温を毎日提出せずまとめて入力する者や、中には一度も体温を提出しない者もいた。そのような塾生に毎日電話をし、検温をリマインドする業務に時間を割かれてしまった。電話でのリマインドをしても提出しないこともあったので、今後は責任感を持って行動してほしい。また、塾が始まってからも消灯後に話していたり、フィールドワークの際には体温計を忘れてしまったりするなど、自己管理を徹底する必要があるが見られた。また服装についても、事前に配布した資料内で長ズボンの着用や防寒具の持参をお願いしていたが、実際には半ズボンを着用している者も多く、体調を崩している様子が見られた。今後は事前に配布された資料を確認し、その場にあった選択をしてほしい。

また、講義中の態度にも改善の必要が感じられた。講師の方が来てくださっているにも関わらず、失礼な姿勢をとっている者や寝ている者などが連日見られた。慣れない環境の中、疲労が溜まることはわかるが、講義に向かう態度をもう一度考え直してほしい。少しの塾生が引き起こしている失礼が、全体の評価に直結することを考えて行動してほしい。

1 人の行動や姿勢が今回だけではなく、今後の塾開催に大きく関わるという意識を持って、塾本番に望んで欲しかった。塾生には今一度、自分の立ち振る舞いを見直し、自分のことだけではなく周りのことまで考えて物事を進める人になってほしい。

卒塾後の活動

卒塾後、IN・COM 株式会社の大嶽一省様のご厚意で塾生はオリジナルネッピーをデザインし、缶バッジにさせていただくことになった。リーダー塾の集大成として形に残るものにデザインした経験は塾生にとっても非常に楽しかったようで、喜びの声が届いている。大嶽様のご厚意に深くお礼申し上げたい。

卒塾してから約 1 ヶ月後、塾生とその保護者、学校の担任の先生を対象に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただく。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。(巻末参考資料①～②参照)

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を一部紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりにとらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

【学生団体・ボランティア】

市の公共機関を通じた地域活性化プロジェクトを始めました。
Inspire high のセッションに参加したり、地元を全国に発信する会社の起業に取り組んでいる。
同じ卒業生と協力して、青森県の高校生を対象にオンラインディスカッションイベントを計 2 回開催した。
留学生との交流や、明石さんのご講演を聞いて、英語力を高めたいと思ったので、まだ結果が出ていないのですが、スタンフォード大学のオンラインセミナーに応募してみました。もし、受かっていなくてもいくつか英語の研修の候補があるので、それに参加する予定です。
ヤングケアラーに関する NPO 団体を立ち上げた。
リーダー塾で挑戦することの大切さを知り、ボランティアの募集がなかったのですが、NPO 法人福岡市視覚障害者サポートセンターの事務所に連絡して、ボランティアをさせていただけるようお願いしました。誘導の仕方を教わったり、イベントに参加したりして視覚障害者の方と交流させていただきました。来月は誘導のボランティアをさせていただく予定です。
所属している学生団体 colorful で活動をしました。大学生との交流の場をつくったり、幼稚園や低学年向けに戦争を伝える絵本の制作をしたりしました。
リーダー塾の友達と協力して NPO 団体の設立を企画している。
リー塾で教育について興味湧いたので、JUKE という NPO 法人でキャリア教育プログラムの運営チームに参加しました。活動はこれからなので、詳しいことはわからないのですが、頑張りたいです。
学生団体 LINDEAL と青森高校コラボの「高校生ミーティング」の開催、運営をした。
「高校生世代チャレンジプログラム」という高校生で社会貢献活動を企画し、実施するイベントに参加します。
AFS 主催の留学生交流キャンプに参加した。
一般社団法人の主催で立命館アジア太平洋大学に行き留学生とのディスカッション交流をしました。
自分の学校を PR する、県内のイベントに参加した。
Mathar Earth Youth という高校生の団体の活動に参加している。

【リーダー塾報告会】

文化祭でリーダー塾報告会を開き、有志の人で AHS のような議論をした。
クラスまたは学年に向けた、リーダー塾についての発表とディスカッションイベントを行おうと準備をしている。
県推薦枠の塾生で、県内の高校生数人に事後報告をした。来年は、県内県立高校生や中学生を対象に報告会が実施される予定である。
文化祭で報告会をした。
今後校内でリーダー塾について発表をする予定がある。(多数)
今後、学校で平和や答えのない問いについて話し合う場を作りたいと思っています。
中高合同の全校朝礼にて、リーダー塾参加後の報告会をする予定です。
岐阜県主催の報告会に参加した。
学校で行われたオープンスクールにて、学校の魅力と共に挑戦できることについてプレゼンする機会があったため、リーダー塾に参加したことなどを中学生の前で話した。他にも 12 月に学校の報告会があるため、その場所でリーダー塾について話したいと考えているため、発表の機会を頂けないか先生方に交渉する予定である。
学校での AHS のプレゼンテーションを行った。

【学校活動】

生徒会に立候補して、受かったので募金活動など積極的に活動したい。
自分が所属する演劇部で後輩を仕切り、劇の総監督を担当した。
探究活動の一環として、服装の多様性の理解を広めるために服を作っている。将来的には、自分のブランドを立ち上げ、販売に繋げていきたいと考えている。
学級委員になり、答えのない問題について話し合いました。
所属している部活の仕組みの改革を提案している。
学校の友達と、学生ボランティア団体を立ち上げた。
学校での「総合的な探究活動」で、自分が中心となって全体をまとめた。
学校行事の担当長になった。
ディスカッションイベントをリーダー塾に参加した後輩と開催しました。
生徒会に所属し、将来的に学校の校則を変えられるよう活動している。
課題研究の授業で中国物産店を開く企画をしている。
リーダー塾で学んだことや、後悔したことをもう一度リーダーという立場でやり直したいという気持ちもあって生徒会長に立候補した。リーダー塾で、人のために動くことの大切さを学んだので、生徒会の活動のなかで、制服をリユースする仕組みをこれから作っていききたいと考えている。
キャリア甲子園に応募している。また、生徒会長、副会長選挙に応募している。
まだできていないのですが、これからしたいと思っていることは、「学校の校則を変えること」です。最近、学校内の生徒に対して校則に対するアンケートを実施しました。その中で現在の校則に対しての意見を集めたので、学校に還元したいと考えています。

【その他】

来夏にデンマークへの留学が決定した。
1週間と短期ではあるが、道の海外留学プログラムに申し込みをした。
大阪大学の仕掛学の企画をしている。
熊本県芦北町の地域問題解決に向けたビジネスコンテストに出場している。
弁論を書く際、リーダー養成塾の経験を綴りました。
卒塾生と協力して、青森県の高校生を対象にオンラインディスカッションイベントを計2回開催した。
佐賀県内の高校に配られる記事を書くという研修に参加した。この研修では、企業を訪問し、リーダー塾で学んだことを活かして、記事を書こうと思っています。
地域の企業に地域おこしの企画書を持っていき、プレゼンをした。地域の様々な取り組みをしている人たちを周ってお話を聞いたり、自分がしたい取り組みについて話し合いしたりをした。
担任の先生から提案された講演会の準備を、卒塾生と一緒にやっている。(複数人)
県庁の方や地域おこし協力隊の方に地域振興についてのお話を聞いた。
SDGsに関係したプログラムに参加することが決まった。
フェアトレードの活動に参加した
目標とする大学に近づくため英検準1級を取得しました。
地域ボランティアに積極的に参加した。

7. 塾を支えるスタッフ

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に、学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらうためである。例年、クラス担任は、協賛企業などが派遣してくださっている。今年も20代～50代までの年齢も職種も多種多様な14名の社会人の方々に、7クラスに分かれて、前半後半のそれぞれ一週間を受け持っていた。合宿形式で指導していただくことに加えて、オンライン参加者や療養中・待機中の塾生にはオンライン形式でも指導していただき、塾運営を支えていただいた。クラス担任は、日々の講義や議論の指導だけでなく、塾生の様々な相談にも乗っていただいている塾の要の存在である。

そのクラス担任を支える学生リーダーは、主に卒業生からなる大学生・大学院生が参加してくれている。各クラス2名の学生リーダーを配置した。高校生である塾生にとって、年齢も近く、すぐ先のロールモデルとして身近な存在である。黙々と業務をこなす学生リーダーに、塾生は尊敬と憧れの気持ちを持っていた。学生リーダーは塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在でもある。

今年は塾開始前からクラス担任・学生リーダーに、感染対策など多くのサポートをいただいた。毎年、現地で行う事前研修も、今年は九州在住のスタッフ以外はオンラインでのハイブリッド形式で研修を実施した。塾本番でも、急遽決まったオンライン形式への対応や、食事中や合宿生活での感染対策の指導、陽性者発生によるプログラムの急な変更など、多くの場面で献身的にご協力いただいた。コロナ禍のなか、塾を支えてくださった皆さまには、改めて深く御礼申し上げたい。



▲ハイブリッド形式での事前研修。対面で参加した担任の先生とスクリーンに映るのはオンライン参加の学生リーダー

今年もコロナ禍の中での合宿開催となったため、事務局に、旅行添乗などの経験豊富な大家美希さんと、弊塾の担任やアドバイザーとして経験豊富な特定非営利活動法人九州・アジア経営塾の市川智也さんを迎えた。大家さんには、講師の交通手配、濃厚接触者となった塾生のお世話やアレルギー対応などの重要な業務を、市川さんには、アドバイザーとしての事務局のサポートをはじめ、講師への対応や体調不良者の移送をしていただいた。さらに、担任の経験もある春日市役所の上野志保さんに、サポーターとしてマハティール元首相への対応など事務局を支えていただいた。

また、看護師の派遣会社に依頼し、看護師の梅野玲子さん、今城紗於里さんに常駐していただいた。体調不良の塾生の対応や陽性者発生時の対応など、大きく貢献していただいた。

グローバルアリーナの皆様には、陽性者が発生した際、急遽宿泊部屋を用意して快く受け入れていただき、さらに、待機中の塾生への食事の配膳や、塾生を元気づけるためにお菓子まで用意していただき、塾の継続へ全面的なバックアップをしていただいた。

その他、講師の送迎や現地での準備をお手伝いしてくださった福岡県の皆様、塾生の受付業務や機材などサポートしてくださった宗像市の皆様、佐賀県での陽性者発生時に的確なご助言とご協力をいただいた佐賀県の皆様、またその他の参画道県・市の皆様には心から感謝したい。

ここでは、2週間を共にしたクラス担任と学生リーダーについて述べたい。

クラス担任

(1) 概要

担任の先生は、各協賛企業を中心に各社の中堅クラスのリーダー格の社員を送ってくださるので、安心して塾生をお任せしている。今年の派遣企業・機関は、下記の通り。企業以外に、歴史研究者の門脇朋裕様、フリーランスカメラマンの野中美希様、7期卒塾生で現在臨床心理士の重光咲希様、フリーランス運送業の松久芳貴様も引き受けてくださった。

■クラス担任派遣企業・機関（五十音順）

株式会社アトル
学校法人麻生塾
株式会社 QTnet
サッポロビール株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社ふくや
株式会社ミズ
三井物産株式会社九州支社
立命館アジア太平洋大学

クラス担任の先生方には、1クラス20名程度の塾生を担当していただいた。6月の事前研修では、先生方にリーダー塾の特徴や担任の役割を伝えていた。また、塾生自身に主体的に考えさせるようにしてほしいという指導方針を伝え、各人の社会人経験をもとにクラスを運営するようお願いしていた。塾生にとっては、親や学校の先生以外の大人から指導を受ける機会はない。塾生の成長のため、熱心に指導して下さる先生方の姿を見て、「こんな素敵な大人がいる」と感動し、ロールモデルとして目標にしたいという塾生も多かったようだ。社会人としての経験や知識に基づく先生方の言葉から、塾生たちは多くのことを学んでいた。

今年は感染状況の悪化を受け、急遽現地とオンライン参加のハイブリットとなったが、想定していなかった状況にもかかわらず、柔軟に独自の指導を取り入れながらご対応いただいた。急遽変更となったため、先生方にはご迷惑をおかけして申し訳なく思う。しかし、状況をご理解いただき、クラスの学生リーダーと協力し、どうしたらオンラインの塾生も主体的に参加出来るか考え、試行錯誤しながら塾生とコミュニケーションをとってくださった。

卒塾後も、先生方と塾生の間で交流が続いている。担任の先生の企業や大学へ塾生が訪問し、見学させていただいたり、学生リーダーと塾生のオンライン相談会にご参加いただいたりしているようだ。今回の塾を実りあるものにしてくださった立役者であるクラス担任は、なくてはならない大きな存在だ。クラス担任の感想は、次ページの通り。



▲キャリア教育の様子



▲塾生との別れを迎える先生方



▲塾生からの感謝の言葉



▲塾生への最後のアドバイス

(2) クラス担任感想

■クラス担任からみた塾生の感想

とても優秀な生徒だと感じた。それぞれ個性も豊かで参加の目的も違ったが「何か」を得て帰りたいとの意識はとても高く、前向きな姿勢の塾生が多く、私自身勉強になった。
塾生全般について能力や資質・能力の高い学生が集まっているように思いました。生徒たちの素直な姿勢に自分自身の襟を正される思いでした。
まずレベルの高さに驚きました。特に感じたのが明石先生の質疑応答での事。英語で質問して聞き取っているところ。凄さと一緒に悔しさもありました。
20人の塾生の担任をさせていただいて、それぞれが様々な考えのもとでリーダーを目指す姿に自分も仕事を見つめ直すとてもいい機会となりました。
成績優秀で付け入るスキがない高校生というようなイメージでしたが、実際に会うと年齢相応のとてもはつらつとしたかわいい子達でした。生活・議論の中でもがき、挑戦する姿に何度も心動かされました。
塾生ごとに考えはよく纏められていた印象だが、それぞれの意見を纏める難しさを感じていたようであった。やや理想に偏りすぎ現実的に解決に繋がるかという点に対して、ディスカッションが薄かったように感じている。様々な角度から物事を捉え解決策を導き出す力をさらに伸ばしてほしいと思います。
塾生については、本当に意識の高い塾生が集結していたと感じました。面接を実施したりとある程度のふるいにかけてきた結果、相乗効果によりお互いを高めあえるような生徒が集まったと感じます。特に、話を聞く時の態度や、「この2週間は遊びに来たのではなく、自分自身を成長させるために来た」という気迫を、言動一つや行動一つからも感じ取れるような雰囲気がありました。

■クラス担任の指導方針、クラス運営

「距離感」を一番気にした。自分で考えさせる事が大事だと考えてたので一步距離を置いて接した。しかし反省点としては「距離」を置き過ぎたのではないかという事。もう少し踏み込んで接した方が良かったのではと感じている。
チームとして最大の力を発揮するよう前半はチームビルディングに力を入れて運営を行いました。日々の生徒の状況を把握し、適切な振り返りを促すためリフレクションシートを導入しました。一見おとなしい生徒の心情がよく分かり、日々の生徒支援に役立ちました。また、クラスとしての目標設定を行いました。目標設定があったことで頑張れたという声が複数ありました。
感染症対策を徹底しないといけない昨今の状況下で、黙食や黙浴などの注意喚起が大切だと感じて高校生たちに伝えていきました。仲良くなるために話したい気持ちはとてもわかるのですが、やはり相手の気持ちを考えて行動出来るリーダーになってほしい思いがあります。ホームルームなどを通して伝えることで、塾生たちが変わっていく姿に非常に感銘を受けました。
私は、基本的にある程度塾生の自主性や判断に任せていましたのでこれと違って工夫したような点はありません。ただ「自分・人への感謝を持ちクラスで置いてけぼりを一人も作らない」という裏テーマは事前に学生リーダーと話し合い決めていました。
基本的には頑張り屋さんで、優秀なクラスメイトに囲まれれば自分でダメ出しをするのではないかと考えたので、みんなが窮屈にならないように、寛容でいるように意識しました。もちろん、それで成立したのは、運営の学生リーダーがしっかりと締めるところは締めてくれたからです。
一人一人と話す時間が足りませんでした。塾生にとってみんなで話す内容と、個別に話す内容は別物だったので、個別に求めているものにもっとリーチしたかったと悔やまれます。
2人の学生リーダーからさまざまなアイデアをいただき、とても助かりました。学生たちもレクレーションとAHSのメリハリがしっかりとついた内容で取り組んでいく事でチームビルディングが進んでいったのではないかと思います。塾生一人一人の笑顔が見れたことがとても良かったです。
学生リーダーの方の提案で、振り返りシートを書いてもらう取り組みをしました。直接話せなくても塾生の考えが知れる機会になったことと、行動の変化を感じられました。学生リーダー・担任のコメントを楽しむにしてくれている塾生もおおり、好評だったと感じます。

最初のホームルームでは、ここに帰ってきたらホッとするようなクラスにしたい、周りをよく見て励まし合いながら、一人も取り残されないようにみんなで頑張ろうと伝えました。塾生はそれを非常に素直に受け止め最初から体現してくれました。

■クラス担任をした感想

事務局の皆さんや学生リーダーの皆さん、看護師さんに支えられて素晴らしい体験をさせていただきました。私にとっても生涯忘れることのできない経験となりました。機会をいただけるようであれば、次回は後半担任を担当してみたいものです。

キャリア教育の時間が、私にとってたいへん印象に残る貴重な時間となりました。自分が今までの12年間の仕事人生を改めて深く掘り下げていきながら振り返ることもでき、これからの仕事に対する姿勢も変わってきました。自分の教え子たちに恥じぬ仕事ができるように、更なる情熱をもって仕事に取り組んで参りたいと思います。

一生懸命な人たちと一生懸命何かをやるということはとんでもないやりがいを生み出すものなんだと、仕事の取り組み方について見直すきっかけとなった。キャリア教育とAHSの2つが面白かった。

改めて未来のある子どもたちと接する時間はとても有意義で尊いものでした。

また講義についても超一流の方々のお話を聞いて非常にためになりました。

私は人とコミュニケーションを取ることが好きなのですが、高校生とのコミュニケーションの機会はなかなかないと思いますのでとても貴重な体験でした。限られた時間でしたがすべてを出し切れたかなと思ってます。全力で取り組む事の大切さを改めて感じました。

リー塾では「学校では教えてくれないけど、人生ではとっても大切なこと」を学べると感じています。それは塾生も、我々クラス担任も。割と人に何かを教えるのって嫌いじゃないのかも、と感じています。

塾生が自らの望む成長や学生リーダーの方のやりたい方針、一人一人のリー塾参加への想いをどのようにサポートできるか、そのことについて注力して動いた1週間でした。それぞれが、自分自身が何かできたと思えた時間となれたことを願います。

この経験で、自分にとってはエリート教育が一番おもしろいと感じていることに気が付きました。仕事の中なのか課外活動かはわからないけれど、これからも関わる事ができる場を見つけていきたいと思っています。

自分自身を見つめなおすきっかけになったと感じています。自身の成長に貪欲になっているか？イキイキとした塾生からそんな問いかけをされているような気がするのです。ライフプランニングを見直したり、社内・外部のセミナー等に積極的に参加しています。

生徒たちの熱い気持ちや、考え方を持ち帰ることができ、仕事により一層身が入るようになりました。「あいつらにやまだまだ負けてられん！」といったところでしょうか。

また、私がどう変わったかも、塾生たちに共有しており、何人かは「先生には負けてられん！」とある意味ライバルのような関係になりました。

■クラス担任に対する塾生の感想

担任の先生は、HRで今のクラスに必要なお話をしてくださいました。先生からのアドバイスが円滑に活動をするためのヒントや助けになったことが沢山あります、先生には感謝の思いでいっぱいです。

担任先生には個人的に相談に乗ってくださいました。キャリア教育で聞いた今までのストーリーは本当に感動し、尊敬しました。先生の前ではありのままの自分が出てきて、悩みをたくさん聞いてくださって泣いたことが何度もあります。先生みたいになっこのいい大人になりたいと思いました。

前半の先生も後半の先生もキャリア教育が思い出に残っています。まず、前半の先生のキャリア教育でクラスの雰囲気が変わりました。ありがとうという言葉がどこからも溢れ、同じ方向を向けたと感じています。後半の先生のキャリア教育では、お互いの強みを発見するためにグループワークのようなものを行いました。担任の先生たちは私たちが存分に力を出せるよう、いつも傍から見守ってくれていました。

<p>クラス担任はとっても優しくていい人すぎました。3日目で既に悩んで泣いていた私の相談に乗ってくれた前半担任の先生が、担任交代の日までずっと気にかけてくれたことが特に印象深いです。あの支えがあったから冷静に自分を見つめなおし、一步一步前に進むことができたのだと思っています。</p>
<p>結構年が離れていて、親以外ではあまり関わったことがない年代の人との関わりだったけど友達のように関わられて楽しかった。普通の生活では失礼なくらい仲良く話せるのはリーダー塾のいいところだと思う。</p>
<p>私は担任の先生と忘れられない思い出が2つある。1つ目はキャリア教育で先生が自らの過去、そして夢を話してくださったことだ。先生の熱い想いに感動したし、ありのままを話してくれてどこか嬉しい気持ちになった。2つ目は先生が私の悩みに向き合ってくれたことだ。今まで誰にも言えなかった悩みを先生は受け止めて、そして励ましてくれた。とても元氣と勇気をもらい、夢を追いかける糧になった。どんなに辛いことがあっても、先生の言葉を思い出して諦めず頑張りたい。</p>
<p>急に隔離生活が始まり、前半の担任の先生と離れることになった時はとても号泣してしまいました。前半の先生からも後半の先生からもたくさんのことを学びました。私が積極的に発表できるように工夫してくださったり、みんなが盛り上がるように音楽をかけてくださったりして、とても感謝しています。</p>
<p>担任交代式の前に、対話と写真撮影の時間を設けてもらった。そこでは、自分の進路にかける思いやバックグラウンド、悩みなどを赤裸々に話し、沢山のアドバイスをいただくことができた。そして、1週間の関わりの中でお互いを知れたこと、もっと一緒にいたかったことを伝え合い、想いが溢れてきてしまい、熱い涙が出てきた。みんなも出会いと別れに心を動かされて泣いていたのを見て、皆んなの思いが一つになったのは担任の先生のおかげであると実感できた。そんな先生とのツーショットは一生の宝物だ。</p>
<p>私がまだリーダー塾にきて最初の頃、不安で仕方なく帰りたい気持ちでいっぱいだった。そんな時に先生と会話をし、心が軽くなったことを覚えている。後半の先生はAHSの時に厳しい意見を言われ、気持ちが落ちてしまったこともあった。しかしその意見は当時の状態を打開するものであり、そのおかげで大変良い方向へと進めることが出来た。どちらの先生も非常に良い方であり、このクラスでよかったと考える。</p>
<p>話し相手がおらず、ひとりぼっちだった私に話しかけてくださったこと。いつも初対面の人には人見知りが発動してなかなか話しかけることが出来ないが、先生に話しかけていただいて少し心が軽くなった。</p>
<p>特に深く関わっている訳ではありませんが、そばにいただけでも何と言うか安心するような感覚になりました。最初に会った時は、とても話しかけづらいような感じでしたが、時間が経つにつれ、どんな話でも話しかけられる存在へと変わっていったのは、いい思い出となっています。前半担任、後半担任の先生共にそのような存在になり、とても嬉しかったです。</p>

(3) 評価点、課題

急遽ハイブリット開催となったことや、陽性者が発生した後の運営など、流動的に対応することが非常に多かったため、実際にやってみた結果、事務局も想定していなかった問題点・疑問点が浮上することもあったが、先生方には大変柔軟に、献身的にご協力いただいた。

特に、濃厚接触者の待期間などのセンシティブな情報を塾生に冷静に伝えることや、待機中の塾生が少しでも主体的に参加しやすくなる工夫などに尽力していただき大変感謝している。

これまで学生リーダーに業務が集中していたことから、クラス担任からもっと仕事を自分たちに振ってもらってよいというご意見をいただいていたが、今年はクラス担任のほうから率先して仕事をしていただいたため、大きな問題がなかった。今年はクラス担任と学生リーダーの業務量のバランスに改善が見られ、協力して塾運営に携わることが出来たと思われる。

学生リーダー

(1) 概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。クラス担任と塾生の橋渡し役となりクラス運営をサポートする「クラス担当」と事務局の仕事や撮影、ハイブリッド講義関係を行う「全体統括」、「アジア・ハイスクール・サミット担当」は塾の目玉であるアジア・ハイスクール・サミットの企画・運営に携わった。今年度は全国から14名の大学生・大学院生が集まった。「全体統括」と「アジア・ハイスクール・サミット担当」の学生リーダーにも各クラスの副担当としてクラス運営にも携わってもらった。また、関東在住の2名の学生リーダーにはアルバイトとして塾開始前から運営に携わってもらった。

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に

■学生リーダーの所属校（五十音順）

学校	学年	卒塾期	担当
北里大学	2年	16期	全体
慶應義塾大学通信課程	3年	15期	クラス
国際基督教大学	2年	15期	クラス
西南学院大学	4年	15期	全体
広島大学	4年	14期	全体
一橋大学	2年	16期	クラス
松山大学	4年	14期	クラス
明治大学大学院	2年	12期	クラス
立命館アジア太平洋大学	3年	15期	AHS
早稲田大学	3年	15期	AHS
早稲田大学	4年	13期	全体
早稲田大学大学院	2年	—	クラス
King's College London	2年	15期	全体
University of New Mexico	3年	14期	クラス



▲塾生に配膳する様子



▲塾生に向けて自信の経験を共有する様子



▲アジア・ハイスクール・サミットのルール説明



▲活動の様子を撮影

送付したニュースレターに加え、卒塾生交流SNS、InstagramやFacebook等のSNSで行った。学生リーダーは大学2年生以上の大学生および大学院生を対象としている。学生リーダーの選考は書類とオンライン面接を行った。卒塾生が13名、非卒塾生が1名であった。今年度は定員よりも多くの応募をいただいた。忙しい中応募してくださった全ての卒塾生に感謝申し上げたい。

授業の都合がついた学生リーダーには塾開始数日前からグローバルアリーナに入ってもらい、準備に協力してもらった。それ以外の学生リーダーには、福岡市内のホテルで前泊していただき、塾前日のPCR検査にご協力していただいた。グローバルアリーナに前泊していただいた学生リーダーには、パーティションの設置や抗原検査の準備、講義会場や宿舎の設営などをお願いした。塾生同士の距離を1メートル以上確保しながら机や椅子を設置するなど、体力がいる作業も多くあった。学生リーダーには塾開始前から塾後まで、塾生への生活指導、事務局の届かない細やかな作業、専門分野を活かした自発的なワークショップの実施、力作業、書類整理など多くを支えてもらい、精神的にも体力的にも運営になくはない存在であった。塾終了後も、学生リーダー主催の進路相談会やクラスでのオンライン同窓会を実施するなど、塾生との交流は長く続いているようだ。学生リーダーの献身的な協力に心から感謝申し上げたい。

(2) 役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、次の4点を重視している。

- ① 塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること
- ② スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること
- ③ 塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと
- ④ 主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動すること

事務局をサポートするため、全ての学生リーダーが自発的に行動し、塾運営における中核を担ってくださった。クラスでは担任の先生方と話し合いながら、HRの運営やAHSでの指導を行っていた。クラス担当の学生リーダーは塾生と接する機会が多い分、常に塾生の精神的・身体的な健康面を気遣い、行動してくれていた。今年もハイブリッド方式での開催となったため、機材・設備を担当した全体統括担当の学生リーダーは遅くまで接続方法について検討をし、スムーズな講義運営をしてくれた。また、事前にその日のスケジュールや会場を把握して、どのように動けばスムーズにオンライン・オフライン双方の塾生がコミュニケーションをとれるかを考えながら準備をしてくれた。AHS担当の学生リーダーは塾が始まる前からサミットのテーマについて入念に検討し、塾の集大成であるサミットを成功させてくれた。

また、今年度は過去に学生リーダーの経験がある者が約半数となり、初めのうちは初参加の者と距離感がある様子が見られた。しかし、そのような状態をうやむやにするのではなく、全員が納得するまで話し合い、プログラムをより円滑に進行するために解決策を実践していた。事務局として説明が至らない点多々あったかと思うが、その都度最善策を自発的に考え、意見の違いが生まれたときには話し合うという姿勢は、まさに塾生のロールモデルになっていたのではないかと思う。

加えて学生リーダー間でのチームワークも素晴らしいものであった。今年度は大学2年生から大学院2年生と幅広い年齢層であった。それにより、経験や知識の差が見られる場面も散見された。しかし、経験の少ない者は積極的に質問し、経験の多い者はわかりやすく説明するなど、常に協働する姿勢が見られた。塾生にチームワークが大切であると言葉で伝えるだけでなく、背中で伝える姿は塾生への刺激になったのではないかと思う。

塾生の感想の中には「自分もいつか学生リーダーになりたい」とあり、非常に嬉しく思った。

(3) 学生リーダー感想

■学生リーダーから見た塾生の感想

タイトなスケジュールだったので、疲れが溜まりやすく体調を崩したり、講義の際などに眠くなったりしやすいが、就寝時間が守れていないことが多く見られたため、自分の体調管理に配慮して休む時は休むという切り替えができるようになってほしいと感じた。

全体的に素直な塾生が多かったと思います。2週間という短い期間ですが成長角度が高かったです。AHSでは塾生達同士で建設的な話し合いをする姿が見られました。全体での講義の前も自分達で時間を意識し、声を掛け合って着席することができていました。今後期待することとしては、基本的なことをしっかりとできるようにしてほしいです。トイレのスリッパをそろえる、使い終わった部屋の電気やエアコンを消す、使ったものを元に戻すなどができれば、もう一段成長できるのではないかと思います。

良かったこととしては、塾生が手指消毒など期間中の感染対策に協力的であったことです。また、能動的に講義に参加し、活発に質問する塾生も多く見られました。新しいこと（英語発表など）にチャレンジしている姿もあり、この貴重な2週間を最大限生かそうとする意気込みが見られました。逆に成長してほしいこととしては、体調不良者が続出したことです。消灯時間過ぎてもライトつけて喋ってる塾生がいて、結局次の日体調が崩れたり睡眠不足で講義中に居眠りしてしまった塾生も見られました。自分がその瞬間楽しく話すことだけでなく、同じ部屋で寝ている他の人も気遣えるようになることを期待します。

良かった点としては、クラスのミーティングの進め方として、公平に物事を進めるということが軸になっていたところだと思います。大多数の意見だけを重視するのではなく、少数派の意見も受け入れて、クラスの発表の方向性がガラッと変わったあの瞬間も多々ありました。他の子の意見をきちんと受け入れて次に進むことができる子が予想していたより多かったです。また特に塾の後半にはお互いを思いやり励ましあい、サポートし合う姿が見られました。自分も辛い環境にいる中で、他の子思いやりサポートしあえるような心の余裕を持ってた持てるようになっていったことが良かったことかなと思います。

自分の意見も持ちつつ、相手のことを思い日々行動ができていたと感じる。疲れを感じている仲間がいたら自然に休むような流れを作り出せたり、悩んでいる塾生には何気なく何に悩んでいるのか原因を一緒に考え解決していく優しさあふれる姿勢が見られたりしたことが、個人的にうれしかった。

学生リーダーや担任がいなくても自分たちで考えて行動できていた。オンオフの切り替えが上手で、自分たちを高める環境づくりを自ら行えていたと感じる。議論するときとはとことん真面目に、そして遊ぶときは程よくくだけており、柔軟性を持って行動できていた。全力で学び、全力で遊ぶクラスだった。

■学生リーダーの感想

私は応募時から一貫して、塾生にリーダーシップを体得して欲しいと考えていました。そして、初日と最終日に理想のリーダーシップのアンケート調査を行ったり、リーダーシップの講義を行いました。その結果、最終的に私が伝えたリーダーシップの理論に照らし合わせて自分を評価していた塾生もいて、色々準備した甲斐がありました。その他、最初は内気な塾生が最後はクラス全体の前で発言をしたり、意見をまとめたりしている姿を見て、成長する姿を隣で見ることができたのは初めての経験で、教育分野に興味を持つことができました。

学生リーダーとして、塾生とどのように関わるべきか、距離感や声のかけ方、寄り添い方に戸惑うことも多かったが、自分の意見に自信を持って発言することの大切さを学んだ。ぶつかるからこそ見える視点や物事に対して全力であることの素敵さを感じた。リー塾はきっかけであり、自分に刺激を与えてくれた出会ったすべての人に感謝したいと感じている。

日常から離れた環境のなか、多様なフィールドで学ぶ学生との出逢いがたくさんあった貴重な夏でした。高1の夏に受けた刺激とはまた異なり、大学生となって改めて参加することで見えてきた多くの新しい発見と課題があります。塾が終わってもその時に抱いた気持ちを忘れずに、自分のやるべきこと、やりたいことを追求し続けようと思います。

学生リーダーを体験して裏方の重要さを改めて再認識した。また学生には幾度も感動させられた。成長スピードには本当に驚くべきところがあり自分が先生になりたいのだろうかと思ってしまうほど、卒塾式を見ながら涙が出た。自分自身も多方面で本当に成長が出来たと思う。ディスカッションの具体的な指導方法や、色々な考えを持った学生リーダーと出会うことでの学びも多くあった。

塾生と学生リーダーの両方の立場からリーダー塾に関わることで、それぞれの視点から異なることが見えました。学生リーダーをしてリーダー塾が終わった直後に、自分が塾生だった時の学生リーダーにすぐ電話で感謝を伝えました。本当にたくさんの人の支えがあってこそ、自分達が高校生の時、リーダー塾に参加できたことを再認識しました。

大変さの中に楽しさや達成感を見つけることができた経験となった。講義運営やAHSでのアドバイス、委員会の仕事など初めてやる仕事に戸惑い、時には体力的にしんどいと感じることもあった。ただ、その環境で2週間やり切ったという達成感や、自分の仕事が塾生が楽しく過ごすことに繋がったのならよかったなという気持ちも生まれた。ものすごくやりがいのある有意義な経験となった。

今年は学生リーダーの中でもリーダーシップを図らなければならない立場を経験させていただきました。正直自分自身のキャパシティを超えて沢山涙を流しましたが、その度に学生リーダー、事務局の皆様がフォローしてくださいました。リーダーとして、自分の発言に自信を持つことが大切であると改めて実感しました。自分の短所である自分の意見を言うことを躊躇してしまうことに対しても、学生リーダーだったら受け入れてくれると信じ、克服するチャンスを得ることができたと思います。

■学生リーダーに対する塾生の感想

クラスのお兄さん、お姉さんの存在でした。担任の先生とはちがい、学生リーダーは少し人間味があり、失敗しているところも見て、安心しました。特に良かった点はメンタル面で支えてくださったことです。学生リーダーがわたしが泣いているときにずっとそばにいてくださったことが特に印象に残っています。

見守りつつも一緒に伸びようとしていた。自分が指摘したことを真剣に受け止めてくれた。

クラスにとってお兄さん、お姉さんの立場で、塾生に寄り添ってくれる存在だったと思います。良い意味で、クラスのディスカッションにあまり関与せず、見守ってくれていて、アドバイスをお願いした時には自分の実体験も踏まえて的確なアドバイスをくれたことが印象的でした。また、時には厳しく注意してくれる反面、休み時間は一緒に笑い合っ話してくれるなど、とっても優しくったことが思い出です。

学生リーダーは、自分達に反省点や改善点を気づかせてくれる存在であり、リー塾をより楽しませてくれる存在でした。私は、毎日ホームルームや AHS でみんなが集まっていて、それらが始まるまで待っている時に、学生リーダーの方達と一緒に歌ったり踊ったりする時間が大好きでした。

リーダーとは何なのかについて教えてくれる存在だったと思う。私がリーダーとして悩んでいる時にも、話しかけてアドバイスをくれたり、話し合いを進める上でどうやって進めていけばいいか方法を教えてくれた。これらのことにより、リーダーのタイプは様々あることを学んだ。自分が得意な分野は伸ばせば良いし、逆に不得意な分野は他の人と協力して良いチームを作り上げることが大切であると体感した。

リーダー塾の先輩として、学生リーダーが塾生だったときはどうだったかなどお話しして下さって、楽しく過ごすことができた。アジアハイスクールサミットでは厳しい言葉をいただくこともあったけれど、それがなければ自分達の納得のいくものに仕上がらなかったと思うので本当に感謝している。

クラスのお姉さん、お兄さんのような存在で楽しくするときには一緒に明るく遊んでくれて真剣なときは、的確なアドバイスをしてくれて本当にありがたい存在だった。卒塾式の前夜にみんなで集まって話したことと広場で円になって一人ずつ話したことが印象的です。

クラスのみんなが本当に困った時に手助けしてくれる存在でしたし、先生方よりも年齢が近かったのでお兄さんお姉さんのようなポジションでした。1番印象に残っているのは自分の役割について、学生リーダー自信も周りの状況に合わせて変えていると言っていたことで、学生リーダーも自分たちと同じように悩みながら生きているんだなと感じたことです。

少し年の離れたお兄さん、お姉さんという感じで、自分の将来を重ねられる存在だったと思う。議論の仕方など、さまざまなことを教えて下さって、学生リーダーから学んだことがいちばん多かった気がする。

想像していたよりも気さくで、躊躇わずに話しかけることができました。卒塾後にクラスメイトとグループディスカッションの練習をした際に、学生リーダーが的確な分析でそれぞれの良い点と足りない点を述べてくれたことが印象に残っています。

2週間と言う長い期間で、緩んでしまう意識をいつも声をかけて引き締めて頂いたり、ディスカッションに役立つ情報や、話を聞かせて下さったり、クラスの運営を円滑にするために毎日遅くまで仕事をしていたり、本当になくはない存在だった。研修期間も残り2日という夜に、これまでの思い出をまとめた動画を作って下さり、上映会をした。学生リーダーや先生方からのメッセージが大きな励みになり、残りのわずかな時間も頑張ろうと思えた。

8. カリキュラム

(1) 戦争回避に人類が何ができるか、各界の専門家が講義

リーダー塾は、日本や世界を代表する学者、経済人ら各界を代表する一流の講師による講義が大きな特徴となっている。今年は、2週間かけて塾生がクラス別に議論する「アジア・ハイスクール・サミット」では、ロシアのウクライナ侵攻やミャンマーなど世界各地で内戦が深刻化している現状を踏まえ、「戦争をなくせるか次世代がつくる平和への道しるべ」と題して議論することとしたため、紛争地帯での活動の大切さ、唯一の被爆国として日本が果たす役割、また、国際的な平和構築のために何をすべきかを考えるヒントとして、日本の安全保障の在り方、日中韓、米中など国際関係学の観点からの専門家の講義をお願いした。そして、講師の方々には、それぞれの専門分野の講義に加えて、想定外の多くの困難が襲い掛かっている今、次世代がリーダーとなる時に、いかに立ち向かっていくべきか、その矜持を話していただいた。

日本で初めての国連職員に採用され、事務次長になられた明石康先生には「世界の中の日本—もっと外に開く国に」(Japan in the world-towards a more open, dynamic country“)と題して英語で講義をしていただいた。ロシアのウクライナ侵攻を受けて国連が安全保障理事会や40年ぶりの総会の緊急特別会合を開催したが、ロシアによる侵攻を止めることに至らず、不完全であり多くの問題を抱えているものの、「私たちは互いに協力しあい解決策を模索することを放棄してはいけない」と力説された。そして「これからの担う若い皆さんには世界市民として多様な世界に目を向けてほしい。国際社会が抱える問題解決には様々な国籍やバックグラウンドを持つ人々と協力していく必要があるので好奇心を持ち、読書やリベラルアーツ教育を通じて教養を身に付けてほしい」と激励していただいた。

長崎被爆2世であり、長崎原爆被災者協議会事務局長の柿田富美枝先生には、「被爆2世からのメッセージ」と題して講義していただいた。小学校6年生の夏休みの宿題で初めてお母様の被爆体験を聞き、「戦争ほど怖いものははない。戦争や原爆は二度と起こしてはいけない」と何度も語りかけられたことが被爆2世としての原点であり、現在、被爆者が高齢化して、証言する人が減っている危機感から被爆2世、3世が語る「家族証言事業」の取り組みが始まった経緯や「今日の聞き手が明日の語り手」として原爆の悲惨な事実を伝えていくことへの決意を語っていただいた。そして「よりよい未来のために多くの仲間をつくり、平和をつくるリーダーになってほしい」と塾生への注文をいただいた。

紛争の現場で外科医師として活躍していらっしゃる国境なき医師団の村上大樹先生から、国境なき医師団が「独立・公平・中立」という活動原則のもと、インフラが整備されていない地域での活動で、現地で医療に必要なものを一から調達することは不可能で、提供できる医療の限界があり、すべての人を助けることができない悔しさを感じた経験を語っていただいた。紛争では第一にインフラが狙われるため、病院も標的となり、医療をストップさせずに活動を続けることの重要性、スタッフの中には仕事や住居も一瞬で失い難民になってしまうケースもあり、「戦争は悲惨であり、世界で起こっていることに無関心、無関与の空気を作らないでほしい」と訴えられた。

宮川眞喜雄・前国家安全保障参与には「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。日本のためにアジアのために」と題して講義していただいた。宮川先生は、世界は大きな変革期を迎え、米ソ冷戦の時代、グローバル協力の時代、そして戦後第三の時代である分断と対立の時代に突入した。武力衝突を回避するには「均衡を保つことが重要。日本は技術水準を高め、経済力をつけ、防衛力を強化し、交渉力を強めることが必要だ。次世代には大局観を得て、確信を持ち、大勢の共感を得て、物事を前進できる人物に育ててほしい」と激励していただいた。

経済人の立場として、滝久雄・ぐるなび取締役会長・創業者からはリーダー憲法を披露していただき、①先輩や後輩と連携して与えられた仕事を予定より早く、高い完成度で達成する②人間を好きになり、人間社会を好きになる③お互いの文化を尊重し、その国の歴史に基づく価値をリスペクトするとい

うことが大切との考え方をご教示いただいた。

国際関係学の研究者として佐橋亮・東京大学東洋文化研究所准教授には、日中韓、米中関係に加えて、現在国際社会が直面しているロシアによるウクライナ侵攻の問題から人権が踏みにじられ、国際秩序が行き詰っている現状を解説していただいたうえで、安全保障で最も大切なものは何か、それを今、または将来脅かすものは何か、どのような手段で守るのかという3つの視点から講義していただいた。

歴史学者の観点から笠谷和比古・国際日本文化研究センター名誉教授には、戦国時代において毛利元就が周辺地域の中小の領主たちと協力して共同体を結成するために「一揆契状」という同盟条約を締結したこと。一揆契状では、傘連判という全員が平等であるという形式を採用。これにより、毛利元就が周囲から支持されるリーダー役となり勢力を拡大することができた。「民主的で理にかなうもの。毛利家の政治体制は世界に誇るべき日本の文化伝統である」とご教示していただいた。

様々な観点からの戦争と平和に対する講義は、塾生にとって、アジア・ハイスクール・サミットで高校生として平和な世の中をつくるために何をしないといけないかを考えるきっかけとなったことは間違いない。今年は27人の様々な分野の講師の皆さまから多くの新しい刺激をいただくことができたことに感謝をささげたい。

(2) マハティール元マレーシア首相と「戦争と平和」の真剣勝負のセッション

開塾以来、講師を務めていただいているマレーシアのマハティール元首相は、コロナ禍で昨年、一昨年と外国人の短期滞在の来日が制限されていたためオンラインによる講義となったが、今年は来日があった。

マハティール元首相には、アジア・ハイスクール・サミットで討議を行った戦争と平和のテーマに沿って「戦争はなくせるか一次世代が果たす平和への貢献」と題して講義をお願いした。

講義を前にマハティール元首相夫妻の前で、塾生がアジア・ハイスクール・サミットで何を討議し、どういう政策を立てたか1分程度、各クラス代表の塾生が英語で紹介した。

前日に行われたアジア・ハイスクール・サミットの最終発表で優勝した2組は15分程度発表した。「戦争は教育の力でなくすことができる」という結論だった。人々に戦争について知ってもらう具体策として「風刺画コンテストを行い、優勝した風刺画をTシャツのデザインにしたり、商品のラベルに掲載したりして戦争に関心をもってもらう」、また「“No War Project”で、最初にバーチャル・リアリティで戦争を体験してもらい、文字なしの絵本で戦争の悲惨さを伝える。次に、戦争地に住み、戦争に直接影響を受けた人々やジャーナリストに、学校などで講義をして戦争の悲惨さを伝えてもらう」と発表。「“No”には、“Know”の意味も込められていて実際の戦争について知ってもらい、戦争を起こしてはいけないという思いを伝え続けるプロジェクトである」と結論を述べた。

塾生の発表の後、2泊3日で塾に参加した高校留学生に発表をしてもらった。留学生たちは、公益財団法人 AFS 日本協会が九州・山口地区で受け入れているアジアや欧州15カ国・地域から23人の留学生たち。前日、塾生とディスカッションした後、留学生だけで戦争をなくす貢献策を話し合った。

名前と出身国などの簡単な自己紹介を行ったうえで、主に戦争の原因について分析を発表。「資源争奪、国際協力の欠如、そして権力の奪い合いが原因である」と述べ、「古くから当該国の2カ国、もしくはそれ以上の国々が戦争に突入し、国際秩序を乱している」と考察した。



▲優勝クラスがマハティール元首相の前でAHSの内容を発表する様子



▲AFS 留学生の発表

留学生が提案した解決策は、アジア・ハイスクール・サミットの優勝クラスと似ていて教育が戦争をなくす大きな鍵になるという結論だった。「二度と同じような過ちを起こさないように歴史から戦争の原因を分析」、そして「他国への理解を深めることに重点を置くことが重要で、そのためには各国の価値観や考え方を共有することが戦争のない世界に近づく最初の一步」であり、そのうえで「国際的な協力の枠組みをつくり、実現可能な方法を作り上げていく」と結論付けた。

さらに、ミャンマーからの留学生で現在、立命館アジア太平洋大学（APU）で学んでいるモー・ピント・プーさんが発表した。モーさんは AFS 日本協会が受け入れている日本政府奨学金「アジア高校生架け橋プロジェクト」で来日したが、昨年2月のクーデターで帰国ができなくなり、高校に在学したまま日本で大学受験にチャレンジした。モーさんは、今、何がミャンマーで起きているのかを発表した。「これまで数知れない人々が根拠なく逮捕され、子供も含めて2000人以上の命が奪われているにも関わらず、報道がほとんどないのはおかしいことだ」と強く訴えた。「しかし、何もせずに嘆いているだけでは現状が良くなるので寄付金を募り、日本でまわりの人々にミャンマーのことを伝えて、自分ができることを考えて行動している」と述べた。

塾生や留学生からの発表に対して、マハティール元首相から「これからの担う若いみなさんが一生懸命議論して、練りあげられたアイデアはとても貴重です。戦争はなくせるのか。どうしたら戦争を避けることができるのか。戦争とは今まで人々が築き上げたものを破壊し尽くすものです。残念ながらそこには勝者も敗者もいません。自分たちの利益のために、人を殺すことは断固として許されません。平時において、人を殺すことは犯罪となりますが、戦時に多くの人々を殺すと英雄として讃えられ、銅像が立ってしまうのは不条理ではないでしょうか。私たちは対立が起きたとき、人を殺すのではなく交渉、国際法などを活用しながら解決策を模索していくことが重要です。（第二次世界大戦後、イギリスの統治下から独立した後）シンガポールとマレーシアで起きた領土問題で我々は戦争ではなく、第三者の国際司法裁判所の判決に委ねることで解決を図りました。ロシアによるウクライナ侵攻は人々の命を奪い、街を破壊し、世界大戦にまで発展する恐れすら出てきました。このような解決策はマレーシアの解決策に比べ、劣っていると言えるのではないですか」と講義をしていただいた。

講義の後、塾生たちは、マハティール元首相とシティ・ハスマ夫人に感謝の意を伝えるために塾生一人一人の将来の夢のイラストとメッセージを書いたボードをプレゼントした。ボードには「弁護士になりたい」「医者になって困っている人々を救いたい」「動物保護に携わりたい」、「研究者になりたい」「海洋エンジニアになりたい」「国連で働きたい」「笑いに包まれた世界をつくりたい」「アフリカに住んで貧困から救いたい」など個性豊かな夢が挙げられていた。マハティール元首相はこのボードに“Dream like young people. But do carry out when you grow old.”（若者らしく夢を見ろ。しかし、大人になったら必ずその夢を実現せよ）とメッセージを書いてくださった。



▲ミャンマーからの Moe Pwint Phyu さん



▲メッセージボードを渡している様子



▲塾生の夢を読んでメッセージを書かれているマハティール元首相

(3) アジア・ハイスクール・サミット

「戦争はなくせるか一次世代がつくる平和への道しるべ」

(Can War be Abolished? —A New Milestone for Peacemaking)



① 概要

リーダー塾では、講義で学んだことを活かしつつ、特定のテーマに対して塾生が主体的に議論し、解決策を導き出すことを目的としたプロジェクト「アジア・ハイスクール・サミット (AHS)」をプログラムの一環として行っている。本プロジェクトは、正解がない課題に挑戦することで、近い将来、一人ひとりがリーダーとなった際、解決することが難しい課題に対し、率先して取り組める能力を高校生のうちから養うことを目的としている。

新型コロナウイルスの世界的なパンデミックも収まらない中、2022年2月24日、ロシアによるウクライナへの本格的な軍事侵攻が始まり、国際社会の緊張は一気に高まった。ここ1年間を見ても、シリアやアフガニスタンなどでは依然として紛争が続いており、ミャンマーでは昨年クーデターにより成立した軍事政権が自国民に激しい弾圧を加えるなど、紛争・戦争による国際情勢の不安定化は進む一方であった。また、核保有国であるロシアがウクライナ戦争を引き起こしたことによる危機感から、日本では安全保障の観点からアメリカとの「核共有」が一部では提唱された。「唯一の被爆国」日本において、自国内での核使用を容認する「核共有」の議論が盛り上がること自体、核兵器がこの国にもたらした惨劇の記憶が薄れつつある証左でもあるだろう。日本人はかつて、アジア太平洋戦争の惨禍の中で加害者にも被害者にもなった。戦争を直接経験した世代が減る中で、彼らの経験や平和への願いの次世代への継承は依然として課題のままである。

こうした状況を踏まえ、今期のアジア・ハイスクール・サミットでは「戦争はなくせるか一次世代がつくる平和への道しるべ」をテーマに掲げ、混迷深まる世界情勢の中で、争いのない平和な世界を実現するために何ができるのかを塾生たちは徹底的に議論した。

本プロジェクトは構想の段階から、議論の前提となる知識が高校生の間で不足していることが懸念されていた。そこで今回は、参加する塾生に対して、以下の2種類の書籍を自分で選んで読み、内容をまとめるということを事前課題とした。



▲議論の様子

1. 「アジア太平洋戦争と日本」を扱った書籍 (活字限定)
2. 「戦後の国際社会と日本」を扱った書籍 (活字限定)

これにより、かつて日本が戦争に至った背景や戦後のアジアとの関わりなど、主に「歴史」の分野での知識が得られたという声が塾生から多く聞こえたため、事前課題の設定は大きな成果があったといえるだろう。

また、講義の面でも今回のテーマに合わせ、国際連合で事務次長を務め、平和維持活動に携わってきた明石康先生や、前内閣国家安全保障局・国家安全保障参与の宮川眞喜雄先生には昨年引き続きご登壇いただいたことに加え、国際関係論を専門とする東京大学東洋文化研究所の佐橋亮先生や、自身も被爆2世であり、長崎原爆被災者協議会事務局長を務める柿田富美枝先生にも、ご登壇いただいた。

本プロジェクトでは、前半と後半の担任が交代するタイミングでクラス内での議論の途中経過を報告する「中間発表」、リーダー塾の終盤には議論の集大成としての「最終発表」を行っており、そこに向けて議論を収斂させることが求められた。また、今回は最終発表後、塾生が発表を相互評価し、最も心に響いた政策への投票を行った。そこで、発表の評価基準として次の4項目を事前に定めた。

- I リーダー塾を通じた学びが反映されているか
- II 理想やビジョンと具体的な政策に一貫性はあるか
- III 「奇想天外な発想」が含まれているか
- IV 将来実現可能な政策である

■事前課題の感想

<p>あらかじめ、AHS の問いに対する自分なりの答えを用意できた状態で話し合いに参加することができたため、良い機会となった。</p>
<p>アジア・太平洋戦争について知って、この戦争は少しウクライナ侵攻と似ているところがあると思った。ロシアだから侵攻した、とどこか他人事のように感じていた。しかし、日本も侵略を繰り返していたという歴史を知って、自分の国がまた同じような方向に転ぶこともあり得るのだと思ったので、国民の一員として政治にしっかり参加していく必要があるのだなと思った。</p>
<p>初めて太平洋戦争を分析した歴史的な書物を読んだことで、物語自体の楽しさではなく、歴史や文化を知るといふことの楽しさを学ぶことができた。</p>
<p>2冊余り内容が被っていない本を選んでしっかりと熟読してリー塾に入ったが、やはり事前にある程度新鮮な情報を入れて議論に入ったことで、議論の中でもそう言った知識を活かしながらの考えができたと思うし、それは他のみんなも同様だと思うから、しっかりと事前に一度調べてリー塾に臨めた点は非常に良かった。</p>
<p>普段読まないジャンルの本だったけれど、昔起きた戦争について詳しく知っておくことは人としての責任だと読んでみて感じた。一番はじめのアジア・ハイスクール・サミットの話し合いは3日目だったので、意見を言い出しづらかったからまとめておいたのが役に立った。</p>

② 議論の様子

プロジェクトは初日の「概要説明」から始まった。今回のプロジェクト企画が生まれた経緯や内容の説明の際、原稿も資料も持たず、マイク一本で淡々と、しかしどこか力強く語りかけた AHS 統括担当の姿に衝撃を覚えた塾生も少なくなかった。概要説明後、クラスごとに割り当てられたミーティングルームでの議論が始まった。内容が難しいテーマであるため、序盤は議論の方向性を定めるのに苦労したクラスがほとんどであった。自分たちが思う「戦争」や「平和」の定義づけから入ったクラス、各自が事前課題で学んだことを初めに共有したクラス、評価基準から逆算して理想の姿を模索したクラスなど、議論の滑り出しは七者七様であった。今回の評価基準では、「奇想天外」と「実現可能」という一見相反するような評価指標が存在したため、その狭間で悩んでいたクラスも見られた。しかし、どのクラスも自分たちのオリジナリティを追求しながら、地に足の着いた議論を終始進めることができていた。

プロジェクト中盤では、新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者の隔離に伴い、全クラスがハイブリッドでの実施を余儀なくされた。インターネット環境も決して整っているとはいえ、対面とオンラインを併用する議論はかなり難航したが、各クラス創意工夫を凝らして何とか議論を形にしていた。



▲議論の様子

他方、相手を傷つけないがために互いに遠慮してしまい、言いたいことがうまく言えず、議論がまとまらない場面もあった。また、議論が進む中でクラス内での理解度や参加している塾生の温度感の差が顕著になり始め、全員がうまく議論に参加できていない状態に陥ることもあり、悔し涙を流す塾生の姿も見られた。クラス担任や学生リーダーがサポートに入りつつ、どうすれば全員が議論に参加できるのかを真剣に検討した結果、最終発表までにはすべてのクラスが態勢を立て直し、プレゼンテーションに向かうことができていた。

もちろん、互いの意見を尊重することも重要であるが、より良好な関係性を築き、一つの目標に向かって進む上では、自分の主張を率直に相手にぶつけることも時として重要である。塾生には「意見の否定」と「相手の人格の否定」は全く違うものであることを肝に銘じて、今回の議論で得られた成果を今後の生活に活かしてほしい。

■議論の感想

始めの方は、なかなか皆の前で意見を言ったりするのが苦手だったが、皆が意見を言いやすい環境をつくり、最終日に近づくにつれ意見を堂々とと言えるようになっていった。
最初は上手く進んでいるように思えたが、話し合いを重ねて様々な視点からの意見が出てくるにつれて、自分たちはどこに向かっているのか見失って何度もスタート地点に戻ることがあった。そこで、先生の助言を頂きながら、まずは最終地点となるゴールから決めて、逆から考えることによって自分たちが目指すべきものが見えてくるようになった。
平和とはどういった状態を指すのか、定義からじっくり議論してきたので話し合いの内容が堂々巡りになってしまったり、行き詰まったりしてしまうことが多々あったが、その度に状況整理の時間をとり、学生リーダーのアドバイスに耳を傾けることで状況を打開することができた。
話し合いを進める中で、言いたいことや変えたいことはそれぞれたくさん出てくると思うが、それを誰に対して言うべきなのかは周りをしっかり見て判断していかなければならないのだと身をもって学ぶことができた。
普段私達は他人と意見を合わせるようにして対立を避けている。しかし、このような機会を通して、意見の対立は悪ではなく、むしろ意見をより良くするためのきっかけになると気づいた。
議論では白熱することが多かったが、全員の意見を尊重するという姿勢を、全員がとれていたのもとても良い議論になったのではないと思う。

③ 中間発表及び最終発表

中間発表は8月1日に予定されていたが、新型コロナウイルス陽性者の判明やそれに伴う塾生の隔離等の対応が発生し、混乱が広がるのを防ぐために中間発表はやむなく中止となった。塾生もクラス単位で集まることが一時的にできなくなった分、各部屋での話し合いに切り替え、代表者のみが外で意見を交換するなど、進め方に独自の工夫を加えていた。



▲発表する塾生

8月6日に行われた最終発表では、例年のように模造紙やパワーポイントを用いた発表ではなく、「言葉」だけで行う、前代未聞の発表形式をとった。なんとなく理解した「つもり」になりがちなスライドショーではなく、相手に「声」で訴え、その「声」を受け止めて集中して考えることで、より本質的な発表にすることが狙いであった。その際、初日の概要説明でのAHS統括担当の語りは塾生にとってある種の模範となっていた。確固たる思いを持ち、話し方に一工夫加えるだけで、資料を使わずとも聞く人の心に確実に訴えかけられる。「言葉の力」は、この時点ですでに示されていた。

最終発表の会場は開始前から塾生たちの熱気で溢れかえっていた。資料に頼れない不安も垣間見えながらも、それ以上に各クラスで積み上げてきた議論の成果が自信となって表れていた。そんな塾生たちが行った8分間の発表は、どのクラスも実にユニークなものだった。独特の導入、独創的な場面設定、寸劇などの工夫が詰まった発表は、限られた時間の中でいかにインパクトを残すのかを考え抜いた成果であり、平和な世界を実現させようという個々の思いの結晶でもあった。また、発表後の塾生同士による質疑応答でも白熱する展開を見せ、これは互いの発表に対し真剣に向き合っているほかならぬ証左であった。

最終的な順位は投票によって決まったが、どの塾生も、持てる力を出し尽くしたような、満足げな表情を浮かべていた。「実現可能性」にこだわった今回のプロジェクト。ここで出た解決策を将来リーダーとなって実践に向けて試行錯誤する者が現れることを切に願っている。

【各クラスの政策概要及び投票結果】

クラス	順位	政策概要
1組		第三者機関「Stop War Organization」を設置し、武力を伴わない「代替戦争」の提案
2組	優勝	次世代への国際的教育プロジェクト「ノーウォー(No/Know War)プロジェクト」の実施
3組		正しい情報を伝えるための「伝伝(Tell Tell)」プロジェクト、国境なき記者団との連携
4組		合宿形式での異文化交流、平和構築シミュレーションを通じた「One Peace」の実現
5組	3位	「人→国→世界」という段階的なステップでの平和構築活動、「戦争教科書」サイト設立
6組		「国境なき教育団」を立ち上げ、教育を通して戦争に対する問題意識を高める
7組	2位	世界一周プログラム「Long Hope Philia」による異文化間の相互理解の促進

■最終発表、及び AHS 全体を通じた感想

<p>言葉のみで伝える、と聞いたときに不安だったが、発表では逆に言葉の力を感じさせられた。私たちのクラスはマイクなしでの発表という挑戦をし、声が届きにくいところもあったが、マイクがない私たちの思いをダイレクトに伝えることが出来たのではないだろうか。</p>
<p>皆で動きをつけたり、分かりやすくしたりして、たくさん工夫を凝らして笑って、楽しかった。でも、質問がとても怖かった。可能か不可能かを考えるのはとても大変なことで、大事なことなんだと思った。平和は人の生死と強く結びついていて、だからこそもっと現実的に考えなくてはならないのだと思った。</p>
<p>資料や道具がなくてもこんなに人に伝えられるものなのだなと思った。言葉の力は無限大、これは本当だと知った。</p>
<p>私は実際に話すことはなかったのですが、隣でクラスメイトが質問に答えているのを聞いて自分も話したいと思っていた。今までなら怖くて絶対話したくないと思っていたので、その時にすごく自分が変わったことを実感したし、この時に一番りー塾に来てよかったと思った。今度は自分から前に立つことに立候補してみたいと思う。</p>
<p>最終発表当日まで議論は続き一時は本当に完成するのかという不安に苛まれながらも、最後にはみんなの力のおかげで完成させることができた。本番ステージで発表する仲間は本当にかっこよく心の底から誇らしいと思った。</p>
<p>私は「戦争教科書」のところを担当したが、「戦争教科書」を初めて聞く人に、この政策の内容や目的、この政策をすることで期待できる効果などを正確に伝えるのが大変だった。政策の内容を5W1Hにまとめておいたのが、発表の原稿を考えるのに役立った。</p>
<p>発表の内容も大切だが、発表の仕方、伝え方の大切さ、そして言葉の力を感じられた。いかに自分たちの思いを言葉だけで出し切るか、各クラスの工夫から色々なことが感じられ、学ぶことがたくさんあった。</p>
<p>自分たちがみんな、全員で細かいところまで詰め込んだことによって、ひとりひとりが自信をもって発表することができ、より周囲に伝わりやすくなっていったと思う。</p>
<p>サミットを経験したことで、改めて国際関係についてと、今までの戦争について調べ自分の意見をもう一度練り直したいなと思った。また、他の国の人とも意見交流をしてみたいと思った。実際に紛争地域に住んでいる人や戦争経験者のお話も聞きたいと感じた。</p>
<p>「戦争はなくせるか」という問いは本当に難しいと思う。一つの答えがないので、これだけ人が集まればその数の分だけ考え方があり、クラスとして考え出した政策も多様だったので聞く側としても学べることが沢山あった。</p>
<p>アジア・ハイスクール・サミットでは、辛い事の方が多く、毎日毎日、日に日に悩む事が多くなっていった。しかし、最終発表に近づくにつれ、クラスの団結を感じ、チームでいる実感が出てきて最後は本当に楽しかった。</p>

④AFS 高校留学生交流

今年度もコロナ禍での開催でアジア各国から高校生を招聘することが難しかったため、公益財団法人 AFS 日本協会から 1 年間留学しているドイツとオーストリアの留学生と、日本政府奨学金「アジア高校生架け橋プロジェクト」で来日中のフィリピン 3 人、ミャンマー 3 人、ベトナム 2 人、タイ 2 人、インド 2 人、スリランカ 2 人、ブータン、香港、インドネシア、マレーシア、トルコ、カンボジア、韓国それぞれ 1 人、合計 14 か国 1 地域 23 人の留学生と 2020 年にアジア架け橋生として来日したものを母国のクーデターで帰国できなくなり、その後、立命館アジア太平洋大学に進学したミャンマー生 1 人を 2 泊 3 日招待して、塾生とディスカッションしたり、マハティール首相など講師の講義を聴講した。

塾生とのディスカッションでは、各クラスに 2 人ずつ留学生が参加し、「ベトナムの軍隊や選挙や民主主義」「日本で好きなアニメや音楽」「制服はいるかいらないか」「留学生の国について」などそれぞれテーマを設けて議論した。また、伝言ゲームをしたり、留学生のバックグラウンドを聞いて、その留学生に合ったぴったりの漢字を考えて、名前のあて字を作ったりしたクラスもあった。生活習慣や文化の違い、コロナ禍での各国の状況や、戦争と平和をめぐる価値観の違いなど、塾生側も留学生側も互いに得られたものは大きかった。



▲留学生との交流の様子

一方、留学生が英語に加え、日本語、母国語もできることを知り、塾生たちは英語でうまくコミュニケーションが取れなかったもどかしさを感じ、これを機に、言語学習のモチベーションが大きく上がった塾生も見られた。塾開始当初、将来留学したい人と聞いたところ、あまり手が挙がらなかったが、留学生とのディスカッションの後には、ほぼ全員が手を挙げる変化が見られた。中には、塾後に高校留学にチャレンジする決意をしたものもあった。

留学生との交流では、文化の多様性について学び、有意義な時間が送れた一方、文化の多様性をめぐる配慮に欠ける部分もあった。イスラム教徒の留学生はお祈りの時間が必要だが、あらかじめお祈りの部屋を設けていなかったため、留学生から不満が出る場面があった。一方、ハラル対応の食事についてはあらかじめ AFS 日本協会との打ち合わせをしていたため混乱はなかった。異文化のバックグラウンドを持つ人たちに対する日本での認識不足を改善することの重要性を学ぶ機会となった。文化の多様性を認知し尊重する姿勢を今後をもって、留学生を迎えたい。

■AFS 高校留学生交流の感想

外国の方は自分のことを話すのに積極的で、しかも物凄く詳しく話してくれるので、聞くのが興味深かった。私もこんな風に話すことができたらと思った。

みんなそれぞれ違う志をもって海外への留学を決めていて学ぶことをやめない姿勢に尊敬を抱いた。今でも AFS の交換留学生の子とインスタグラムを通じて話したりしている。このようなつながりを大切にしていきたい。

肌の色や言語や文化は違っていても、私たちと同じ話題で盛り上がり、本当に周りにいる高校生とあまり変わらなかった。

ロシアーウクライナ戦争に対しても各国で様々な考え方があるのだと思った。どちらが悪いのではなく、なぜ戦争にまで発展してしまったのかを考える必要があるのではないかと思った。

今のミャンマーの現状を聞き、とても驚いた。すぐ身近で銃撃戦が起きていると聞いた。テレビで聞いて知ると目の前の人の口から聞くのでは受け止め方に違いが出ると感じた。
自分より3歳も若いのに一人で日本に来て、普通の学校に通い、学びながら生きている留学生の強さに感心した。留学について前向きに考えられるようになった。
英語で話しかけると日本語が普通に話せていて驚いた。留学中に内戦が起これなくなり帰れなくなったことに驚いた。帰国させなかった加藤さんも素晴らしいし、強く生きる留学生にも感動した。
ベトナムでは理系に力を入れていて、高校から理系の専門学校に進学できることを知った。高校受験の数学の問題を見せてもらったが到底解けそうではありませんでした。
もともと英語が苦手だが一生懸命コミュニケーションをとろうとしてうまくいったときの達成感が忘れられない。英語は流ちょうでなければ伝わらないと思い込んでいたが、伝わる英語と勉強する英語が異なっていることを学びました。今では、学校に来ている留学生と積極的に話しかけるようになった。
ミャンマーで大きなことが起きていることは知っていたが、すでに収束していると思っていた。他人事に思っていたことが、身近となり、何か自分にできることはないかと思うようになった。
人生で初めて留学生と交流しました。簡単な英語だけでも会話することができ、安心しました。留学生同様、私も日本語、英語だけでなく多様な言語習得に挑戦してみたいと思うようになりました。
コロナ禍で留学生や外国の方と話す機会がなかったが、その国で起きていることや課題点も聞いて貴重な経験となった。ドイツのイケメン君と英語で話ができてかなり嬉しかった。
平和ボケして、他国の戦争について関心が薄いです。私もその一人。ウクライナ軍事侵攻に隠れてミャンマーのクーデターについてニュースが少ないです。同じ年代の人が命を落としてまで戦っていたり、他国に避難している現状を、全世界がもっと知るべきで手を差し伸べるべきだと思います。

(4) 今年の特徴的なカリキュラムについて

■キャリア教育

キャリア教育は、高校生の中に社会への関心を持ってもらい、将来へのより具体的なイメージを持ってほしいをという目的で行っている。クラス単位で行い、内容はクラス担任の先生方にお任せした。

ある担任の先生は、失敗してしまった際にどのように気持ちを切り替えれば良いのかを教えてください、他の先生は仕事から得た体験談についてお話ししてください。あえて資料を作成せずに、塾生と向き合ってお話される先生もいた。塾期間中、何気なく接していた担任の先生の意外な一面を知ること、考えかたやキャリア観において多くの塾生が影響を与えられていた。



▲キャリア教育の様子

【塾生の感想】

感謝を伝えることの大切さを再確認しました。ものに対する感謝とかあまり考えたことがなかったし、親に対して面と向かって言うのは恥ずかしさがありましたが、常に感謝を伝える担任の先生は色んな人から愛されていて、愛を与えられる人は自分から求めなくても与えられるということを学びました。

先生が自身の過去を話してくれて、なんだか心が軽くなった。今まで誰にも言えなかった悩みや苦しみを人に話してみる勇気をもたらえたからだ。何もしないより、思い切って行動してみようと思えた。また、まず物事を知ることから経験、成功、失敗へとつなげて人生の楽しさを見出せていきたいと思った。人との関わりや、相手と向き合い、目と耳と心で聞くことを大切にしていこうと思う。自分の芯や核を持ち、夢へ羽ばたけるよう頑張りたい。

■名護屋城博物館

7月31日は名護屋城博物館を訪問した。学芸課長の武谷先生に講義をしていただき、博物館の歴史や日本列島と朝鮮半島の交流史についてご説明いただいた。講義終了後には希望制で名護屋城博物館と名護屋城博物館本丸跡地の見学を行った。本丸跡地の見学では、ガイドの方に解説していただき、実際に現場を見ながら名護屋城や周辺地域の歴史について学習することができた。



▲博物館を見学する様子

【塾生の感想】

豊臣秀吉の朝鮮出兵については恥ずかしながら無知だったので、とても勉強になりました。また、文化や歴史を伝承しようとしたりする、地域の方々の活動に感動しました。

広隆寺半跏思惟像と似た朝鮮からの像や、貴重な資料など授業の資料集でしか見たことの無いようなもので展示されており、気分が高揚した。

■宗像大社見学

2014年に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』としてユネスコ世界文化遺産に登録された宗像大社を見学した。大変暑い中、神職の皆様が各クラスに付いて、本殿や第二宮、第三宮などを回り、丁寧に説明をしてくださった。正式参拝は例年1回でするところ、2グループに分けるなど、感染対策にご配慮いただいた。



▲宗像大社・本殿

沖ノ島から発掘された8万点の国宝の一部が展示される宗像大社横の神宝館では、須恵器や勾玉などを見学した。塾後、その当時の技術に興味を持って調べた塾生もいたようだ。海外から海のシルクロードを渡って来た装飾品などの数々が、宗像が古代より国際的に重要な機能を担っていたことを物語っている。塾生は塾序盤に受講した葦津敬之宮司の講義のメモを片手に、国際交流の原点とも呼べる宗像で、日本人のアイデンティティであるアニミズムと環境問題といった国際的な課題にどう貢献できるかを真剣に考えていた。

【塾生の感想】

リーダー塾が福岡県の宗像市で開催されると知った時から宗像大社に行くことを楽しみにしていました。宗像大社は日本史の教科書に出てきて、そのような有名で歴史的な場所に見学に行ける事がとても楽しみでした。神宝館見学ではまたしても日本史で習った三角縁神獸鏡の実物を見る事ができて感動しました。

私は古事記が大好きなので宗像大社に行けると知って非常に嬉しかったです。特に私個人の趣味が博物館巡りなので展示されているものが全て国宝の宝物館見学は本当に良かったです。三角縁神獸鏡など教科書にも出てくるような宝物や、数百年前の貢物、わずか数年前の貢物など多種多様な宝物が展示されていてほんの数十分では足りないくらいでした。

■北九州市環境ミュージアム

かつて“七色の煙“に空が覆われ、洞海湾に魚が住めないほど汚染されて“死の海“と呼ばれていた北九州市が、どのように重度の公害を克服して現在のような青い空と海を取り戻したかについて学んだ。また、公害克服の他に、世界の環境問題、身の回りのエコ活動や市民・企業の環境への取り組みなど、「見て・触れて・楽しみながら学べる」というコンセプトのもと、参加型学習の形態で塾生が実際に体験して楽しく学習した。



▲実際に展示物を見ながら説明を受けている塾生の様子

【塾生の感想】

北九州市は公害のイメージもありますが、世界ではクリーンな街、環境問題に特化している最先端の都市とみなされていることにびっくりしました。確かに北九州市の海はどこを見渡しても美しくあの頃の汚染された水が想像できない程研究と努力を重ねてきた日本に誇るべき年だと思いました。それを学べたことで見識が広がりました。

北九州ミュージアム見学では、今まで知らなかった北九州市の環境に関する内容を多く学ぶことが出来ました。かつて「七色の煙」や「死の海」とまで呼ばれた、経済成長に伴う環境汚染がどのように変遷し、現在の環境モデル都市である北九州市となったのか、詳しく知ることが出来ました。北九州の人々が環境問題に対し、真摯に取り組む姿勢は私も学ぶべきものが多くあったように感じます。様々な環境問題にも興味を持って取り組みたいと思います。

■安川電機

日本で初めて全電気式の産業用ロボットを開発した安川電機。未来館・歴史館では、「工場の自動化」を目指す会社の歴史を学びながら、その最先端技術を駆使したロボットやアートを見学した。特に、塾生が体験したロボットとのモグラたたきや神経衰弱、ルービックキューブ対決は大盛り上がりであった。ロボットの繊細さに驚きつつ、多くの分野や場面でロボットが重要な役割を果たしていることを実感した。また、ロボットによってロボットが作り出される製造過程を見た工場見学では、機械の力を実感し圧倒される塾生の様子が見られた。



▲安川電機で導入されているロボットを見学する様子

【塾生の感想】

見たこともないような最新機器ばかりがあり、本当に興味深かったです。特に8台のテレビとアームを使った機械は、平面ながらも、立体感と臨場感がありました。このような大きな会社になるまで、たくさんの苦勞があったようで、それでも耐えて頑張った甲斐があると感じているだろうと思いました。

私は北九州市に住んでいますが、安川電機を見学する機会はなかったので、普段見ることができないロボットを実際に見ることができ、とても楽しく、興味深かったです。ロボットと人が共同して行うものづくりがとても印象に残っています。

工場で実際に人とロボットと一緒に作業しているのを見て、技術の進歩を目の当たりにしました。漫画やアニメの中だけのことだと思っていて、実際に実現するのは難しいと思っていたのですが、実際に実現させているところを見ると人間が想像できることは人間が実現させることができるということを改めて感じました。

■卒塾前夜祭

8月7日の夜、2週間共に生活をしてきた仲間と最後の思い出を作ることを目的とした卒塾前夜祭を、塾生主体のもと開催した。今年度は感染対策のため、例年使用させていただいている武道場ではなく、体育館で前夜祭を開催した。他のクラスの生徒と交友を深める活動や、歌やダンスなどの特技披露、担任の先生方や学生リーダーに感謝の気持ちを伝えることができ、非常に思い出に残る会となったようだ。また、前夜祭を通してお互いの隠れた一面も知ることができ、今まで交流する機会がなかった塾生とつながる取り組みとなった。



▲学生リーダーに感謝の思いを伝える様子

【塾生の感想】

同じクラスの人でも、前夜祭に出るとより一層個性があふれ出ていて感動した。未成年の主張で盛り上がり、歌やダンスなどに心を動かされ、19期生として一致団結できた場になった。

2週間忙しく、辛い状況下でも同じ場所で過ごした仲間との前夜祭は特別だった。あっという間の二週間を振り返ると共に、この素晴らしい仲間と離れたくないと、何度も頭をよぎった。

■目標宣言

8月7日に、全塾生が目標や将来の夢などを宣言する「目標宣言」を行った。今年度は学生リーダーが企画運営を行い、1人30秒程度で宣言をした。

塾生たちは将来の夢だけでなく、直近で達成したい目標等を宣言していた。具体的には、「世界的に活躍する産婦人科医になる」、「社会起業家になって世界に貢献したい」、「政治家になりたい」など、非常に多様性に富んだ宣言となった。すでに多くの塾生が、講師や塾からの学びにより、夢や目標に大きな刺激を受けていることが分かった。



▲これからの目標を宣言する様子

【塾生の感想】

「自分の常識を更新し続ける」と宣言しました。リー塾に参加する上で自分の当たり前と多様な価値観を混ぜることを目標に掲げて約2週間取り組みました。講師の方々による講義やAHS、集団生活を通して自分の中には無かった様々なものさしを見つけることができました。

私は「世界で活躍できる医療人となる」と宣言しました。口に出すことで頑張りたいという気持ちが強まったと思います。他の方々の目標宣言も聞いてとても刺激になりました。

9. 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響で、昨年の第18回日本の次世代リーダー養成塾は、現地で開塾したものの、期間中にボランティアスタッフ1名が新型コロナに感染したため、グローバルアリーナから塾生を帰宅させ、以降のカリキュラムは全てオンライン形式で実施することになった。

今年もコロナ禍の中での開催となったが、今回こそ例年通り2週間現地での合宿を開催するため、様々な感染防止策を検討した。

その結果、期間中に4名の塾生が新型コロナに感染したものの、保健所の指導の下、必要な対策を行い、無事に2週間の合宿を実施することが出来た。

ここでは、開催前からその後の対応までを述べたい。

(1) 塾の開催前

①開催方法・感染対策の検討

2020年から始まったコロナ禍は2022年で3年目となり、高校生活も3年間しかないため、今年こそはなんとか2週間継続して現地で開催したいという思いで、どのようにすれば継続して開催できるのか、感染対策や体調不良者が出たときの対応を検討した。

5月に参画道県・市の担当者会議を開催し、事務局から2週間の合宿形式での開催の意向や、感染対策の案を伝えた。昨年の反省を踏まえ、感染者が生じた場合も、少数であれば保健所の指導の下で塾を継続することとし、万が一クラスターが発生した場合に中止の判断を臨機応変に行う方針を確認した。また、感染疑い者が出た場合の対応フローを事前に作成することとした。

その後、グローバルアリーナ、波戸岬少年自然の家の関係者とも施設内での感染対策や体調不良者が出たときの対応について協議を行った。

また、開催地の保健所に対しても、宗像遠賀保健福祉環境事務所には福岡県の担当者を通じてご説明し、唐津保健福祉事務所には訪問してご説明のうえ、波戸岬少年自然の家を下見し、陽性者発生時の対応方法についてご教授いただいた。両保健所には、現地開催や感染対策にご理解いただき、助言をいただいた。

②開催前の取り組み

参加者の安全に十分配慮するため、開催2週間前から、

- ・日常生活での感染対策の徹底
- ・検温等の健康観察

をお願いした。健康観察の結果は、毎日Googleフォームで報告してもらい、塾初日に検温確認書も提出してもらうこととした。

さらに、開催3日前を目安とした事前PCR検査をお願いした。

検査は各自で受け、陽性となった場合は速やかに事務局へ報告してもらった。

③開催直前の感染者急増への対応

開催日が近づくとつれて感染力が強いオミクロン株の流行により国内の感染者数が急増していき、開催直前の7月22日には「福岡コロナ特別警報」が発動されたが、特別警報で県民・事業者に対し行動制限を伴う要請はなかったため、最大限の警戒感を持って感染防止対策を徹底のうえ開催する運びとなった。

塾生からも、事前PCR検査で5名が陽性となり、保健所の指示に従って、待機期間終了後から現地に

参加とすることとなった。それに伴い、待機期間中もオンライン形式で参加ができるよう、急遽、現地とオンラインのハイブリッド形式で合宿を進めることが決まり、感染対策と同時に現地の講義等をオンラインで配信する準備も本格的に始めることになった。

また、塾生 1 名が感染状況を理由に辞退を申し出ていたが、途中参加者用にオンライン形式に対応することとなったため、当該塾生にもオンライン形式での参加を認めることとした。

(2) 塾の開催時

①塾初日の取り組み

感染者の急増と事前 PCR 検査での感染者発生を受け、塾生、スタッフに対し、事前 PCR 検査をしてから塾初日までの間に感染していないかを確認するため、グローバルアリーナに到着次第、約 30 分で結果が分かる抗原検査を実施することにした。

検査の実施を決めたのは開催数日前であったが、昨年度の経験を糧に、駐車場に到着したバスの車内で検査を行い、陰性を確認してから降車することとし、前日の夜まで検査キットの配布準備などにあった。検査にあたり、2 名の看護師、学生リーダーに検査の補助を、宗像市の担当者には当日提出物の回収を、クラス担任には塾生の受付業務を、福岡県の皆様には感染疑い者への対応をしていただいた。その他スタッフは、塾生の誘導等を行った。

この抗原検査により陰性を確認するまでは、可能な限り異なる地域の塾生同士が接触しないようにした。福岡空港、博多駅、小倉駅からグローバルアリーナへ向かう交通手段を、地域ごとに分けるため、バスを例年の倍以上の台数手配した。

検査の結果、1 名が陽性となり、他の 133 名は陰性となった。

陽性となった 1 名は保健所、当該県、塾生の保護者と相談し、乗ってきたバスでそのまま自宅へ戻り、自宅付近の病院で検査のうえ、自宅療養していただくこととなった。

また、グローバルアリーナへのバス移動中に保護者の陽性が判明し、1 名が濃厚接触者となった。この 1 名は抗原検査の結果陰性であり、グローバルアリーナ内の別棟の宿泊室に、保健所の指示に従って 7 月 29 日まで待機していただくこととなった。

抗原検査などを経て、初日時点では、塾生 1 4 0 人のうち、1 3 2 人が現地での合宿形式、1 人は現地でのオンライン形式、7 人は自宅などからオンライン形式で参加することになった。

②合宿中の主な感染対策

基本的な感染対策として、昨年と同様にマスクの着用、アルコール消毒や手洗い、三密の回避、会場内の換気等を徹底した。初日から抗原検査を行ったことや、事前に内容を周知したこともあり、塾生やスタッフ自身も塾を継続するために主体的に感染対策に取り組んでくれた。

食事や入浴の際は、施設内の他団体と接触を避けるため、出来るだけリーダー塾のみが食堂や浴場を使用する時間を設けていただいた。食堂には飛沫防止パーテーションが設置されており、塾生には黙食の徹底を呼び掛けた。また、食事時の席の配置が分かるようクラス担任が毎食時写真を撮ることとした。講義のために集まる武道場では、塾生の席の間隔を 1 メートル以上確保するため、会場いっぱい座席を配置し、講師等が使用する演台には、正面と側面への飛沫を防止するパーテーションを設置した。各クラスには、アルコール消毒液を渡し、共有物を使用する際は必ず消毒してもらった。例年は水筒に給水しているが、接触を避けるため、毎朝夕にペットボトルを配付することとした。

塾生が宿泊する各部屋は、可能な限り異なる地域の塾生同士が接触しないよう、波戸岬少年自然の家へ移動する 5 日目までは地域ごとの部屋割りとし、波戸岬少年自然の家に移ってからはクラスごとの部屋割りとした。また、各部屋には定員より少ない人数が入るよう調整した。

宗像大社や佐賀へ移動する際は、乗車人数が定員の半分程度になるようバスをクラスごとに手配した。また、日々の健康状態を確認するため、毎日朝と夜に検温をし、37.5 度以上の熱がある場合など、必

要と思われる場合には抗原検査も行った。

オンラインで参加した塾生には、講義やクラスの様子を随時配信して、ディスカッション等も実施できるように、クラスごとに1台のPC、wifiルーターの貸与に加えて、現地での待機者用にPC、ルーターを貸与する、待機者には携帯を返却するなど、柔軟に対応した。

7月28日には、愛媛県卒の塾生の保護者が陽性となったとの連絡があり、塾生1名が濃厚接触者となった。この塾生は抗原検査の結果陰性で、保健所の指示により別棟の宿泊室で翌29日まで待機していたこととなった。

(3) 陽性者判明

①最初の陽性者判明

7月31日の19:20頃、(佐賀県波戸岬少年自然の家において)塾生1名が体調不良を訴えたため、保健室として用意した部屋に移動させ検温したところ39.2°Cであり抗原検査を行ったところ、陽性であった。この陽性者は宿泊棟に戻さずに、研修棟2階の研修室へ移動させ待機とした。また、夜間であったが、唐津赤十字病院にて抗原検査を受け、医療機関により陽性の診断が確定した。(1人目陽性者)

あわせて、保健所にも確認のうえ、佐賀県濃厚接触者チェックリスト(学校編)を参考に、次の基準で取り急ぎ濃厚接触者の特定を行った。

A. 1メートル以内でマスクをせず15分以上の接触があった者

B. 陽性となった塾生と宿泊部屋が同室であった者

このうち、Aについては該当者がなく、Bについてグローバルアリーナでの同室者14名、波戸岬少年自然の家での同室者6名の計20名を濃厚接触者に特定し、グローバルアリーナでの同室者、波戸岬少年自然の家での同室者を別室に切り離し、抗原検査を実施した。

この20名への抗原検査の結果、グローバルアリーナでの同室者1名が陽性となった。この1名は体調が安定していたため、保健所からの助言もあり、翌日病院で診断を受けることとした。

この2人目の抗原検査陽性者は、波戸岬での宿泊部屋が1人目陽性者と異なっていたため、2人目の同室者6名を新たに別室に切り離し、抗原検査を実施したが、全員陰性であった。

波戸岬少年自然の家での陽性者、濃厚接触者への対応は、事前に唐津保健福祉事務所からご教授いただいた方法に則って、宿泊棟から離れた研修棟2階に、陽性者1名ずつ(隔離部屋①、隔離部屋②)、1人目陽性者とグローバルアリーナで同室だった塾生(隔離部屋③)、波戸岬で1人目陽性者と同室だった塾生(隔離部屋④)、波戸岬で2人目抗原検査陽性者と同室だった塾生(隔離部屋⑤)の5部屋に分けて待機してもらった。

隔離部屋待機中の塾生には携帯電話を返却し、施設の方のご厚意で研修室に寝具を用意していただき、一夜を過ごした。

* 隔離中は陽性者2名と濃厚接触者のトイレ、洗面所を1階2階と分けて使用した。

* 事務局よりその日のうちに1人目陽性者保護者への連絡、参画自治体への陽性者発生の連絡を行った。

②塾の継続を決定

翌8月1日朝、唐津保健所、宗像遠賀保健所、佐賀県、福岡県と相談のうえ、事務局で協議を行い、感染者の発生場所や人数が限られており、待機などの措置を適切に講じれば継続可能と判断し、塾の継続を決定した。

塾生に対して、加藤事務局長から館内放送を行い、現在の状況と塾を継続すること、翌日までのプログラムを説明した。また、全員で協力して最終日まで塾が開催できるように、少しでも体調不良がある場合は必ず申し出ること、怖がりすぎることなく、リーダーを目指す塾生としてふさわしい行動を取るよう呼び掛けた。



▲館内放送を行う加藤事務局長

* 隔離待機中の全員に朝の検温に加え体調の変化、悪化等がないか詳細を確認し看護師が検温結果など観察をした。

* 隔離濃厚接触者の食事は塾生の食事が終了後、隔離部屋ごとに食事を取り、陽性者2名については事務局員の担当を一人決め、隔離部屋に配食、検温結果や体調について確認後看護師へ報告し、陽性者の他者接触が無いよう人員配置を徹底した。

同日午前中には、唐津保健福祉事務所と佐賀県庁のご担当者が状況を確認に来られ、状況を説明し、今後の対応について助言をいただいた。

前述のとおり、研修棟を待機室として使用し、事前の想定通り対応が出来ていた一方、波戸岬少年自然の家には浴場が3カ所しかなく、塾生男女ごと、陽性者、濃厚接触者に分けて使用することが出来ないという問題点があった。

そのため、両保健所、両県と相談のうえ、濃厚接触者については、同日中に貸し切りバスによりグローバルアリーナへ移動することとなった。グローバルアリーナでの隔離者用の部屋はバストイレ付でオンライン用にwifi環境が整い、棟全体を隔離できる部屋を準備していただき、JR九州バスには移動の際に1つ以上の隔離部屋が同乗することが無いよう台数の手配をお願いし、ご両者には急な決定にも関わらず快くご協力いただき、同日午後にはグローバルアリーナへ出発することが出来た。

1 人目の陽性者は夕方に唐津市内の宿泊療養施設へ入所し、以降はオンラインでプログラムに参加することとなった。

2 人目の抗原検査陽性者は昼頃に唐津赤十字病院で抗原検査を行った結果、陰性であったため、濃厚接触者としてグローバルアリーナへ移動することとなった。ただし、唐津保健所からの助言に従い、2人目の陽性者は引き続き陽性の可能性があるとして想定し、他の塾生と同室にはせず、接触していた塾生も濃厚接触者としての待機を継続した。

* 移動バスには濃厚接触者が交わらないよう隔離部屋ごとに号車を分けて乗車、出発した。

隔離者の対応を担当している事務局1名も同乗し、濃厚接触者の体調変化などに対応できるように看護師と連絡を取り合いながらグローバルアリーナへ帯同した。

グローバルアリーナに移動した塾生は、出来る限り一人ひとりが別部屋となるようにし、オンラインでプログラムに参加してもらった。その際、グローバルアリーナの皆様には、急遽宿泊部屋、食事を手配していただいたうえ、塾生への食事の配膳など、事務局が2手に分かれて手薄な中、大変親身にご協力をいただいた。

プログラムとしては、この日はAHSの中間発表日の予定であったが、急遽変更し、クラスごとのAHSディスカッションとした。

また、担任交代の日でもあったため、後半担任は到着後、抗原検査のうえ、前半担任から引継ぎ、担任交代式を行った。

③2人目、3人目の陽性者

8月2日朝には、残りの塾生も波戸岬を出発し、予定通り宗像大社、北九州市環境ミュージアム、安川電機に伺った後、18時頃にグローバルアリーナへ到着した。

その中で、グローバルアリーナで待機中の濃厚接触者の中の1名が、前日から咽頭通・頭痛・発熱があり、前日の抗原検査では陰性だったが、2日になっても熱が下がらなかったため、宗像久能病院で抗原検査を行ったところ陽性が判明した。(3人目の陽性者)

3人目の陽性者は1人目、2人目の陽性者と前半のグローバルアリーナでは同室だったが、波戸岬では別室であった。そのため、波戸岬で3人目の陽性者と同室だった6名が新たに濃厚接触者となった。

この6名は、判明時、宗像大社でフィールドワーク中だったが、急遽、バスでグローバルアリーナへ移動することとなった。

* バス1台に濃厚接触となった6名と事務局員、看護師各1名同乗しグローバルアリーナへ移動。

到着後は抗原検査を実施、全員が陰性であった。そのまま濃厚接触者として別棟にて部屋を分け隔離。

宗像大社、北九州市環境ミュージアム、安川電機の皆様は、このような状況に関わらず、濃厚接触者以外の塾生の訪問を快く受け入れていただき、塾生たちは貴重な経験をすることができた。

また、唐津市内の宿泊療養施設で待機中だった 1 人目の陽性者について、電波状況が悪くオンライン参加が困難だったため、佐賀県庁の皆様にご対応いただき、この日に佐賀市内の宿泊療養施設へ移動した。

さらに、2 日の夜に濃厚接触者全員に対して再度抗原検査を行ったところ、前日病院で陰性と診断されていた 2 人目の陽性者が、再度陽性という結果となった。

そのため、翌日の 8 月 3 日、宗像久能病院で抗原検査を受けたところ、陽性と診断された。この塾生については、唐津保健所からの助言に従い、1 度病院で陰性と診断されてからも陽性の可能性を想定して対応していたため、追加の濃厚接触者は発生しなかった。

また、3 人目の陽性者は 3 日から福岡市内の宿泊療養施設へ入所することとなった。

④濃厚接触者の待機期間

濃厚接触者について、陽性者と切り離れた 7 月 31 日が最終接触日のため、8 月 1 日が待機 1 日目となり、8 月 3 日で待機 3 日目となる。厚労省の示す濃厚接触者の待機期間は通常 5 日間だが、2 日目と 3 日目に抗原検査を行い、陰性となった場合は 3 日間に短縮可能となっている。

濃厚接触者には、2 日、3 日に全員抗原検査を行っており、前述の 2 人目の陽性者以外の 29 人は陰性であったため、待機期間を 8 月 3 日までとして 4 日から合流することも検討したが、宗像遠賀保健福祉事務所から、すでに濃厚接触者の中から陽性者が発生しているので待機期間は短縮せず 5 日間とした方がよいと助言を受け、5 日間、8 月 5 日までの待機期間とした。

* 濃厚接触者は毎朝、毎夕の検温を実施、その結果を看護師が確認。検温結果が 37.5 度までの場合は 1 時間後に再度検温を実施。精神的な不安や検温方法の間違いによる発熱もある為、再度検温の結果をみながら看護師が対応した。隔離者の食事については毎食、事務局担当者とグローバルアリーナの担当者が各部屋のドア前にて配布。

* 濃厚接触者全員には隔離後すぐに携帯電話を返却し、自宅、家族とは自由に連絡を取れるようにし、隔離期間中の不安を家族と話すことによって少しでも解消できるようにした。

* グローバルアリーナ隔離開始翌日までの間に事務局担当者から、隔離者全員の保護者へ電話にて状況説明の連絡を行った。濃厚接触者となり隔離に至る状況と陽性者の対応について、お一人ずつ、丁寧に説明をした結果、保護者からご理解いただき、塾生とも連絡を取っていることで状況把握はできているが、説明を貰ったことでさらに安心したとの返答を頂いた。

ただし、精神的に不安な塾生もいるので、保護者の要望があれば、その都度保護者と連絡を取り説明することとした。

* また、狭い隔離部屋でのオンライン講義参加が続き、不安のため体調が不安定となる隔離者もいたため、看護師や事務局員が外部者と接触しない範囲で話を聞いて散歩などを実施し、体調を崩さないように寄り添えるケアを継続した。

またグローバルアリーナの担当スタッフのご厚意で、隔離棟の廊下におやつや飲料を自由に取れるフードステーションを設け、廊下で他者と接触せず、手指消毒を徹底し、自由におやつを取れるように、隔離期間をなるべく辛く無いように過ごせる工夫をした。

* 加藤事務局長より全隔離待機者に向けて、現時点での状況や保健所からのアドバイスに基づいての待機終了期間の目安についてオンラインで説明を行った。

8 月 4 日には、2 人目の陽性者が福岡市内の宿泊療養施設へ入所した。

⑤4 人目の陽性者判

8 月 5 日、濃厚接触者のうち 1 名が、発熱はないものの、咳などの症状があったため、抗原検査を行ったところ、陽性となった。(4 人目の陽性者)

この塾生は自宅が近かったことから、保護者と相談し、同日中に自家用車で迎えに来てもらい、自宅

で療養することとなった。

この塾生は8月4日まで2人部屋に宿泊していたため、同部屋だった塾生1名は8月4日が最終接触日となり、濃厚接触者として8月7日まで待機することとなった。

(4) 全プログラム終了、帰路へ

8月6日朝、前述1名以外の濃厚接触者27名は、8月5日までの待機期間を終え、念のため行った抗原検査も全員陰性であったことから、他の塾生と合流した。

8月8日朝、残りの濃厚接触者1名も待機期間を終了し、抗原検査で陰性を確認のうえ、合流することが出来た。

結果として、塾期間中に4名の陽性者が発生したものの、無事8月8日に卒塾式を迎えることができ、2週間ですべてのプログラムを終了することができた。

天候にも恵まれたため、卒塾式後、陽性者以外の塾生は無事全員帰路につくことが出来た。

陽性者4名については、1名はすでに自宅療養中であり、宿泊療養施設に入所した3名は待機期間が終了次第、帰路に着くこととなった。帰路の手配にあたっては、西鉄旅行株式会社のご担当者が迅速にご対応くださり、スムーズに手配することが出来た。

出発する駅・空港までは事務局員が送り、行き先の駅・空港で保護者の方に迎えていただく形で、2名が8月10日に、1名が8月12日に帰宅した。

(5) 2週間の対応を振り返って

今回の塾では、事前PCRで陽性となり途中から参加する塾生や、陽性者・濃厚接触者となりオンライン形式で参加することとなった塾生など、2週間を通じて状況が大きく変わるなかで、塾生たちは様々な困難や不安に向き合うこととなった。

そのような状況下でも、オンラインから積極的に議論に参加しようとしたり、オンラインから参加しやすいよう工夫するなど、与えられた状況で協力し合い、懸命に困難を乗り越えようとする塾生たちの姿には感銘を受けた。2週間、困難な状況に立ち向かい続けた塾生たちに拍手を贈りたい。

また、塾が無事2週間開催できたのは前述のとおり関係者の皆様のご協力の賜物であった。

なんとか塾を継続したいという共通認識のもと、多くのご協力をいただいた参画自治体、特に開催地である福岡県、佐賀県、宗像市の皆様。

大変ご多忙にも関わらず昼夜問わず的確にご助言いただいた宗像遠賀保健福祉環境事務所、唐津保健福祉事務所の皆様。

塾生に寄り添って濃厚接触者や体調不良者への対応にあたっていただいた看護師の梅野玲子さん、今城紗於里さん。

塾期間を通して何度も宿泊部屋、食事の変更にご対応いただいたうえ、陽性者が発生した際も快く受け入れていただき、塾生が待機する部屋への食事の配膳や、お菓子を用意していただくなど、塾生のために大変なご協力をいただいたグローバルアリーナの皆様。

研修室を陽性者・濃厚接触者の待機部屋として使用させていただき、寝具も用意していただくなど、柔軟にご協力をいただいた波戸岬少年自然の家の皆様。

陽性者発生時にバスを急遽ご用意いただいたJR九州バス株式会社のご担当者様。

度々の変更や陽性者の帰路手配にご対応いただいた西鉄旅行株式会社のご担当者様。

このような状況下での訪問にもご理解いただき、快く受け入れていただいた名護屋城博物館、宗像大社、安川電機、北九州市環境ミュージアムの皆様。

ほかにも様々な面で多くの関係者の皆様にご協力いただいた。

コロナ禍のなか、塾を支えてくださった関係者の皆様に、深く御礼申し上げたい。

また、保護者の皆様にもコロナ過での開催にご理解いただいたことを御礼申し上げたい。

10. 参画道県・市の声

リーダー塾は、9つの道県と2つの市から参画を受けており、塾生の募集、選考など、多くの協力を頂いている。参加した塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画道県・市に対し、アンケート調査を実施した。

【北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係】

参加した塾生はリーダー塾で得られた知識や経験、全国の仲間達と出会えたことは大きな財産となっています。北海道は他県の人と直接交流することが少ない土地でもあり、全国の受講生と過ごすことにより、良い刺激となり、全ての生徒が今後の課題や目標が明確になったと報告しています。

また、卒塾後の道独自の聞き取りでは、保護者の皆様や学校の先生方から、視野の広がりや意識の向上など、全員から成長を感じられたとの声をいただきました。

受講生達が今回のリーダー塾での経験を糧に、今後、北海道や世界中でどのような活躍を見せてくれるのか期待しています。

【青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ】

参加した塾生全員が充実した塾カリキュラムの中で自分の将来、日本、世界の事を真剣に考え、自分のなすべきことを実行に移す意欲を高めたようです。

合宿期間中は全国の塾生と実際に交流したことにとっても刺激を受けたようでした。塾終了後に提出された感想文では、切磋琢磨した仲間の大切さと、これからの自分の将来について、またその具体的な考えと行動へ向けた決意など、前向きな言説が多くみられました。

保護者の感想でも、仲間から刺激を受け、視野が広がり、新しいことにチャレンジしようとしている様子を見て、塾へ参加できたことへの感謝の言葉が多くみられました。



事前研修会の様子 (提供：青森県)



壮行式の様子 (提供：青森県)

【岩手県 教育委員会事務局教育企画室】

事前研修会では、英語スピーチによる自己紹介、卒塾生からの力強いメッセージ、グループディスカッションを通じて仲間意識の高揚や参加意欲の向上を図ることができました。

出発日には幾分緊張感を漂わせながらいわて花巻空港から出発していった高校生たちでしたが、最終日の仙台空港出迎えの際には、一転、研修をやり切ったという充実感と自信に満ちた表情に変わっていました。帰路でも未来への希望や夢を熱く語ってくれた高校生たちの成長ぶりに、本塾が持つ力を感じたところです。

運営事務局におかれましては、コロナ禍の中、今年度もオンライン参加を働きかける等配慮しながら、未来を担う高校生たちのために最善を尽くしていただきました。今後も、魅力的なカリキュラムを企画いただきますようお願いいたします。



事前研修会の様子（提供：岩手県）

【静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課】

リーダー塾での経験は、参加した高校生にとって、非日常の環境下で、自分自身の将来につながる刺激的かつチャレンジングな経験となりました。

本県が実施した塾生を対象とした事後アンケートでは、「自らの視野が広がった」「多様な考えを受容できるようになった」「批判的思考を身につけられた」「将来の選択肢が増えた」などの声が寄せられ、一流の講師の講義から得られた知見や、答えのない問いに共に取り組んだ全国の仲間との交流を通して、自分自身の価値観の進化や変容、複眼的・批判的な思考力の向上など、自らの成長を確実なものとして実感したようでした。

また、保護者からは、「コロナ禍で多くの我慢を強いられてきた青春時代を、リーダー塾で過ごした2週間で凝縮して取り戻す機会となった」との声も頂きました。

貴塾の取組が未来を切り拓く子どもたちの財産となるよう更なる発展を祈念いたします。



事前研修会の様子（提供：静岡県）

【岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、感染防止対策への参加塾生及び保護者の方々の御理解と御協力、事務局職員の皆様の並々な御尽力により、全ての日程を実地で開催することができましたことに心から感謝申し上げます。

参加初日には緊張した面持ちであった参加塾生も、全ての日程を終えて空港に帰着した際には、互いに別れを惜しみながらも達成感と充実感に満ちた表情に溢れ、一回りも二回りも成長した姿を見ることができました。

事後のレポートでは、参加塾生から「経験を生かして、高い志を持ち努力していきたい」「考え方が大きく変わり、自分の世界が広がった」などの感想が多く寄せられ、保護者の方々の感想からは、塾への参加を通して成長した我が子の姿に喜びを感じておられる様子が伝わって来ました。

今後の学校生活や将来の進路において、塾への参加を通して得られた知識・経験、そして卒塾生同士の繋がりを生かしながら、それぞれの立場でリーダーシップを大いに発揮し、より一層活躍されることを期待しています。

【和歌山県 教育庁教育総務局総務課政策管理班】

当県では、長期総合計画の教育分野における将来像を「未来を拓くひとを育む和歌山」とし、「知・徳・体」をバランスよく備えた人材を育成すること等を教育の目的としています。「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣は、その一環として実施されています。

参加した受講生からは、リーダー養成塾に参加したことで自分の世界が広がった、将来の夢を明確に持つことができたという感想があり、生徒にとって貴重な経験となったと感じています。受講生たちには、リーダー養成塾で得た経験や知識、人との繋がりをこれからの学習や人生に生かし、当県や日本の次世代リーダーとして成長してくれることを期待しています。

【愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課】

愛媛県では、日本、そして世界に通用する人材の育成を目的として、「えひめ高校生次世代人材育成事業」を実施しており、その中で、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣、リーダー養成塾の参加の成果の普及を図る事後研修会及び報告会等を行っています。

リーダー塾参加後、参加生徒からは、「リーダー塾で得られた縁や体験を手放さずに、大切にしていきたい。」「リーダー塾でたくさんのディスカッションを経験したことで、要点を明確に捉え、議論を深める話合いができるようになり、次世代リーダー養成塾での成長を感じることができた。来年度、参加を考えている方に、リーダー塾の存在を知ってもらいたい。」との声が聞かれるなど、リーダー養成塾での成長を具体的に感じている様子がうかがえました。

今後、塾生との絆を大切に、将来の目標に向かって歩みを進められ、世界のリーダーとしてさらに成長されることを期待しています。



事前研修、事後研修（オンライン）の様子（提供：愛媛県）

【福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

このリーダー養成塾は、同じ志を持った全国各地から集まった仲間と学校の授業では経験できない貴重な講義を体験することができ、子どもたちの可能性を引き出すための良い機会となっています。

本年は、事務局のご尽力もあり、全てのカリキュラムを合宿形式で行うことができました。

これにより、塾生たちは、日本や世界で活躍する一流の講師陣の講義に熱心に耳を傾けることができ、また仲間たちとの白熱した議論や語りを通して、充実した時間を過ごしたことがうかがえました。

今後も、次代を担う高校生のため、より良い事業の継続を望みます。



事前研修会の様子（提供：福岡県）

【佐賀県 地域交流部さが創生推進課】

塾期間の途中では、「楽しいけど、大変」と言っていた参加者たちが最終日には口を揃えて「まだ終わりがたくない」と卒塾を惜んでいる姿がとても印象的でした。

卒塾後、佐賀県庁で開催した報告会でも、「将来の夢が明確になった」「自分より遥かに知識や経験を持つ人がいて、刺激になった」「地元である佐賀に貢献したいと思った」など、様々な感想があり、参加者それぞれが大きな刺激を受けたようでした。

入塾時には、「日本」や「世界」を目指していた塾生が、塾修了後は地元にも目を向け、「地元佐賀に貢献したい」と話している姿も印象的でした。

佐賀から日本、そして世界で活躍する人財の育成に引き続き期待しております。県としても、卒塾生たちが将来活躍する中で、佐賀県につながりを持つ人が1人でも多くなればと思っています。



事前研修会、報告会の様子（提供：佐賀県）

【福岡県宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係】

新型コロナウイルスの感染状況が心配な中での開催となりましたが、事務局やスタッフの皆様が一生懸命実施できる方法を考えられたことで、無事に開催することができたかと思います。

参加した高校生たちは、幅広い分野で活躍する講師方の考え方や仕事内容を学び、学生同士のディスカッションを繰り返し、深い学びを体験することができたように思いました。

この経験や人脈を生かして、今後の活躍につなげ、日本を代表するリーダーになっていただきたいと思っています。

【沖縄県うるま市 経済産業部商工労政課雇用推進係】

例年同様、本市からはうるま市推薦枠として高校生 2 名が塾に参加させていただきました。事後研修の際に「塾に参加したことで留学をすることを決めた」と 2 人から報告があり、塾での体験が進路に影響を与え、更に視野を広げたいという向上意欲に繋がったようでした。

また、なかなか意見がまとまらず煮詰まってしまうクラスが暗い雰囲気になってしまったとき、ユーモアをもってクラスの雰囲気を和らげたクラスメイトを見て、こういうリーダーの姿もあるのだと同年代の高校生からも学ぶことは多かったとの感想もありました。

リーダー塾は、一流の講師陣から貴重な講話を聞くことや異文化交流など日常では味わえない体験ができることが一つの醍醐味ではありますが、同世代の学生や学生リーダーの先輩方と実際に一緒に過ごし関わり合いながら感じ学び得る部分も大きいのだと思います。

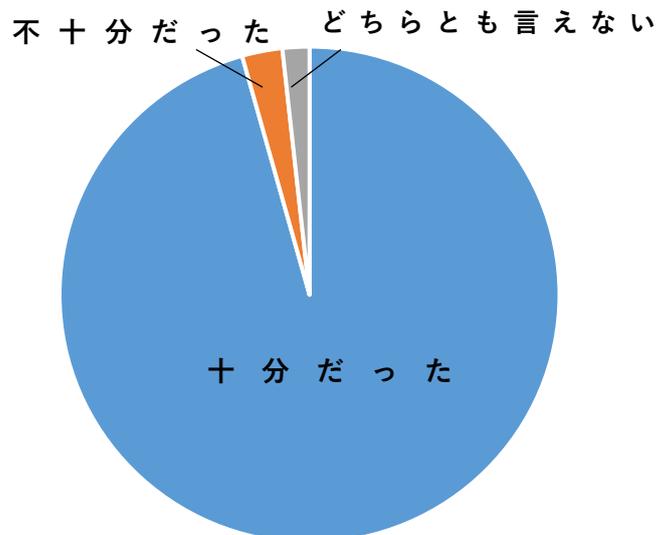
今後も仲間との絆を大切に、世界に羽ばたく人材としてさらに成長していくことを期待しています。

塾終了後に、講義に関するレポート・アンケートを実施した。報告書では主な設問を掲載する。
 レポートは塾生140名のうち127名(90.7%)、アンケートは115名(82.1%)が回答。

？ 塾開始前からの感染症対策は十分だったと思いますか？

十分だと感じた理由

- ・手洗いうがいやマスクの着用などの基本的な感染予防を徹底することができた。
- ・2週間前から Google フォームでの体温の確認が徹底されていたから。
- ・事前の PCR 検査と当日の抗原検査をしたことで感染の拡大を防ぐことができたと思うから。
- ・しっかりと検温や消毒をし、2週間前からは不要な外出を控えていたから。
- ・規則正しい生活をする事ができた。



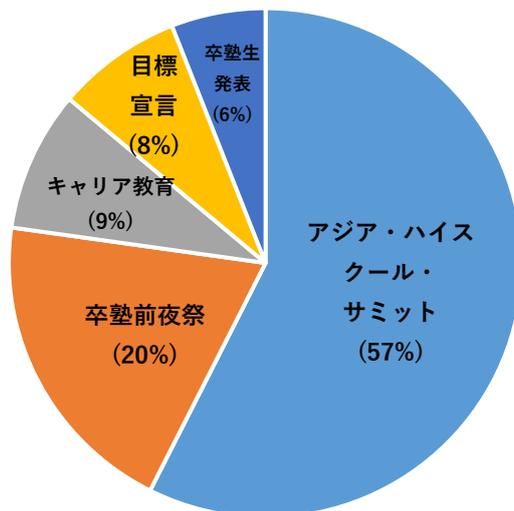
不十分だと感じた理由

- ・事前の PCR 検査は意味がないように感じた。授業を休んでまで検査場にいったので大変だった。
- ・事前に体温の報告を忘れてしまうことがあった。

？ 興味深かったプログラム (複数回答可)

※アンケート集計上位5つを記載

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. アジア・ハイスクール・サミット | 57% |
| 2. 卒塾前夜祭 | 20% |
| 3. キャリア教育 | 9% |
| 4. 目標宣言 | 8% |
| 5. 卒塾生発表 | 6% |



アジア・ハイスクールサミット	合宿が始まってから、ずっとやってきたプログラムでアジアハイスクールサミットでの議論を通して、多くのことを学んだりクラスで一つになったり取り組んだことが本当に幸せな経験だったから。
	今まで本気で考えたことがなかった、戦争を無くすということについて、志の高い人達と真剣に考えたことにより、課題解決のために必要となる姿勢や、その思いを人に伝えるためのプレゼンテーションの仕方など、学んだことが一番多いと感じたからです。
	時には言い合いになったこともあったけれど、クラス全員で2週間話し合い解決策を完成させることができたから。クラスの仲を深めることができたはじまりはAHSだと思う。
	今まで友達とぶつかり合うほど平和について真剣に議論したことはなかったし、学校行事などでもクラスとして一位を取ったことがなかったことから、AHSはとても印象に残りました。

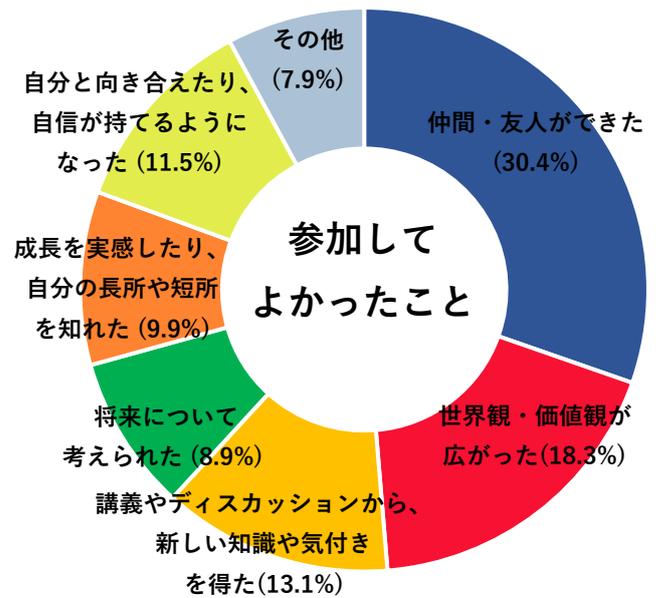
	<p>2週間かけて、クラスで切磋琢磨して行っていたことなので1番印象的だった。AHSをする中で、クラス内で衝突があったが、それをきっかけとして意見を素直に言える雰囲気が出た。そのおかげもあってか、より団結力が上がり、最後まで妥協案に逃げるのではなく追求し続けることが出来た。AHSを通して、ディスカッションの楽しさを知ることができ、より良い意見にしていくための方法を学ぶことが出来た。私の中では、大きな収穫となった。</p>
卒塾前夜祭	<p>やはり、みんなとワイワイ騒ぐ時間が一番好きでした。自分の思いを話したり、パフォーマンスをしたりと、みんなの違った一面をみられてとても楽しかったです。</p>
	<p>やはり、みんなとワイワイ騒ぐ時間が一番好きでした。自分の思いを叫んだり、パフォーマンスをしたりと、みんなの違った一面をみられてとても楽しかったです。</p>
	<p>今までピリピリしていた雰囲気も、一瞬にして明るくなり、関わりのない塾生のことも知れる良い機会だったと思ったから。</p>
	<p>空気についていけないこともあったが自分達に楽しんで貰えるようカメラやマイクなど調整をしてくれたことが嬉しかった。</p>
	<p>みんなの新たな1面を見ることができて非常に楽しかったから。普段あまり笑顔を見せないクラス担任の先生や学生リーダーもニコニコしていて心が温かくなったから。</p>
	<p>クラス関係なくみんなで盛り上がり、とても楽しめたからです。明日でリー塾が終わる寂しさを抱えながらのイベントで最後の時間を必死に楽しみたい思いと、リー塾後どのように過ごしていくか自分と向き合う時間にもなりました。未成年の主張がとても印象に残っています。</p>
キャリア教育	<p>今後の自分の人生に活かしていきたいことをたくさん教えてもらったからです。「全てに感謝と愛を」。特にこの言葉は、常に自分の心に刻んでおきたいです。</p>
	<p>後半の担任の先生は臨床心理士で、心理学的な部分からコミュニケーションの取り方を教えていただきました。今まで知らなかった思考の仕組みを知ることができ、とても興味深かったので印象に残っています。</p>
	<p>自分が興味のある分野について、知らなかったことをたくさん知ることができたからです。 先生が涙を流しながら「命を大切にしてほしい」というメッセージを伝えてくださったのが印象に残っています。</p>
	<p>プレゼン方面の知識を色々学べたから。 また、それが必ず今後生きていくことだから。</p>
目標宣言	<p>皆の意志の強い夢を聞き、自分も最後に刺激を受けた。</p>
	<p>みんなの目標を聞いたから。 自分の目標を堂々と声に出すことができた。</p>
	<p>初めて目標を人の前で宣言して、頑張ろうと思えたから</p>
卒塾生発表	<p>私たちの先輩が現在どのような道を歩まれているのか、リー塾での学びをどう生かしているのか知ることができたため。</p>
	<p>卒塾生のお話は本当に必要なことばかりでした。印象深かったです。</p>
	<p>卒塾生のお話を聞いて、自分の将来について考えるきっかけになったから。</p>



リーダー塾に参加してよかったこと

※キーワードをピックアップして集計

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ① 仲間・友人ができた | 30.4% |
| ② 世界観・価値観が広がった | 18.3% |
| ③ 講義やディスカッションから新しい知識や気付きを得た | 13.1% |
| ④ 将来について考えられた | 8.9% |
| ⑤ 成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた | 9.9% |
| ⑥ 自分と向き合えたり、自信が持てるようになった | 11.5% |
| ⑦ その他 | 7.9% |



■主な内容

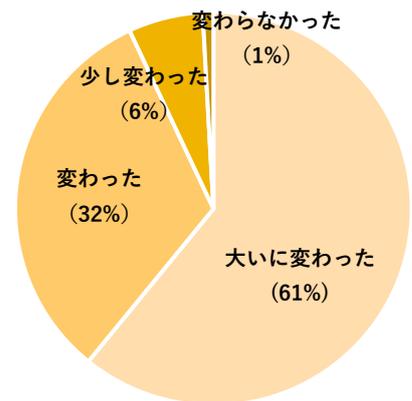
仲間・友人ができた	リーダー塾に参加してかけがえのない仲間をつくることができた。初めは周りの誰も知らない中でこの中でやっていけるのか心配だったが、みんなやさしくて面白く、すぐにこの環境の中に慣れることができた。たくさんの友達を作ることができたが、その中でもクラスの友達は特別となった。
	リーダー塾に参加して最もよかった点は、自分を受け止めてくれる友達をたくさん作れたことである。地元の学校では出る杭として見られていた自分の個性を、一つのアイデンティティとして受け止めてくれた友人たちがたくさんいて、自分に自信が持てた。
	どうやって大小様々な問題を解決するか、みんなで考えたことが1番印象に残っている。そのおかげで、2週間しか過ごしていない仲間とは思えないほど仲良くなれたと思う。
	仲間と一緒に全部乗り切れたこと、みんなとだったら何も怖くなかったこと全てが思い出です。人は人の中で活かされると思いました。1人だとできないことも、みんなとだったらなんでもできる、そんな思いを経験させてくれたリーダー塾には感謝しても仕切れないうです。また1からみんなと一緒に過ごしてやり直したいです。一人一人との会話や出会い全て一生忘れません。
	同じクラスの友達とは進路の話や、哲学の話が消灯前の時間にしていました。自分と話が合う友達ができ本当に幸せです。また、学びへの意識が高まりました。リーダー塾のなかで、自分の知識不足を痛感する場面が何度もありました。悔しい気持ちから、学びへの意識が高まりました。
	一番大きなことは、一生の仲間に出会えたこと。学校の友達とは話せないこともリーダー塾の仲間なら話せる。真剣に話して、時にぶつかることはあっても、また笑い合う。そんなお互いから学ぶことのできる素敵な仲間と出会えたことが一番の宝物だ。
	リーダー塾に参加して、自分とは全く違う意見を聞いて、刺激を受け、自分の選択肢の幅を広げることができました。いろいろなことに興味を持つことができ、新たな自分の可能

<p>世界観・価値観が広がった</p>	<p>性に気付くことができました！</p> <p>多角的に物事を考えられるようになった。地域や世界に興味を持つようになった。新聞を読むことがとても楽しいと感じるようになった。</p> <p>リーダー塾に参加して良かったと思ったことは自分の視野が広がったことです。私よりも物知りで賢い人ばかりの中で生活ができて、知らなかったことをたくさん知れました。なにより自分が無知であることを知れたことが1番の収穫だと思います。もっと勉強や本を読んでいろんなことを知りたい、いろんな場所について自分の目で見たいと思いました。</p> <p>リーダー塾に参加してよかったことは、講義や全国から集まる高い志をもつ仲間との対話を通して様々な価値観に触れ、自分の物事に対する視野を広げることが出来たことだ。</p> <p>講義の内容をどんどん吸収して活発に議論する姿に刺激をうけました。また、将来の目標や夢をハッキリと語るひとが多く塾生同士で学ぶ機会もありました。</p>
<p>講義やディスカッションから新しい知識や気付きを得た</p>	<p>「周りを見る」ことの大切さを学びました。周りを見ると違う意見を持っている人がたくさんいることに気づきます。その中には人に合わせている人もいます。その人のその人自身の気持ちをどう引き出すか、どう寄り添うかが重要であると学びました</p> <p>今まで私はディスカッション会に参加していたのですが、その時は全員が互いを尊重し合い、全員が納得できるような意見を考えていたので困難はありませんでした。しかし、リーダー塾でこのようなことを初めて体験したことで今自分は何ができるのかを考え行動できたので、リーダーに必要な要素を自分で見つけることができました。</p> <p>意見のぶつかり合いで話が前に進まない時は、一度冷静に考え直しみんなでも確認を行うことが重要であるとリーダー塾で学ぶことが出来ました。</p> <p>多様な分野のプロフェッショナルの方からのお話を聞き、それぞれの視点から「コロナ」や「戦争」がどう見えていたのか、また「リーダー」に対する捉え方を知れたことです。</p> <p>グループディスカッションなどを通じてリーダーシップを臨機応変に使い分けることが重要だと身をもって学べた。</p>
<p>成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた</p>	<p>周りの受け入れてくれる姿勢から、失敗を恐れることが減り、自分を一番に信じて行動できることが増えた。自分の人生を他人の評価だけで生きていくことをやめようと思えた。今まで様々な人の話を聞いてきたり、本を読んできたりして、周りを気にするなという言葉が耳にタコができるほど聞いてきたが、リーダー塾に参加して初めてその大切さを実感したと共にそういう自分に近づけたと思う。</p> <p>今までの自分は人の意見に疑問を持たずにすぐに人の意見に賛成してしまう、人の意見に流されてばかりでした。そんな自分をリーダー塾は変えてくれました。塾ではしっかり相手の意見に疑問を持ち、自分の意見をしっかりと持つことが出来ました。</p> <p>2週間これから社会で生きていく上で大切なことをたくさん学ぶことができたと思います。例えば、時間の管理です。リーダー塾では学校のようにチャイムによって時間を管理されているわけでもないのに、何時にどこで何があるかをしっかり把握するというタイムマネジメントの難しさを学びました。他にもメモを取るという事の重要性や仲間と協力することの大切さ、楽しさに気づくことができたことが良かったです。</p>

自分と向き合えたり、自信が持てるようになった	自分という存在を客観的に見ることができました。リーダー塾に参加する前は、自分についてよく分かっていませんでしたが、この 2 週間で自分の得意なこと、苦手なことを改めて知ることができ、これからどうしていくべきかを知ることができて良かったです。
	「自信」と「きっかけ」をもらえたことだ。自信を持とうと思っても実感することができていなかった私に、講師の方々は努力ややってきたことは報われているんだと教えてくれた。講義一つ一つに探究してみたいと感じさせてくれるきっかけが散りばめられていた。
	志の高い人がたくさん集まっていたおかげで、自分ももっと頑張ろうという気持ちになった。自分が意見を言ったり、みんなを束ねていったりすることに対し、私がやっていいのかなと不安に思うことがあったが、この塾を通して、私も自分なりのやり方でできるかもしれない、実際にやってみたいと思えるようになった。
その他	地元では関われないようなたくさんの方々と関わることが出来たことです。県によって方言などが違いとても楽しかったです。

❓ 塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	61%
変わった	32%
少し変わった	6%
変わらなかった	1%



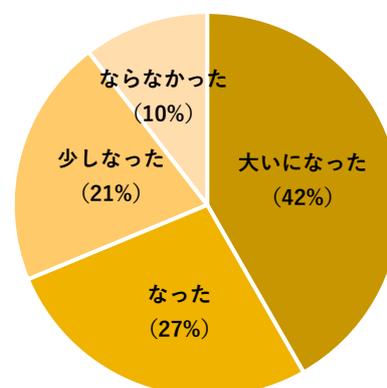
■ 主な内容

視野が広がった 社会・世界に興味を持った	考え方の幅が広がり、自分だけの目線で見ずに多角的な視点で物事を見れるようになった。また、さまざまな活動に興味を持って取り組めるようになった。
	今まで自分がやりたいことは特定のことに絞られていましたが、色々な面白い世界を知ることができたことで、もっと可能性を広げてみたいと感じることができました。
	リーダー塾後の自分は世界規模で客観的に物事を見ることができるようになり、興味が無かった分野でも学んでみようと思えるようにもなった。
	物事を捉えるときに、今までは自分の身の回りや大きくても国内単位で考えることがほとんどだったが、リー塾後は世界単位で考えられるようになった。
	日本について、またアジアについて関心を持つようになり、理解しようとするようになった。また、世界情勢を知るため日本と他国のニュースと見比べるようになった。
	今までならできないとすぐに諦めていた事にも、今こんなに応援してくれる仲間がいる私ならできるかもしれない、と挑戦しようという気持ちになれるようになった。

	自分の将来について、現実的に考えていましたが、大きな夢を堂々と語る仲間を見て自分のやりたいことについて考えるようになりました。
自信がついた・ 周りの目を気に しなくなった	志が高い人が多いと感じたけれど、皆私と同じように悩んでいて、悩むことが苦痛にならなくなった。知識や教養がまだ足りないと感じたため、本を前より読むようになった。
	より視野が広がったし、高い志を持つ人と交流することで、自分も刺激された。また、リーダー塾で得た知識は自分の身になり、志高い目線で物事を見れるようになった。
	自分のままで良いと思えるようになったリー塾では様々なリーダーに会い、自分のままでいい、むしろ自分の個性を大切にすることが理想のリーダー像だと思った。
	今までなんとなく受け入れて実行していた物事にも何か理由があるのだと考え、その理由を明確にしてから目標を作って行動するようになった。
	将来の夢について深く考えることができたので、少し夢が変わったように思う。
将来の夢、 リーダー像	チームのメンバーに適した役割を与えることが重要であり、その人に合ったサポートをすることが大事だと聞き、自分だけで考え込むのではなくたくさんの人と協力し合いたくさんの視点で物事を見るようにしたいと思うようになった。
	人との関わりが苦手なので、他者との協力を煩わしく感じてしまうことがあったし、自分の好きなようにやりたいと思うこともあった。しかし、AHSでの取り組みを通じて、衝突を乗り越え多くの人に関わって生まれるアイデア・提案の豊かさ、堅牢さは、一人で生むものの何十倍にもなることを知った。今後は、他人と衝突することを恐れて一人で作業するのではなく、その先にある成果を見据えて仲間を巻き込んで動いていきたい。
	今までは人前に立ったり発表することがすごく怖かったのですが、積極的に参加できるようになりました。また、教育に興味を持つようになりました。
議論の仕方	チームのメンバーに適した役割を与えることが重要であり、その人に合ったサポートをすることが大事だと聞き、自分だけで考え込むのではなくたくさんの人と協力し合いたくさんの視点で物事を見るようにしたいと思うようになった。

参加後、やりたいことが明確になりましたか？

大いになった	42%
なった	27%
少しなった	21%
ならなかった	10%



■主な内容

エネルギーや機械工学にも新たに興味を持つようになり、自分のやりたいことの幅を広げられたと思う。
世界中の色々な国に行って、さまざまな環境を自分の目でみたいという思いが明確になった。

<p>参加することによって自分になりたい夢を見つけることができました。</p>
<p>大学で研究したい内容が定まり、それを活かして国際 NGO や国連で働きたいと思った。</p>
<p>リーダー養成塾参加後、世界で活躍できるような医師になりたいと思うようになりました。</p>
<p>今までは、安定した職業に就きたいと漠然とした目標で将来のことを考えていたが、明確な目的を掲げて将来について考えている人達に触れて、本当にやりたいことを探してみようと思った。</p>
<p>将来発展途上国に行って 1 人でも多くの母子を救える産婦人科医になる。</p>
<p>将来の夢がぼんやりとしていたのですが私はメディア学について学びたいのだという事に気づきました。</p>
<p>私は将来、服飾を通して世界の人にときめきを届けたい。また、自分の地元である登別市にも何らかの形で貢献したいと考えている。</p>
<p>国境なき医師団の方の話聞いて、佐賀だけでなく世界にも貢献できる医者になると、やりたいことを明確にすることができました。</p>
<p>世界を舞台に活躍する講師陣の方たちの講義により、自分の可能性を見出すことができました。</p>
<p>興味の対象や心に響いて頭で考える事が増え、逆に将来の夢に迷うようになった。だが、誰かの心を助けるという事は共通している。</p>
<p>大学で法学部に入りたいということはもともと決まっていた。大学に入って何を学びたいのかや将来何になりたいのかを考えることが増えた。裁判官になりたいという夢を叶えるために、今はまず勉強と教養をつけることをしようと思う。</p>
<p>以前考えていた職業ではなく、別の職業で社会貢献に携わりたいと思った。</p>
<p>世界で活動したいとぼんやりと考えていただけでしたが、今は世界を繋ぐ人になりたいと少し具体的に考えられています。</p>
<p>海外についてだけでなく日本の中のことについてより深く知り、今の日本の課題が見えたため、日本に貢献できる人材になるためにどんな道へ進めばいいのか深く考えるようになりました。</p>
<p>私はリーダー塾に参加する以前、自分に自信がなく、漠然と目指していた将来やりたいことも諦めてかけていた。しかし、リーダー塾で学級委員になることで自分の知らない一面を多く知ることができた経験から、自分に自信を持つことができ、諦めないの大切さを学んだ。今後の人生でも、それを忘れず挑戦し続けることで、自分の夢を必ず叶えたいと思った。</p>
<p>大学で留学して世界の文化について学び、将来は国際関係の仕事について、世界のために貢献したい。</p>
<p>参加する前は、国境を超えて困っている人を助けたいというアバウトな目標だったが、参加して、発展途上国などの現実を知ることで、飢餓や教育の両方に対応できるような取り組みをしたいという少し明確な目標を持つことができるようになった。</p>
<p>もともと社会科学系の分野が好きだったが、その中でどうするのか迷っていた。だがリーダー塾で将来の夢を聞かれる機会が何度もあり、その中で経済で世界を変えようと心に決めた。講師の先生方、仲間の志の高さに感化され、夢は大きく持とうと思えた。</p>

資料② 保護者・学校アンケート調査結果

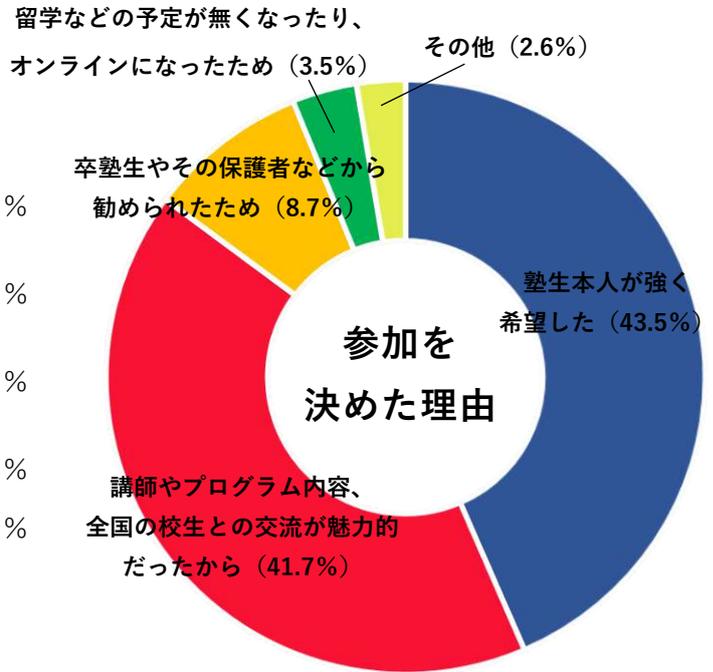
卒塾してから約1ヶ月後、140名の19期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。保護者は102名から（72.9%）、学校の担任教員は86名から（61.4%）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

保護者アンケート

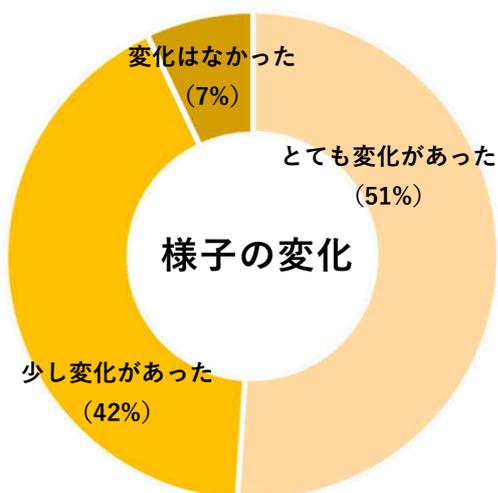
参加を決めた理由（複数回答可）

※キーワードをピックアップして集計

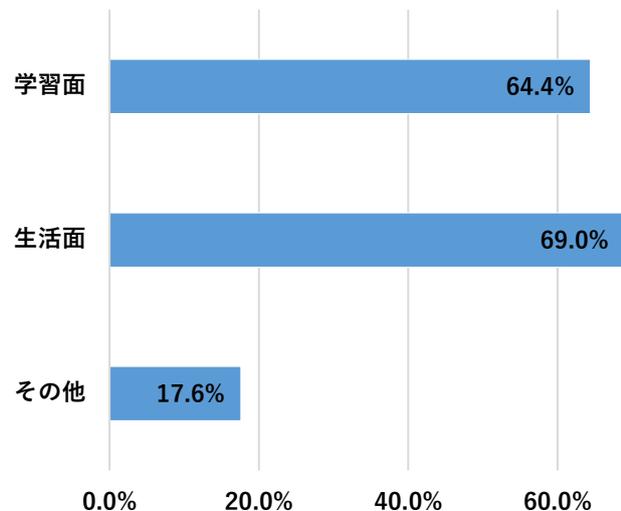
- ・ 塾生本人が強く希望した 43.5%
- ・ 講師やプログラム内容、全国の校生との交流が魅力的だったから 41.7%
- ・ 卒塾生やその保護者などから勧められたため 8.7%
- ・ 留学などの予定が無くなったり、オンラインになったため 3.5%
- ・ その他 2.6%



❓ 塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



❓ 「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか？（複数選択可）
※各項目ごとに選択された数を



■主な理由

学習面	以前に増して様々なことにチャレンジしているようです。ジェンダーの問題や障害者や貧困等の問題に自分達が何をどうすべきか考えたり、地元の特産品他県や海外にアピールするにはどうしたらよいかなど、やりたいことが次々とあり忙しい毎日を送っています。
	自信がついたり、外に目を向けるようになり、地域参画など積極的に参加している。
	学習面では以前はテスト週間だけの勉強でなんとなくそれなりの成績で満足してましたが、大学生になったら留学をしたいという希望が出てきたので、学習時間が増えました。
	学習に取り組む姿勢がより意欲的かつ積極的になり、生活などの面も含め挑戦しようという意識が高くなったように感じる。
	自分の将来や進路を深く考え、毎日目標を立て一生懸命努力するようになりました。
	もともと生徒会活動などに積極的だったが、さらに積極的になり、社会問題についてもより関心を持っているようだ。たまに卒業生とオンラインでグループミーティングをしている。
生活面	生活面ではリーダー塾で知り合った他県の方に会いに行ったり、学校紹介のプレゼンに立候補したり、積極的に行動するようになりました。
	自信がついたり、外に目を向けるようになり、地域参画など積極的に参加している。
	気持ちがすごく前向きになりました。自分たちは、何でも挑戦できるんだと言うポジティブな気持ちと、強い意志を持って行動するようになったと思います。
	行く前は自分の環境に満足していない様子だったが、様々な出会いをして、自分のことも肯定できるようになったようです。
	家事の手伝いをするようになったことや、生活のリズムを自分自身で作れるようになった。
	自分の考えを持たず、臨機応変ができなかったことに対し、しっかり自分の考えを持ち臨機応変に動けるようになった。
その他	今までの目線や価値観で物事をとらえるのではなく、様々な視点から物事を考えることができるようになりました。
	学校での活動（生徒会への立候補やコンテストへの参加など）に、以前は見てるだけのようでしたが、夏休み以降積極的に参加するようになったようです。
	参加直後に文化祭の準備をしていたが、リーダー塾で教えてもらったコミュニケーションをうまく使って自分達の出し物を優勝させた。
	自分の進みたい道がはっきりとしてきたことにより、三者面談でも担任の先生にしっかりと進路希望を伝えることができました。

■お子様の感想で印象に残ったこと

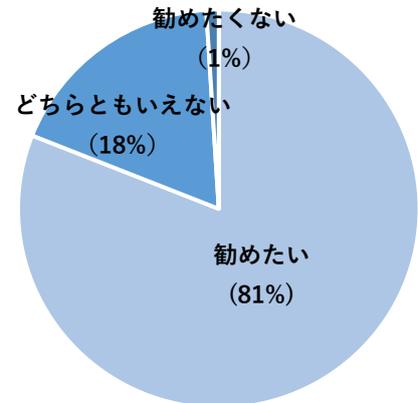
コロナ抗原検査が出発当日陽性になり、前半は zoom 参加でしたが、途中参加した娘を同じグループの方々がいかに気遣ってくれたか、優しく話を繰り返して話して、途中からでも参加できて良かったと思いました。
色々な事に後ろ向きだった娘に「行かせてくれてありがとう」と言われたこと。家族に感謝する気持ちが芽生えたこと。
自分は視野が狭いと思った。世界は知らないことだらけ。待っていてもだめだね。」全国から集まった高校生に刺激を受けたようです。
よく学生リーダーからのアドバイス等を生活の中で話しています。前を進んでいる大先輩の言葉は、素直に心の中に伝わっているようです。
将来について不安そうに過ごしていたが、リーダー塾参加後は、明確な目標ができたのか、気持ちが落ち着いており、芯がある人間になった。
ご指導下さる先生方の考えや言葉が、本当に素晴らしく刺激をもらったようで、自分もそのような人になりたいと話していた事が印象に残っています。
最終日に英語でスピーチをしたと話してくれた事。緊張して上手く話せるか自信はなかったが思い切ってやってみて良かったと話していました。

様々な講師や学生リーダーさんとの対話の中で、多くを学び、いろんな人の意見について、あの人はこんな風に考えている、あの人の考えはすごい、あの人の発想はすごいと多くの人の意見について、目をキラキラさせながら教えてくれました。自分の意見も認められて、みんなに出会えたことが宝だと話していました。



他の保護者または高校生に参加を勧めたいと思われませんか？

勧めたい	81%
どちらともいえない	18%
勧めたくない	1%

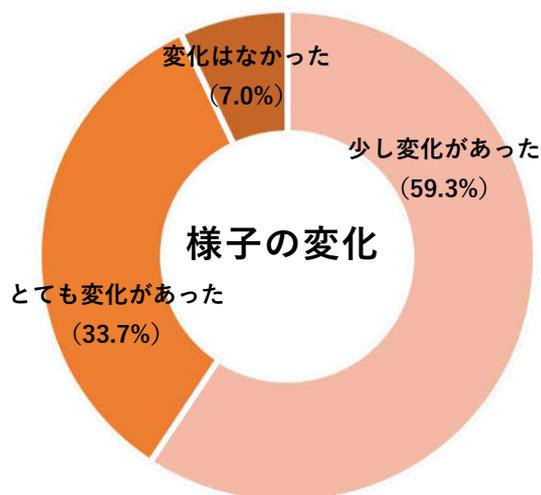


■主な理由

子供の特性によるとは思いますが、スマホのない2週間を過ごすことや他者とのディスカッションを思い切り経験することができるため。
普段、コロナ禍でもあり学校でディスカッション等の機会が少ないので、貴重な体験ができると思います。
普段の学校生活、友達付き合いとは全く別の世界に触れる良い機会であり、プラスの経験になると感じたからです。
同年代のより意欲的で挑戦的な生徒達が集まることで、参加者本人の成長意欲が高まると考えられるため。
参加した本人が、「本当に参加して良かったし、みんなに勧めたい。」と話しており、実際に娘の成長を見てそう感じました。
たくさんの人達と会うことの出来る機会は、普通に生活している中ではなかなかないので貴重な経験。1つのテーマについてとことん話し合いをする事で、他の人との考え方の違いがわかったり自分の考えがどうなのか再確認できる事がいいと思うので勧めたいです。
意識の高い仲間と、一流の講師の授業を受けることは特別な体験だと思うので。
そのような刺激的な体験が、子供の今後を変えていくと思います。
地元にいれば、経験が出来ない2週間です。最高の講演に、生活環境の違う仲間と話し合い、一緒に生活する機会は、気持ちを高める経験に繋がると思います。
参加後から子供の視野が広がっているのを感じます。また塾後もお友達と良い関係続いているようで交友関係が広がっていると思います。
目には見えない、成長を感じられます。まだまだ結果には遠いかもしれませんが、彼には確実に塾での2週間が、人生を変えたと思える日が来る事と思っています。
学校の勉強から離れ、デバイスも手放して、仲間と必死に議論して課題に全力で向き合うことができる2週間は、心の成長を促すと感じたからです。
普段聴くことが出来ない、様々な領域で活躍されておられる方々のお話が聴ける貴重な機会。AHSも目玉！全国から集まった志ある仲間と協働する時間は、沢山の刺激や新たな視点を与えてくれると思います。
沢山の人の出会う事、話すことは素敵な事だと思います。なので、沢山の人の経験をして欲しいです。

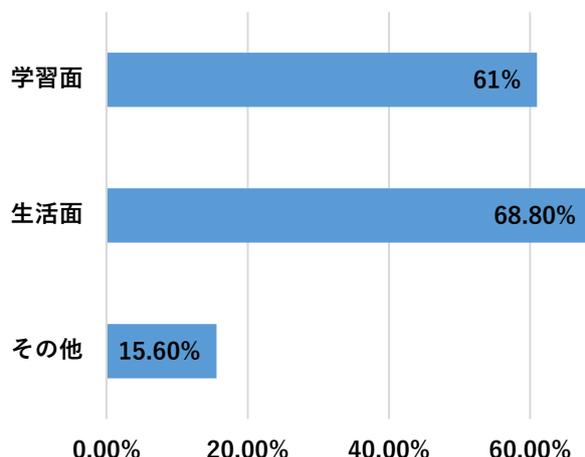
学校の担任教員へのアンケート

❓ 塾参加前と参加後で生徒の様子に変化がありましたか？



❓ 「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか（複数回答可）

※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と回答した人数で割った



■主な内容

学習面	内容
	以前より学習意欲が増した。(多数)
	中学時代から学校行事や生徒会活動に積極的でしたが、さらに視野を広げて活動しているように思います。運動部での体力強化、学習時間と内容の増加など、ますます積極的に取り組むようになりました。
	語学学習のモチベーションが向上し、韓国語検定を受験するに至った。
	以前から社会課題に関心の高い生徒であったが、さらに英語運用能力を高めたいという意識が高まったように思われる。
	元々能力の高い生徒ですが、目的がわからないと力を発揮できない傾向が強かったです。特に勉強面で「なぜ学ぶのか」に対する自分の答えが見つからず、勉強が手につかない場面がありました。ですがリーダー塾の経験を積んで各地の頑張っている同世代から大いに刺激を受け、進路も含めて少しずつ自分で学ぶ意味を見出しつつあると感じています。生活面ではコミュニケーションの上で、視野を広げて相手の個性や背景も含めて考えられるようになり、少し寛容になったかなと感じます。
	学校をよりよくしたいと後期生徒会長選挙に立候補し、プレゼンでは的確に自分の目指すものを主張できていた。
	学校行事やクラスでの話し合いなどで積極的にまとも役などを引き受けることが増えました。
	元々素質はあったと思いますが、自分もリーダーとしてできることはないかと考えたり、将来の選択についてもより自発的に考えられるようになったと感じています。
	もともと好きなことには積極的な生徒でしたが、各分野の第一線でご活躍されている講師の皆様、また志の高い同年代の生徒の皆様に刺激をもらい、苦手なことも含めて何事にも前向きに考え、取り組むようになったと感じています。
	同年代の生徒、先生との出会いがとても刺激になったようで、物の見方・考え方に幅が出てきた。
	読書量が増えた。

生活面	生徒会長、生徒会執行部などに立候補した。(多数)
	参加させていただく前も積極的に取り組む生徒だったが、参加後は、行事の後片付けなどのうらかたの仕事も非常に積極的に進んでするようになりました。
	周りにより積極的に前向きな発言をするようになり、自らの考えも臆せず言えるようになりました。
	以前にも増して、全体を見ながら、他者と協力する姿が多く見られた。
	参加生徒が所属している部活動で、後輩を引っ張りリーダーシップを発揮する姿をよく目にするようになった。
	学校をよりよくしたいと後期生徒会長選挙に立候補し、プレゼンでは的確に自分の目指すものを主張できていた。
	協調性が以前より出てきた
その他	以前は自分のやりたいことと学校でやらなければならないことのギャップに悩んでいた。しかし、リーダー塾に参加して、両者を統合して自己の成長につなげようという意識が出てきた。リーダーとして求められる資質というものに関して思うところがあったようで、生徒本人の中でのあるべき姿のイメージが具体的になったようです。
	国際的に貢献したいという夢を抱いていますがいま何に取り組むべきか明確になったようす。
	進路意識が高まり、リーダーシップを発揮するようになりました。社会問題に関心が強まり、その解決に向けた考えに具体性が出ました。
	校外の生徒たちやスタッフの方々とのやりとり等を通して、多様な価値観に触れる事で、さらに大人との関わりに興味を深めたようです。

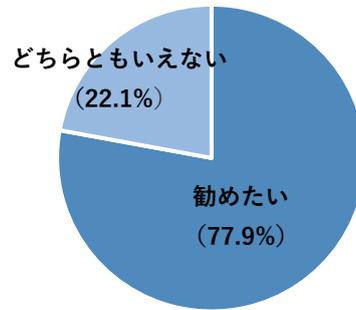
■生徒の感想で印象に残ったこと

「人はそれぞれ異なる意見を持っていて、それを尊重しながら1つの意見としてまとめることが、これほど難しいということに今まで気付かなかった。自分の考えるリーダー像と、求められているリーダー像が異なったときのギャップをどのように埋めたら良いかわからなかった。」と、これまで至らなかった考えを持つようになったことが印象に残った。
全国各地から集まった高校生とのふれあいや講師先生のお話にも、大きな刺激を受けてきたようです。
グループで発表内容を作り上げていくのは大変だったが、結果的に多くの評価をいただけるくらいのもので作り上げることができたと話しておりました。
全国の同級生や海外の人と話をし、考えの世界が広がった。起業をしたいと思っているが、いろいろなアイデアが出てきた、というような話
グローバルに活躍する方々や県外・国外の方々との交流が刺激的だったようです。
頑張れば出来ないことはないと言うことを何度も聞き、自分もそうなのではないかと思った。と頑張る姿勢をはっきり見せたところ。
マレーシア元首相のマハティール氏へのプレゼンについてお話を聞いたことは、特に印象に残りました。また、多くの大学生・社会人の方にロールモデルを示していただき、プログラム終了後にも将来について進路の相談に乗っていただいていると伺っています。
初めはなかなか自分から話すことはできなかったが、他の参加者はもちろん、スタッフの方々のサポートもあり、自分の意見や考えを伝えることが出来た。



他の先生または高校生に参加を勧めたいと思われませんか？

勧めたい	77.9%
どちらともいえない	22.1%
勧めたくない	0%



■主な理由

学校を離れた同世代との関わり合いによって、自分の見ている世界はまだ狭いものであることを認識でき、物事の捉え方に変化を与えることができるから。
学校の中では味わえないような外的刺激が得られて、殻を破るチャンスになる
参加した生徒にとってもとても良い経験となったが、どのような経験をしたのか聞くことで、周りの生徒にも刺激となったように思われたため。
人の意見を聞き、自分の考えをアウトプットし、最適解を見つけようとする取り組みは社会に出ても大切な力だと思うから。
有意義な体験ができる。(多数)
一流の講師陣から学ぶことができ多く、全国から来た意識が高い生徒から多くの刺激を得ることができるので。
学校外での諸活動は生徒の主体性と積極性を育むいい機会と考えるから。
学校の外に出て実際に活躍している方々のお話を聞けること、全国各地から集まる高校生と対話・交流できる機会は、何事にも代えがたいほど貴重なものだと思います。
プログラム内容の素晴らしさや集まる学生たちの意欲など、勧めたい要素はたくさんあるが、費用や生徒の意欲の高まる時期などを考えると、生徒に案内はするが、生徒の自主的な応募に任せたいと考えている。なお、学校全体ではプログラムの案内をしている。
実績があるため。脱スマホで、イマに向き合うためには、本気で環境を準備しないとイケない。実績がないとそこまでできない。よって、実績のあるリー塾を勧めたい。
学校以外のコミュニティーが広がり、広い視点で社会のことや自分自身のことを考える機会になると考えられるため。
学校内では人間関係が固定し、人生の背景が異なる人たちと出会うことが少ないので、異なる背景を持って生きてきた人たちと出会うことが、進路の主体的な選択につながると考えるから。
参加生徒によって感じ取り方は様々だと思いますが、多かれ少なかれ毎年参加した生徒には良い変化が見られます。最近、特にコロナ禍以降、生徒たちの見えている世界（社会）がとても狭くなったように感じています。そして、それを知ろうとしなくなった生徒も多くなったように感じます。そのため、貴塾のように貴重な経験をさせていただくことは、多感な年頃の生徒の価値観を大きく変え、社会貢献のための福祉の精神や、理想を実現させるためのチャレンジ精神などを持つきっかけとなります。その様に感じる生徒を一人でも多く増やしたいと感じるからです。
考える活動を通じて、生徒がやりたいことがよりはっきり見えてきたように感じるから。
全国から集まった同世代といきなり共同生活から始まるというのは非常に興味深いですし、貴重な講演者の方からお話を聞いて視野を広げられるというのは魅力であると感じるからです。
高い意欲をもった他校の生徒との交流を図ることができることや、同じくさまざまな思いや価値観をもった大人たちとともに過ごす時間がこのプログラムではたいへん貴重であると思うから。

資料③ 塾生概要

塾生総数 140名 19都道県+1か国(アメリカ)

○参画道・県・市推薦枠 110名

1	北海道	11名
2	青森県	11名
3	岩手県	9名
4	静岡県	8名
5	岐阜県	6名
6	和歌山県	11名
7	愛媛県	10名
8	福岡県	22名
9	宗像市	6名
10	佐賀県	14名
11	うるま市	2名
計		110名

○一般公募枠 30名

1	宮城県	1名
2	山形県	1名
3	埼玉県	2名
4	東京都	7名
5	神奈川県	3名
6	愛知県	2名
7	和歌山県	1名
8	兵庫県	1名
9	島根県	1名
10	香川県	2名
11	愛媛県	1名
12	福岡県	7名
13	海外	1名
計		30名

資料④ 塾生高校一覧

19都道府県+1ヶ国（アメリカ） 96校

学校所在地	学校名	学校所在地	学校名
北海道	北海道登別明日中等教育学校	兵庫県	私立三田学園高等学校
	北海道幕別清陵高等学校	島根県	島根県立津和野高等学校
	私立立命館慶祥高等学校	香川県	香川県立高松高等学校
	私立札幌聖心女子学院高等学校		私立大手前高松高等学校
	私立北星学園女子中学高等学校	愛媛県	愛媛県立長浜高等学校
	私立遺愛女子高等学校		愛媛県立三崎高等学校
青森県	青森県立田名部高等学校		愛媛県立南宇和高等学校
	青森県立青森高等学校		愛媛県立松山西中等教育学校
	青森県立大湊高等学校		愛媛県立八幡浜高等学校
	青森県立三本木高等学校		愛媛県立今治東中等教育学校
	青森県立七戸高等学校		愛媛県立松山南高等学校
	青森県立八戸高等学校		愛媛県立松山東高等学校
	私立青森明の星高等学校	私立愛光高等学校	
	私立八戸聖ウルスラ学院高等学校	福岡県	福岡県立宗像高等学校
	私立八戸工業大学第二高等学校		福岡県立福岡高等学校
岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校		福岡県立中間高等学校
	岩手県立一関第一高等学校		福岡県立筑前高等学校
	岩手県立福岡高等学校		福岡県立早良高等学校
	岩手県立宮古高等学校		福岡県立城南高等学校
	岩手県立盛岡第二高等学校		福岡県立小倉工業高等学校
	岩手県立岩泉高等学校		福岡県立修猷館高等学校
	宮城県		宮城県立佐沼高等学校
山形県	山形県立寒河江高等学校		福岡県立久留米高等学校
	埼玉県		埼玉県立所沢高等学校
私立西武学園文理高等学校			福岡県立ありあけ新世高等学校
東京都	東京都立富士高等学校		福岡市立福翔高等学校
	私立光塩女子学院高等科		私立明治学園高等学校
	私立国際基督教大学高等学校		私立福岡雙葉高等学校
	私立渋谷教育学園渋谷高校		私立福岡第一高等学校
	私立東京都市大学等々力高等学校		私立中村学園女子高等学校
	国立東京工業高等専門学校		私立筑紫女学園高等学校
	神奈川県	私立洗足学園高等学校	私立福岡女子商業高等学校
静岡県		静岡県立焼津水産高等学校	私立福岡工業大学附属城東高等学校
	静岡県立沼津東高等学校	私立筑陽学園高等学校	
	静岡県立浜松北高等学校	私立東海大学付属福岡高等学校	
	私立静岡雙葉高等学校	佐賀県	佐賀県立伊万里高等学校
	私立静岡サレジオ高等学校		佐賀県立佐賀北高等学校
	私立不二聖心女子学院高等学校		佐賀県立佐賀西高等学校
岐阜県	岐阜県立可児高等学校		佐賀県立武雄高等学校
	岐阜県立岐阜各務野高等学校		佐賀県立致遠館高等学校
	岐阜県立多治見北高等学校	佐賀県立唐津東高等学校	
	岐阜市立岐阜商業高等学校	私立弘学館高等学校	
	私立鶯谷高等学校	沖縄県	沖縄県立開邦高等学校
	私立麗澤瑞浪高等学校		沖縄県立コザ高等学校
	愛知県	愛知県立岡崎高等学校	海外
私立海陽中等教育学校			
和歌山県	和歌山県立向陽高等学校		
	私立智辯学園和歌山高等学校		
	私立開智高等学校		
	私立近畿大学附属和歌山高等学校		
	私立和歌山信愛高等学校		

資料⑤ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿

■クラス担任

クラス	期間	氏名	所属名
1組	前半	福島 雅隆	株式会社ミズ
	後半	野村 智範	三井物産株式会社九州支社
2組	前半	下之門 直樹	立命館アジア太平洋大学
	後半	濱崎 亨	株式会社QTnet
3組	前半	黒髪 彩	立命館アジア太平洋大学
	後半	門脇 朋裕	歴史研究者（日本近世史）
4組	前半	山口 健太	サッポロビール株式会社
	後半	鶴丸 哲也	株式会社アトル
5組	前半	木原 陽介	株式会社正興電機製作所
	後半	重光 咲希	臨床心理士
6組	前半	松久 芳貴	フリーランス（運送業）
	後半	古木 鷹人	学校法人麻生塾
7組	前半	左座 大樹	株式会社ふくや
	後半	野中 美希	フリーランスカメラマン

■学生リーダー

クラス	氏名	所属校
1組	アリ イザット	一橋大学
	マータース 桃音	早稲田大学
2組	田中 英明	松山大学
	李 沐川秀	早稲田大学
3組	河野 佑輔	明治大学大学院
	中谷 愛里亜	北里大学
4組	中西 彩心	University of New Mexico
	溝添 識人	立命館アジア太平洋大学
5組	中山 智貴	早稲田大学大学院
	船山 貫	King's College London
6組	小澤 穂	慶応義塾大学通信課程
	小野 竜士	広島大学
7組	大山 禎心	国際基督教大学
	藤田 百華	西南学院大学

参画自治体	野々村 麻希	北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係主任
	村田 美佳	青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ主幹
	佐藤 裕太郎	岩手県 教育委員会事務局教育企画室主任指導主事兼主任主査
	青井 拓司	静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課主査
	古川 由佳子	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主任
	櫻井 卓馬	和歌山県 教育庁教育総務局総務課政策管理班政策推進員
	福山 幸司	愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課指導主事
	富松 文夫	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課長
	野中 恵子	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画監
	武田 幸治	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画主査
	梯 裕星	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主任主事
	藤田 聖志郎	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主事
	堀岡 真也	佐賀県 地域交流部さが創生推進課長
	江口 里司	佐賀県 地域交流部さが創生推進課副課長
	中村 美和	佐賀県 地域交流部さが創生推進課係長
	中川 雄樹	佐賀県 地域交流部さが創生推進課主事
	早川 ちさと	宗像市 子どもグローバル人材育成担当部長
	田中 純	宗像市 教育子ども部子ども育成課長
	占部 真珠アイリーン	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係長
	新頭 優	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係主任主事
神田 真幸	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係長	
伊藝 祥子	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係会計年度任用職員	
新里 陽菜子	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係会計年度任用職員	
グローバルアリーナ	近藤 勇	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役
	百崎 順二	株式会社グローバルアリーナ 営業部長
	ゲトフ ステファン	株式会社グローバルアリーナ
	吉丸 耕一	株式会社グローバルアリーナ
事務局	加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	平野 良典	日本の次世代リーダー養成塾
	成田 玲央	日本の次世代リーダー養成塾
	バナカ イダマルゴダ	日本の次世代リーダー養成塾 (12期生)
	大家 美希	日本の次世代リーダー養成塾
	市川 智也	日本の次世代リーダー養成塾 アドバイザー
	上野 志保	日本の次世代リーダー養成塾 サポーター
医療関係	今城 紗於里	看護師
	梅野 玲子	看護師

ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)

■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
株式会社アトル
株式会社インスパイア
株式会社 NKB
公益財団法人 オリックス宮内財団
九州電力株式会社
九州旅客鉄道株式会社
株式会社 QTnet
株式会社九電工
国際ロータリー第2700地区
西部ガスグループ
株式会社サニックス
住友化学株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社全教研
株式会社テノ、ホールディングス
株式会社戸上電機製作所
株式会社トクスイコーポレーション
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
株式会社日本政策投資銀行
美巢（エムスタイルジャパン株式会社）
株式会社福岡銀行
株式会社福住
株式会社ふくや
フンドーキン醤油株式会社
株式会社ミズ
三井松島ホールディングス株式会社
三菱商事株式会社
株式会社安川電機
Y A S K A W A 未来クラブ
株式会社ロボカル代表取締役社長 芦川泰彰

■ご協力いただいた皆様

I N ・ C O M株式会社
公益財団法人 AFS 日本協会
北九州市環境ミュージアム
株式会社グローバルアリーナ
佐賀県波戸岬少年自然の家
宗像大社
株式会社安川電機

■助成いただいた皆様

公益財団法人福岡県市町村振興協会



Japan Future Leaders School

日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号
tel 03-5466-0804 fax 03-5466-0842 mail info@leaderjuku.jp
<https://leaderjuku.jp/>

